

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	秋	春	夏	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)			
													1.目的意識をもって精力的に学んだ後、職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。(知識・理解、態度)	2.グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で問題を捉え、その問題解決に真摯に取り組むことができる。(知識・理解、思考・判断、技能)	3.集団の中で状況に応じて自分の役割を意識し、役割遂行に向けて最善の努力を惜しまず、積極的に柔軟性をもった思考力を身につけている。(思考・判断、態度)	4.プロジェクト型の取り組みで企画を創造的に立案し、チームワークを高めることに貢献して目標達成に向けて真摯に努力することができる。(知識・理解、態度)
人文系	LIB-111	哲学・倫理学	講義	2	1		○			四書(大学・中庸・論語・孟子)をとりあげ、儒教の基本的部分について解説し、日本人の考え方や、行動様式に儒教がどのような影響を与えているのかを検討する。	日本人の考え方や行動様式は、儒教の思想が強い影響を与えている。しかし、それは日本の歴史の中で培われ常識化したものであるため、儒教がどのように影響を与えているのか意識したことはあまりないであろう。そもそも儒教についてほとんど知らないという人がほとんどではないだろうか。そこで、本講義では、本学のカリキュラムポリシーに従い、儒教、特に江戸時代に広く浸透した朱子学の基本書物である四書(大学・中庸・論語・孟子)をとりあげ、儒教の基本的部分について解説し、日本人の考え方や、行動様式に儒教がどのような影響を与えているのかを検討する。	(1) 儒教についての基本的な知識を得ることができる。 (2) 日本人の思想や行動には儒教の影響があることを理解できる。	●	◎		
	LIB-112	人間と宗教	講義	2	1		○			日本の宗教 葬祭儀礼を中心として	現在、日本には様々な宗教が混在しており、多くの宗教・宗派を挙げることができるであろう。しかし、案外、忘れられているのは儒教ではないだろうか。儒教は、日本においては、政治制度や倫理の構築などに利用されてきた歴史があり、宗教として認識されることは少ない。しかし、儒教の根底には祖先祭祀があり、それを基礎として倫理、政治制度が構築されているのである。本講義では、本学のカリキュラムポリシーに従い、儒教の宗教的な側面を概説し、儒教が現在の日本に与えている影響について考えることにより、現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身に付けることとする。	(1) 儒教の宗教的な側面に関する知識を得ることができる。 (2) 身近な宗教を知ることにより、宗教とは何か、より深く考えることができる。	●			
	LIB-112	人間と宗教	講義	2	1		○			キリスト教と修道院制度 その歴史と思想	キリスト教世界で発展した修道院制度を中心にキリスト教を取りあげる。修道院を理解することは、キリスト教という宗教・信仰のあり方だけでなく、人間と信仰の関係を、普遍的な視点から考察することで、幅広い視点から物事を判断する知識を修得することにつながる。	(1) 異文化である、キリスト教とそれに関連する宗教に関する基本的なことがらを理解できる。 (2) ヨーロッパ世界で独自に発展した修道院という組織と価値観の変遷と、そこに関わってきた人々の行動や信仰心を、理解できる。 (3) 禁欲的生活を実践する人間の姿を学ぶことで、宗教(信仰)に対して偏見のない態度をとれる。	●			
	LIB-113	文学	講義	2	1		○			幕末明治期の漢詩文を読む	この授業は、カリキュラム・ポリシーに示された現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身につけ、視野の幅を広げるために科目のひとつであり、現代社会を理解するための方法論も習得する。漢詩文では古くから人間社会に関する様々な事柄が詠まれてきた。詩人は目の前の情景に触発され、そこに心境を託して詩を詠み、時には草花を通して歴史に想いを馳せる。その文学的価値は多言を要しない。漢詩文の価値は一見、グローバルな視点や近代国民国家の視点から見えずらいと思われるが、幕末期において、英語の重要性にもっとも早く反応し、対応しようとしたのは、漢学を素養とした人々である。また、近代日本語の成り立ちに多大な貢献をしたのも彼らである。本講義はこうした幕末明治期知識人の作品を取り上げ、漢詩文の静かな佇まいの中に秘められた歴史の重みを感じてみたい。具体的には、幕末の乱世に立つ同志たちの信義、苦境でも信念を貫いた人を詠んだ漢詩から、作者それぞれの生活感を映し出しているものや、明治期「文明開化」の活気づいた様子や情景を描いた作品を紹介する。さらに、東アジアの外交及び人と人との交流場面にも登場している漢詩文を講読し、明治という時代への理解を深める。	(1) 漢詩文についての知識を得て、現代を生きる人間の豊かな人間性を涵養することができる。 (2) 漢詩の表現の美しさと深み、そして詩人の鋭敏な感覚に触れることによって、人格を磨くことができる。 (3) 現代日本の社会的・文化的基盤を理解できる。明治期を体験することによって、自分の内にある固定観念を打ち破り、広い視野で社会や文化を見ることができる。 (4) 時代背景や状況を分析し、文献を読み解く方法を確立することができる。	●	◎		
	LIB-113	文学	講義	2	1		○			近世俳諧の世界	庶民が文化の主役になったのは江戸時代からである。俳諧は現代の俳句にもつながる庶民文芸の代表である。本講義ではカリキュラム・ポリシーに基づき、近世の俳諧文学を通して芭蕉、蕪村、一茶ら俳人たちの作品や生涯に触れる。句に詠み込まれた作者の思いとその背景を読み味わうことで、古来多くの日本人が親しんだ俳諧の魅力と理解し、幅広い視点から物事を判断する知識を修得する。	(1) さまざまな時代の俳人の思想・作品を通じて、柔軟性を持った思考力を身につけることができる。 (2) 世界70か国以上で親しまれているHAIKUの起源を理解し、日本人の思考の独自性を理解することができる。 (3) 気に入った作品の発表・批評の実施により、主体的・創造的な学びを行なうことができる。	●	◎		
	LIB-113	文学	講義	2	1		○			ことばの世界	古来、人は自らの思いを言葉や絵、音楽等に託し表現してきました。優れた作品は幾世代にも読み継がれ、時を経て古典となり、感銘を与えます。本講義では近現代を中心に「ことば」が伝える世界を辿ります。短歌、短詩、詩論、散文などさまざまなテクニクを取り上げます。夏目漱石は英国に留学し、作家となりました。授業では漱石のヨーロッパ体験に触れます。彼らの作品を通して人は何を願い、何を悩み、どう生きたかを探ります。優れた作品に触れ、瑞々しい感性、時代を生きたかを感じ、文学の魅力と再認識します。言語とイメージの関わりを考察します。様々な文学作品を読みながら、カリキュラム・ポリシーの求める、現代人としての不可欠な教養を身につけ、幅広い視点から物事を判断できる力を養います。	(1) 日頃当たり前に用いる「ことば」の表現力、<ことば>が織りなすイメージの豊かさ、<ことば>の生命力と可能性を再認識することができる。 (2) 夏目漱石等さまざまな作家の作品世界に触れ、彼らの作品の魅力と奥深さを知ることができる。 (3) 多様な優れた文学作品に触れることで、深い教養と豊かな国際感覚を身につけ、グローバル社会における問題解決能力を高めることができます。	●	◎		
	LIB-114	心理学	講義	2	1		○			心理学的観点から人間を理解する	心理学初学者が心のはたらきを学び、総合的な人間理解を深めるためのプログラムであり、その目的は以下の4点。 (1)心のはたらきを理解する。 (2)心と行動の普遍性を理解する。 (3)心と行動の多様性と可塑性を理解する。 (4)心理学の社会的役割を理解する。	(1)心のはたらきを実証に基づいて説明できる。 (2)人間に共通する心や行動のパターンを理解し、その一般法則や原理を説明できる。 (3)心や行動の個人差や個人内での変容について説明できる。 (4)心理学的観点からの人間理解が社会に活用されていることを説明できる。	●			
	LIB-114	心理学	講義	2	1		○			“学問”としての心理学を理解する	心理学初学者が心のはたらきを学び、総合的な人間理解を深めるためのプログラムであり、その目的は以下の4点。 (1)心のはたらきを理解する。 (2)心と行動の普遍性を理解する。 (3)心と行動の多様性と可塑性を理解する。 (4)心理学の社会的役割を理解する。	(1)心のはたらきを実証に基づいて説明できる。 (2)人間に共通する心や行動のパターンを理解し、その一般法則や原理を説明できる。 (3)心や行動の個人差や個人内での変容について説明できる。 (4)心理学的観点からの人間理解が社会に活用されていることを説明できる。	●			
	LIB-115	思想史	講義	2	1		○			儒教思想と水戸の学問	江戸時代を通じて水戸藩は『大日本史』の編纂を行い、それによって独自の思想を生み出した。その思想は尊王攘夷という言葉を生み出し、倒幕運動の思想的背景となり、その影響は明治以後の日本にまで影響を及ぼしている。本講義では、幅広い視点から物事を判断する知識を修得するため、徳川光圀の『大日本史』編纂事業から幕末の水戸学まで、その歴史的・思想的展開についての検討を行い、現代社会に生きる人間として不可欠な教養を身に付けることとする。	(1) 水戸学の一部を説明できる。 (2) 水戸学が幕末の日本に大きな影響を及ぼしたことを説明できる。	●			
	LIB-115	思想史	講義	2	1		○			前近代の日本の思想	カリキュラム・ポリシーにもとづき、現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身につけ、視野の幅を広げるために、以下の内容の授業を行う。日本の歴史上で重要な思想およびそれに関わる文化を取り上げる。とくに、現代の日本人にも大きな影響を与えている江戸時代の思想について重点的に講義する。原史料の読解を通して、思想の内容とともに、それが生み出された時代背景・社会基盤まで探っていく。思想家はもちろん、それぞれの思想を受容・批判した人々にも目を向け、彼らが何を、何を考え、社会にいかに対峙したのか、考察する。	(1) 時代状況や社会環境と関連づけながら、それぞれの思想・文化の内容と特徴、社会的影響を理解し、自分の言葉で説明できる。 (2) 現代を生きる自分たちの思想的・文化的基盤がどこにあるか、将来の社会のあり方を構想する上で先人の思想にいかに関与すべきか、主体的に考えることができる。	●			

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	春	夏	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連			
													1.目的意識をもって精力的に学んだ後、職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。(知識・理解、態度)	2.グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で問題を捉え、その問題解決に真摯に取り組むことができる。(知識・理解、思考・判断、技能)	3.集団の中で状況に応じて自分の役割を意識し、役割遂行に向けて最善の努力を惜しまず、積極的に柔軟性をもった思考力を身につけている。(思考・判断、態度)	4.プロジェクト型の取り組みで企画を創造的に立案し、チームワークを高めることに貢献して目標達成に向けて真摯に努力することができる。(知識・理解、態度)
	LIB-116	歴史学	講義	2	1				○	読み直す江戸時代	カリキュラム・ポリシーにもとづき、社会に生起する諸事象を幅広い視点から考察できるようになるために、以下の内容の授業を行う。 江戸時代は、近代日本の諸システムを準備し、日本人の生活様式や文化、組織原理などの原型を形作った時代と理解されている。しかも、数世代前の先祖が生きた身近な時代である。この授業では、江戸時代の特徴と展開を学修するとともに、地域の史料から江戸時代の人々の営みや社会のあり方を読み解き、受講生との質疑応答を通して、具体的に歴史を体験し、歴史事象の意味や背景を考え直して行く。授業の内容を理解するだけでなく、自ら歴史を想起することの醍醐味を味わってほしい。	(1)中世から近世へ、近世から近代へという時代の移行・転換期のあり方を踏まえ、江戸時代日本の政治・経済・文化の特徴と展開を理解した上で、自分の言葉で説明できる。 (2)江戸時代と現代の異同・関係性を理解し、現代社会における歴史の規定性・影響に気づくことができる。 (3)史料から歴史を考察し(歴史的思考力)、歴史を構造的な因果関係として捉えることができる。 (4)地域の個別具体的な事象から、歴史の全体像を思い描くことができる。	●	◎		
	LIB-116	歴史学	講義	2	1				○	中国現代史を中心に	多くの人々の中国に対するイメージは、三国志や多くの世界遺産など古典的、伝統的の中国と経済及び軍事領域で大国化した現代中国に二分されるであろう。しかし、現在の中国の政治状況・社会状況は毛沢東時代の中国からの連続性を持つものであり、現在の中国を理解するにはこれまでの政治過程を知る必要がある。この講義では、1949年の建国以降の現代中国政治史を中心に、中国がどのような過程を経て今日の国家体制を築くに至ったかを考察していく。また、映画「活きる」を見て、政策が庶民の生活の与えた影響についても理解する。カリキュラムポリシー1に則り、現代社会に生きる人間として不可欠な教養として身につけておきたい中国にかんする基礎的、総合的知識を修得する。	(1)中華人民共和国の歴史を理解し、客観的なデータと情報に基づき、今日の中国が抱える問題について考え、文章化できるようになる。 (2)グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で問題を捉え、その問題解決に真摯に取り組むことができるようになる。 (3)単に他国の歴史を学ぶのみならず、これを1つの指標として自国の歴史、社会の在り方についてより客観的な視点を求められる。	●	◎		
	LIB-116	歴史学	講義	2	1				○	現代における歴史学の意味	現代社会を生きるための基礎的素養として、過去の人々の歴史的営みの成果として過去を理解することの意義を、特に現代の出来事を素材に考える。 過去を適切に理解するために、どのような考え方が必要なのか、を考える。 最新の歴史研究の手法や成果を踏まえながら、偏りのない広い視野で現代社会をとらえることを学ぶ。	(1)歴史的に考えることの意義を理解し、過去の出来事を適切に理解できる。 (2)歴史学が現代から過去への問いかけであると理解して、これを適切に理解できる。 (3)過去の人々の様々な営みを、偏見なくとらえる態度をとれる。	●			
	LIB-117	地理学	講義	2	1				○	地域論	本講義は、常磐大学のカリキュラムポリシー①に明示されているとおり、現代社会に生きる私たちに不可欠な素養と幅広い視点から物事を判断するための知識を、地理学の視点から身につけるものである。 私たちの住む地域社会にはどのような特徴があるのか、「地域」とはどのようなものなのかという「地域」をキーワードとした問題意識は地理学研究の出発点でもある。 さらに、現代社会においては、グローバルな見方が重視される一方で、生活に密接な関わりを持つ領域単位として、「地域社会」の再認識が求められてきている。 本講義では、地理学の発展過程を概観した上で「地域とは何か」を検討し、私たちが毎日生活している地域との関わり合いを常に念頭に置きながら、地域の産業化や人口の都市集中、生業形態の特徴など、日本における様々な地域における地理的現象の検討を行う。	(1)地理学をより身近な学問分野として認識するとともに、地域の「地理的な見方・考え方」である「地理観」を身につけることができる。 (2)地理学的視点を通じて、自分の生活や身近な地域を認識し、身の回りに起きている諸事象を、分析・判断・洞察することができるようになる。 (3)地域文化の視点から、日常の習慣やマナーといった部分についても再認識し、教養を深める。	●	◎		
	LIB-118	言語文化論	講義	2	1				○	ことばと文化、ことばと社会は如何にして連動しているのか	この授業は、カリキュラム・ポリシーに示された現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身に付けるとともに、幅広い視点から物事を判断する知識を修得するため、多様かつ調和のとれた教養教育に関する科目のひとつです。 「言語文化論」のポイントは二つあります。一つは、ことばはあらかじめ存在する物や概念について名前ではなく、ことばが物や概念を作り出すことです。もう一つは言語と文化そして社会との不可分性です(この点について「授業計画表」以外の学生への周知事項をみてください)。コミュニケーションにおいて、私たちはことばに込められたメッセージを解釈しようとするが、文化的背景が違う場合はズレや誤解が生じます。 この授業はまず前半において、ことばの具体例を挙げながら「日本的な風土」で育まれた日本語が日本人の精神文化や社会観とどのように係り合っているかを検証してみます。そして後半では、視野を広げて、世界の言語と文化との関連について共に考えていきます。 異文化との比較を通して「自文化」に対する理解を深めると同時に、相互の文化的規範や生活体験を意識してのコミュニケーション方法を探ります。	(1)ことばと文化・社会との連動を理解し、説明することができる。 (2)ものの見方を磨き、自分の内にある固定観念を打ち破り、広い視野で社会や文化を見ることができるようになる。 (3)他者の文化や社会について、しなやかな感性をもって考える力を身につけることができる。 (4)コミュニケーションにおいて、相手から送られたメッセージを、相手が伝えようとした意味に最も近い意味で受け取れるように、誤解を理解し減らす「聞く力」を身につけることができる。	●	◎		
	LIB-118	言語文化論	講義	2	1				○	国際語としての日本語を知る	日本語を使用するのは日本人だけではなく、日本国内では第二言語として、海外では外国語として日本語を学んでいる人が多くいます。日本語は、今や日本人同士で使用だけでなく、日本人と外国人、あるいは外国人同士が、国際語として使用しています。この授業では、そうした日本語を取り巻く日本国内外の状況を、歴史的な変遷も含めて学びます。 これからの社会は、たとえ日本国内にいたとしても外国人と接し、共に社会を築いていくことが求められます。国際語としての日本語、そして外国人が日本語を学ぶことについて、基礎的な知識を持つことは、これからの社会人にとって重要な素養となります。 以上は本学のカリキュラムポリシー①現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身に付けるとともに、幅広い視点から物事を判断する知識を修得するため、多様かつ調和のとれた教養教育を実施することに関連しています。 この授業では講義だけでなく、学生同士のディスカッション、情報収集・調査結果を学生同士でレビューするなどの方法を取り入れて進めます。	(1)第二言語/外国語としての日本語の基礎的な知識を得て、説明できる。 (2)世界と日本の在留外国人施策、言語政策について基礎的な知識を得て、説明できる。 (3)世界と日本の日本語教育事情について基礎的な知識を得て、説明できる。	●	◎		
	LIB-121	法学	講義	2	1				○	法学の基礎を学ぼう	わたしたちは様々な法に囲まれて生活している。我が国では2,000以上の法律が存在するが、大学で学ぶ法はその一部にすぎない。本科目はまず法の体系に沿って、法学入門、公法、私法、刑事法、手続法を扱い、それぞれの法分野の思考法や基本的な制度をケーススタディを通して学習する。そのうえで、租税法・社会保障法など将来の生活に不可欠な法律を学習し、社会で活躍する人材となるための能力と知識を身につける。	(1)法的思考やリーガルマインドを備え、日常生活の中で法との結びつきを感じとり、社会の様々な問題を法的な視点から分析・検討することができる。 (2)各法分野に特徴的な思考方法や原理・原則を身につける。 (3)社会の一員として将来の職業生活や社会生活に不可欠な法律の知識を身につける。	●	◎		
	LIB-122	日本国憲法	講義	2	1				○	わたしたちの人権の保障と統治の仕組みについて学ぶ	日本国憲法は、国の最高法規として、個人に保障されている人権を保障し、国が政治を動かしていく上で、国会、内閣、裁判所といったそれぞれの機関の組織や権限を定め、また地方自治との関係についても定めている。このように憲法は大きく分けて人権と統治について学ぶ法学の一分野である。本講義は、人権保障や国政・地方自治の仕組みを学ぶことで、グローバル化した「現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身に付けるとともに、幅広い視点から物事を判断する知識」を修得する科目である(カリキュラム・ポリシー①)。	(1)日本国憲法の基本的な理解を修得できる。 (2)身近な問題やグローバルな問題に関連させて憲法の重要性を理解できる。 (3)憲法学を通じて、法解釈における基礎的な思考方法を修得することができる。	◎	●		

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	春	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連			
												1.目的意識をもって精力的に学んだ後、職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。(知識・理解、態度)	2.グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で問題を捉え、その問題解決に真摯に取り組むことができる。(知識・理解、思考・判断、技能)	3.集団の中で状況に応じて自分の役割を意識し、役割遂行に向けて最善の努力を惜まず、積極的に柔軟性を持った思考力を身につけている。(思考・判断、態度)	4.プロジェクト型の取り組みで企画を創造的に立案し、チームワークを高めることに貢献して目標達成に向けて真摯に努力することができる。(知識・理解、態度)
社会系	LIB-123	経済学	講義	2	1	○			「地域産業論」(職業の世界—キャリア形成と人材教育)(一般社団法人 茨城県経営者協会 連携講座)	茨城県を代表する企業経営者や管理者が、地域経済の実態と各社が実践している経営活動等について講義する。実際の経営者や管理者から直接、地域経済や企業経営の話聞くことによって、これらの理解を深めるとともに、社会人として必要な心構えや資質・能力を育成することを目的とする。本年度のテーマはキャリア形成と人材教育であり、産業活動の実態と各業種の職種構成や仕事内容についての知識を教授し、将来の進路選択やキャリア形成に役立てる。カリキュラム・ポリシーの1つである「現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身に付けるとともに、幅広い視点から物事を判断する知識を修得するため、多様でかつ調和のとれた教養教育を実施する」に関係している。	(1) 地域の経済・産業および地域に根差した企業の経営活動を深く理解し、将来いずれかの地域においてそれらに関わる際に必要となる知識、資質、能力を身につけることができる。	●			
	LIB-123	経済学	講義	2	1	○			経済的枠組や動向の把握	絶えず変化している世の中に、社会人として適応していくためには報道等を通じて経済動向を把握する必要がある。本科目は、そのための基礎知識を身につけるための学習プログラムで、ねらいは次の4点である。 (1) 経済活動の意味と経済学の概要を理解し、活用できる。 (2) 基本的な市場メカニズムを理解し、活用できる。 (3) 家計、企業、政府の動向や制度を把握し、活用できる。 (4) 基本的な経済関連指標と現在の水準を理解し、活用できる。	(1) 経済活動の意味と経済学の概要を説明できる。 (2) 基本的な市場メカニズムを説明できる。 (3) 家計、企業、政府の動向や制度を説明できる。 (4) 基本的な経済関連指標と現在の水準を説明できる。	●			
	LIB-124	政治学	講義	2	1	○			近現代・日本政治史	「政治学」に関する基礎知識の一つとして、近代以降の「日本政治史」について論ずる。明治維新～第二次世界大戦を大まかな時代区分として、わが国における中央集権化、官僚機構の形成、近代化政策、憲法制定、議会開設、政党政治、外交と戦争、公文書管理などの項目について扱う。本学カリキュラムポリシーに記載された「幅広い視点から物事を判断する」知識を身につけることに関連する内容の科目である。	(1) 政治・行政の歴史について学ぶことにより、「豊かな国際感覚で問題をとらえる」能力を身につける。 (2) 近代以降の日本政治・行政の歴史についての知識を身につける。	◎	●		
	LIB-125	社会学	講義	2	1	○			データと社会学理論で読み解く現代社会	社会学は、社会における様々な現象を幅広く探究する学問である。ここでは、まず①社会学の扱う領域の広さと社会の探究の仕方を学ぶ。続いて、②家族、地域、メディア、階層、エスニシティ、ジェンダーといった社会学の主要な領域を取り上げ、それぞれについて日本の今日的な特徴と課題をみていく。加えて本科目では、グローバル化する社会への理解を深めるため、様々な領域における国内外の状況を学ぶ機会を設ける。尚、本科目はカリキュラムポリシー①に対応する。	(1) 代表的な社会学者の理論を概説することができる。 (2) 現代日本社会の諸課題の背景や原因について説明することができる。 (3) 国内外で観察されるグローバル化の諸現象について概要を述べることができる。	◎	●		
	LIB-125	社会学	講義	2	1	○			社会学的な視点から世界と自分をとらえなおしてみる。	社会学は、社会における様々な現象を幅広く探究する学問である。ここでは、まず①社会学の扱う領域の広さと社会の探究の仕方を学ぶ。続いて、②家族、地域、メディア、階層、エスニシティ、ジェンダーといった社会学の主要な領域を取り上げ、それぞれについて日本の今日的な特徴と課題をみていく。加えて本科目では、グローバル化する社会への理解を深めるため、様々な領域における国内外の状況を学ぶ機会を設ける。尚、本科目はカリキュラムポリシー①に対応する。	(1) 代表的な社会学者の理論を概説することができる。 (2) 現代日本社会の諸課題の背景や原因について説明することができる。 (3) 国内外で観察されるグローバル化の諸現象について概要を述べることができる。	◎	●		
	LIB-126	地域社会論	講義	2	1	○			茨城県の俳諧文化	茨城にも伝統的な文化が根付いているが、その一例が俳諧文化である。本講座では、カリキュラムポリシーに基づき、筑波山、鹿島根本寺等の魅力を『鹿島詣』に描いた芭蕉、結城に滞在した蕪村、茨城にゆかりのあった一茶、水戸に長期滞在して常陸俳壇の指導者となった遅月ら、著名俳人と常陸国(茨城)との関わりについて学ぶ。地元の文化遺産を知る機会を提供することにより、学生自身が地域の良さを再発見し、多様でかつ調和のとれた教養を身につける。	(1) 茨城県内の俳諧文化を学ぶことで地元の良さを再発見し、広く深い教養を身につけることができる。 (2) フィールドワークとしての「地域再発見」の発表を創造的に立案して主体的に取り組むことができる。 (3) 他者の発表を聴くことにより、柔軟性を持った思考力を養うことができる。	●			
	LIB-126	地域社会論	講義	2	1	○			江戸時代の家・村・地域社会	カリキュラム・ポリシーにもとづき、幅広い視点から物事を判断できるようになるために、以下の内容の授業を行う。過去から現在に至るまで、人々は、日常の暮らしを営む上で、また非常事態に備え、対処するために、さまざまな関係・組織を構築してきた。そうした要素のまとまりが地域社会を形作っている。この授業では、江戸時代の百姓・家が形成した村、あるいは村を超える地縁的な連合体を取り上げ、どんな人々が何のためにどのような関係・組織をつくり、いかに運営していたのか、具体的な事例から考えていく。地域社会のあり方を規定する自然環境や社会条件にも目配りしながら、地域住民と地域を出入りする人々にとって地域社会が果たした役割を追究する。	(1) 地域社会を構成・運営する諸主体と相互の諸関係、地域社会が形成される契機・時代背景を理解し、地域社会の構造と秩序のあり方を自分の言葉で説明できる。 (2) 現代の社会関係・社会組織のあり方について「なぜ」「どのように」という疑問を抱き、自ら資料を集め、歴史的に考察できる。 (3) 先人の営みを学修することで、今後の地域社会の担い手としての自覚を高め、よりよい地域社会の創造に貢献できるようになる。	●			
	LIB-126	地域社会論	講義	2	1	○			「茨城学」を学ぼう	この授業は、常磐大学が参画して行われた文部科学省の「(地)知の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」(「茨城と向き合い茨城に根ざし、未来を育む地域創生人材育成事業」代表:茨城大学)の一環として始まったものである。茨城大学、常磐大学、茨城キリスト教大学、茨城県立医療大学で共通した授業を行い、「茨城学」について理解を深めていく。常磐大学のカリキュラム・ポリシーである「問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断する」学びを実践する観点から、茨城県の自然・地理・産業・歴史・文化などの学修を通して、茨城についての理解を深めると同時に、茨城の事例を他の地域と比較することで、地域を多角的、グローバルに捉える視点を養う。課題の振り返り、教員や地域の方々との意見交換等のアクティブラーニングを通して、地域の課題や未来を考える基礎的な力を身につける。	(1) 茨城の自然・地理・産業・歴史・文化などの理解を深めることができる。 (2) 地域を多角的に捉え、地域の課題や未来を考える基礎的な力を身につけることができる。	●			
LIB-127	文化論	講義	2	1	○			韓国・朝鮮半島の文化	カリキュラム・ポリシーである「現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身に付けるとともに、幅広い視点から物事を判断する知識を修得するため、多様でかつ調和のとれた教養教育を実施する」ことに対応して以下の内容を行う。朝鮮半島の文化的事象を取り上げ、その特徴や、かかわる社会の観念・規範・価値・慣習・象徴ないし経済の組織形態・行動様式について、日韓文化の差異・共通点についても触れつつ講義する。韓国および朝鮮半島の文化を学び、「異文化」の知識獲得を通して、「自文化」や「文化」についての理解を深める。文化は特定の時代と社会で設定された「文脈」の中、社会の成員によって習得され、共有され、伝達され、そして認知された様態のシステムであるため、講義では、個別の文化事象の内在的含義を様々な側面から探究し、「伝統文化とは何か」、また「文化とは何か」を共に考えていく。	(1) 朝鮮半島の文化について説明できる (2) 日韓間の文化の相違について理解し説明ができる (3) 異文化を主体的に理解することができ、コミュニケーションに応用することができる (4) 現代社会における伝統文化の「創出」を理解し、「文化」に対する理解を深めることができる	◎	●			

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	秋	春	夏	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)			
													1.目的意識をもって精力的に学んだ後、職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。(知識・理解、態度)	2.グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で問題を捉え、その問題解決に真摯に取り組むことができる。(知識・理解、思考・判断、技能)	3.集団の中で状況に応じて自分の役割を意識し、役割遂行に向けて最善の努力を惜しまず、積極的に柔軟性をもった思考力を身につけている。(思考・判断、態度)	4.プロジェクト型の取り組みで企画を創造的に立案し、チームワークを高めることに貢献して目標達成に向けて真摯に努力することができる。(知識・理解、態度)
	LIB-127	文化論	講義	2	1		○			比較文化論	世界は、数え切れないさまざまな「社会」とその「文化」で成り立っている。想像を超えるような社会や文化もあり、特徴ある文化を担う「民族」も注目される。社会や民族とその文化について十分に考えなければ、世界的に理解し、カリキュラムポリシーで主張されているように「現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身に付ける」ことはできない。そうした過程を経てこそ、同ポリシーの示すように「幅広い視点から物事を判断する知識を修得する」ことができる。 本科目では、以上のような教養の実現のために、数々の文化の分野からいくつかを選び出して追究していく。そこに社会や民族による違いがどう現れるのかも探っていく。	(1)異文化理解の基本的な姿勢を持つようになる。 (2)自分の内にある固定観念を打ち破り、広い視野で他の社会や文化を見ることができる。 (3)他の地域をよりよく知り、そこで展開する文化に対して、できる限りその中の人々の立場になって考えられる。 (4)興味ある文化に関わる手がかりと方法を見つけることができる。	◎	●		
	LIB-127	文化論	講義	2	1		○			日本生活文化論	本講義は、常磐大学のカリキュラムポリシー①に示されている、現代社会に生きる私たちに不可欠な素養と幅広い視点から物事を判断するための知識を、地理学の応用的視点から「文化」というキーワードで論じるものである。私たちが、日頃当たり前のように受け止めている日常生活の形態には、大きな地域差が存在している。生活文化の要素の中でもっとも身近に感じることができる食、住、言葉などを事例としながら、日本における生活文化の地域差の具体像を明らかとし、身近な地域の生活文化について相対的認識をすると共に、風土に根ざした生活文化の有り様と地域差が生成された過程について考えていく。	(1)文化とは何か、その意味・意義を説明できる。 (2)自らの依って立つ文化の特徴を説明できる。 (3)文化の生成やその地域的差異について説明できる。	◎	●		
	LIB-128	著作権と情報倫理	講義	2	1						著作権法全般について講義する。著作権法を理解するためには民法の知識が必須なので、あらかじめ民法を履修していることが望ましい。 また、情報倫理分野については、科学・技術にかかわる情報の誤った扱い方が、社会に対してどのような悪影響を及ぼすか、具体的な事例とともに分析していく。	(1)著作権法に関する基本的な知識を身につけることができる。 (2)情報倫理について、情報の扱い方が、社会に対してどのような影響を及ぼすかを理解し、正しい情報の扱い方を身につけることができる。	●			
自然系	LIB-131	生態学	講義	2	1		○			生態学入門	近年、環境問題や生態系保全への関心が高まっているが、生態系を理解することなくしてこれらの問題の本質を理解することはできない。生物の集団および生物と環境との関係を取り扱う生態学は、生態系を理解する上で基本的に必要となる重要な学問分野である。本講義では、生態系や生物多様性を保全していくうえで必要な生態学的視点から物事を判断するための知識を修得する(常磐大学のカリキュラム・ポリシーに対応)。なお、本講義はSDGsの目標14[海洋資源]と目標15[陸上資源]に関連する。	(1)広く深い教養の一部として、生態学的な視点を理解できる。 (2)生物多様性の価値を理解し、生物多様性に対する社会的責任を意識することができる。 (3)豊かな国際感覚で環境問題を捉えることができる。	●	◎		
	LIB-131	生態学	講義	2	1		○			行動生態学入門	行動生態学は、進化という観点から、動物の行動・生態を考察する学問である。なぜ生物は進化するのだろうか?そもそも、なぜ地球上にはいろいろな生物がいて、いろいろな行動をするのだろうか?本講義では、人間を含めた動物の行動、生態、形態などの表現型を科学的視点から捉え、特定の行動の進化や社会性の進化に対する理解を深める。進化の視点から物事を判断する知識を修得する(常磐大学のカリキュラム・ポリシーに対応)。	(1)広く深い教養の一部として、生態学的な視点を理解できる。 (2)生物多様性の価値を理解し、生物多様性に対する社会的責任を意識することができる。 (3)豊かな国際感覚で環境問題を捉えることができる。	●	◎		
	LIB-132	物質とエネルギー	講義	2	1		○			地球システム科学入門	近年、人間と自然とが関わる問題、特に人口の爆発的増大にともなうエネルギー資源および物質資源の消費の増大と、それらの廃棄にともなう環境汚染の問題が顕在化し、地球規模での危機が強く認識されている。本講義では、地球システムにおける様々な物質の存在形態を紹介し、それらの変化を相互に作用しあう系と系との間の物質循環やエネルギーの流れとして、広い視野から理解する(常磐大学のカリキュラム・ポリシーに対応)。なお、本講義はSDGsの目標7[エネルギー]と目標13[気候変動]に関連する。	(1)グローバル化が進む社会に対応するため、地球システムの物理的、化学的、生物学的な活動を理解し、説明することができる。 (2)物質循環やエネルギーの流れについて広い視野から理解することができる。 (3)豊かな国際感覚で環境問題を捉えることができる。	◎	●		
	LIB-133	生活と化学	講義	2	1		○			社会問題を理解するための化学	化学の発展は、医療の進歩や、経済発展の促進を通じて、私たちの生活を豊かにしてきた半面、公害や薬害、環境破壊などの形で、きわめて有害な結果をもたらし続けてきた。しかも、こうした負の影響は、次世代にまで及ぶ可能性が懸念されている。したがって、化学を学ぶことは、化学の健全な発展とつらいつらいつの新しい社会・経済システムについて考えることでもある。本講義では、文系・理系の枠を超えて、多様な問題意識をもって、多面的な視点から、高校で生物や化学を履修していない学生にも充分理解できるように講義する。	(1)学生が、化学の基礎知識を習得し、化学の発展と結びついた公害や薬害などの社会問題についても深く理解すべく、目的意識を持って精力的に学んだ後、職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。	●			
	LIB-133	生活と化学	講義	2	1		○			栄養士に必要な化学	現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身に付けるとともに、幅広い視点から物事を判断する知識を習得することが必要である。日々の暮らしの中には様々な化学的な現象に気づき理解することで幅広い視点から物事を判断する素養を身につけることができる。本講義では高校で履修する化学基礎及び有機化学を再学習することで、管理栄養士を目指すために最低限必要な化学的知識を習得する。	(1)広く深い教養と知識を学ぶことにより社会や地域に貢献するための社会的応力および社会活動力を身につけることができる。 (2)栄養士・管理栄養士に求められる応用・発展的な学習を理解し、さらなる専門性と創造性を高めるための基本的知識を取得することができる。	●			
	LIB-133	生活と化学	講義	2	1		○			生命活動に関わる分子の科学	学問としての「化学」が関わる領域は、物理学、生物学、地球科学などの自然科学のみならず、医学、薬学、工業化学、農芸化学、食品化学といった応用科学にまで至る幅広いものである。本講義では、物事の判断に役立つ幅広い視点からの知識と豊かな教養の習得のため、私たち人間を含む生命活動に関わる分子を題材とし、生命活動に関わる現象を化学(分子)レベルで理解しその仕組みについて学ぶ。	(1)化学の基本的な方法・原理と基礎知識を習得することによって、身近な現象や物質および生命について化学の言葉を用いて化学的に考える事ができる。 (2)それによって社会や地域に貢献する為の社会適応力および社会活動力を身につける事ができる。	●			
	LIB-134	宇宙の科学	講義	2	1		○			宇宙の成り立ちと天体運動	私たちはいま、地球上に生活している。その地球は、太陽系の一部であり、銀河系の一部であり、宇宙の一部である。人類は古代から宇宙に思いを抱き、様々な宇宙観を形成してきた。本授業では、宇宙138億年の歴史をたどりながら、宇宙の不思議や魅力に迫る。 なお、本授業は、大学共通のカリキュラム・ポリシー「現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身に付けるとともに、幅広い視点から物事を判断する知識を修得する」に対応している。	(1)宇宙誕生後138億年の間に起こった大きな天文学的イベントについて説明できる。 (2)天体運動の基礎を理解し、説明できる。 (3)宇宙と人間の関わりについて理解し、説明できる。 (4)宇宙の諸事象や宇宙関連のニュースに興味・関心を持ち、他の人に宇宙の不思議や魅力を伝えることができる。	●	◎		

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	春	秋	サバタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連			
												1.目的意識をもって精力的に学んだ後、職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。(知識・理解、態度)	2.グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で問題を捉え、その問題解決に真摯に取り組むことができる。(知識・理解、思考・判断、技能)	3.集団の中で状況に応じて自分の役割を意識し、役割遂行に向けて最善の努力を惜しまず、積極的に柔軟性をもった思考力を身につけている。(思考・判断、態度)	4.プロジェクト型の取り組みで企画を創造的に立案し、チームワークを高めることに貢献して目標達成に向けて真摯に努力することができる。(知識・理解、態度)
教養科目	LIB-135	科学技術論	講義		2	1		○	社会の中の科学技術	環境問題他、現代の社会問題の多くが科学技術の社会的適用の結果であるという前提にたち、科学技術についての倫理的、法的、社会的問題(ELSI: Ethical, Legal, and Social Issues)について検討する。例えば生命操作、遺伝子組み換え食品、原子力施設、延命治療、コンピューターネットワーク、携帯電話などが具体的な話題となる。授業では報道された問題を紹介し、科学技術の視点から解説し、討論する。本シラバスでは前年までのものを参考に各回のテーマを例示しているが、時事状況によって弾力的にとりあげる。科学技術の不完全性についての理解を深める。ELSIについての理解は常磐大学カリキュラムポリシーにある「現代社会に生きる人間として不可欠な素養」と言える。	(1)社会問題を科学技術との関連性で検討できるようになる。 (2)ELSIを理解することにより、「柔軟性を持った思考力」を身につけられる。	●	◎		
	LIB-136	科学史	講義		2	1		○	科学史	現代社会において科学と無関係に生活することはほとんど不可能ではないだろうか。しかし「科学」という言葉に対し、抵抗感を持つ学生が少なくない。科学は自分に関係ない、これ以上勉強したくないと思われているようである。そこで当該科目では科学史の視点から科学と社会の関係を意識できるようにし、いわゆる科学嫌いを払拭できるよう試みる。そして科学に興味・関心を持つことが現代社会で有益であることを示す。「science(科学)」が「knowledge(知識)」と交換可能な言葉であることから、「知る」とはどういうことかについて考察する。「科学」の理解は常磐大学カリキュラムポリシーにある「現代社会に生きる人間として不可欠な素養」と言える。	(1)「科学」知識のみならず、「知識」に絶対普遍ということはないであろうことを認識できるようになる。 (2)「科学」を理解することにより、「柔軟性を持った思考力」を身につけられる。	●	◎		
健康系	LIB-141	生理学	講義		2	1		○	現代社会を生き抜くための身体の知識	インフルエンザ政策の歴史にみられるように、かつては国が主導してきた医療政策上の決定が、国民各自の自己決定にゆだねられるようになってきており、こうした傾向は、新型コロナウイルス政策にもみられる。こうした状況においては、国民が健康を維持することは自己責任でもあり、すべての国民が身体や病気に関する一般的な基礎知識をもつことが不可欠となるだろう。こうした問題意識から、本講義では、生理学の基礎について、文系・理系の枠を超えて、多様な問題意識をもって、多面的な視点から、高校で生物や化学を履修していない学生にも充分理解できるように講義する。	(1)人間の生理の仕組みを理解することができる。 (2)自己の健康に関わる身体の知識を学び、これを正しく理解できる。 (3)多様化する現代社会で、調和のとれた健康生活を築く素養を身につけることができる。	●			
	LIB-141	生理学	講義		2	1		○	病気はどうして起きるのか	現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身に付けるとともに、幅広い視点から物事を判断する知識を習得することが必要である。自らの身体、生命システムの成り立ちを理解することは健康健全な生活をおくるうえで大切な教養である。組織レベルや分子レベルの無数の反応系が体内において正確にかつ協調的に機能していることを知り、その反応の一部が阻害されたり不調和になったりすると、体に変調をきたし病気になることを理解する。	(1)人間の生理の仕組みを理解することができる。 (2)自己の健康に関わる身体の知識を学び、これを正しく理解できる。 (3)多様化する現代社会で、調和のとれた健康生活を築く素養を身につけることができる。	●			
	LIB-142	心の科学	講義		2	1		○	こころの発達と対人関係	「心の科学」ではこころの働きについて少しか踏み込んだ心理学知見を学ぶ。踏み込み分、扱う内容は対人関係や生涯発達、心の健康などに絞られ、社会に役立つ知識を身につけることを目標とする。また心理学はこころについてエビデンスに基づく科学的知見の積み重ねる学問である。授業の随所で目には見えない複雑な事象を明らかにする科学的研究の方法をあわせて解説するのでこれを学び、根拠に基づいた論理的思考の方法を習得する。	(1)心のはたらきを実証に基づいて説明できる。 (2)人間に共通する心や行動のパターンを理解し、その一般法則や原理を説明できる。 (3)心や行動の個人差や個人内での変容について説明できる。 (4)心理学的観点からの人間理解が社会に活用されていることを説明できる。	●			
	LIB-142	心の科学	講義		2	1		○	“こころ”がどのように機能しているのかを学ぶ	「心の科学」ではこころの働きについて少しか踏み込んだ心理学知見を学ぶ。踏み込み分、まずは“こころ”を反映する指標の種類、および、その測定方法について深く学ぶ。その後、感情や注意・対人魅力・ストレスマネジメントといった内容を軸に、社会に役立つことに関する知識を身につけることを目標とする。また心理学はこころについてエビデンスに基づく科学的知見の積み重ねる学問である。授業の随所で目には見えない複雑な事象を明らかにする科学的研究の方法をあわせて解説するのでこれを学び、根拠に基づいた論理的思考の方法を習得する。	(1)心のはたらきを実証に基づいて説明できる。 (2)人間に共通する心や行動のパターンを理解し、その一般法則や原理を説明できる。 (3)心や行動の個人差や個人内での変容について説明できる。 (4)心理学的観点からの人間理解が社会に活用されていることを説明できる。	●			
	LIB-143	公衆衛生学	講義		2	1		○	わたしたちの健康と社会・経済システム	臨床医学が個人の疾病を研究対象とするのに対し、公衆衛生学は、健康な人をも含む社会全体を対象とする。健康に悪影響を及ぼす環境や行動、社会的要因を取り除き、健康障害を予防することと健康状態をよりよくさせることが公衆衛生学の目標である。したがって、公衆衛生学を学ぶことは、健康の維持と向上にとつてふさわしい社会・経済のシステムについて考えることでもある。本講義では、文系・理系の枠にこだわらず、多様な問題意識をもって、多面的な視点から、高校で生物や化学や履修していない受講生にも充分に理解できるように講義する。	(1)公衆衛生学の基本概念や方法を学ぶことができる。 (2)グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、現在、日本のみならず世界で問題となっている公衆衛生上の諸問題を、豊かな国際感覚で捉えることができる。 (3)その問題解決に、各自の置かれている立場や状況に応じて真摯に取り組むことができる。	●	◎		
	LIB-144	生命倫理	講義		2	1		○	最新医療の功罪	現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身に付けるとともに、幅広い視点から物事を判断する知識を習得することが必要である。医療技術の飛躍的進歩に伴って、遺伝子治療、臓器移植、出生前診断、着床前診断などが頻繁に行なわれるようになってきた。これらが実施されるにあたっては、是非か非かの議論が何度となく繰り返されているが、必ずしもコンセンサスが得られているわけではない。それらを多面から議論し、多様な意見を感じ・認識し、相互の理解を構築していく。	(1)高度な先端医療技術の発展と結びついた生命倫理上の諸問題を、目的意識を持って精力的に学ぶことができる。 (2)職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。	●			
	LIB-144	生命倫理	講義		2	1		○	命について考える	重篤な病気の子どもを産むべきか、人間の遺伝子を改造してもよいか、延命治療を停止してもよい場合はあるのか…など、命をめぐる問題は限りなく難しい。こうした問題は、医療の問題であるばかりでなく、医療を支える財政上の問題でもあり、したがって、命について考えることは、命を大切にすることのできる社会・経済システムについて考えることでもある。本講義では、こうした問題意識から、文系・理系の枠を超えて、多様な問題意識をもって、多面的な視点から、高校で生物や化学や履修していない学生にも充分理解できるように講義する。	(1)高度な先端医療技術の発展と結びついた生命倫理上の諸問題を、目的意識を持って精力的に学ぶことができる。 (2)職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。	●			

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連			
										1.目的意識をもって精力的に学んだ後、職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。(知識・理解、態度)	2.グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で問題捉え、その問題解決に真摯に取り組むことができる。(知識・理解、思考・判断、技能)	3.集団の中で状況に応じて自分の役割を意識し、役割遂行に向けて最善の努力を惜しまず、積極的に柔軟性をもった思考力を身につけている。(思考・判断、態度)	4.プロジェクト型の取り組みで企画を創造的に立案し、チームワークを高めることに貢献して目標達成に向けて真摯に努力することができる。(知識・理解、態度)
数理・情報系	LIB-144	生命倫理	講義	2	1	○	命について考える:医療従事者をめぐる学生のための生命倫理	重篤な病気の子どもを産むべきか、人間の遺伝子を改造してもよいのか、延命治療を停止してもよい場合はあるのか...など、命をめぐる問題は限りなく難しい。こうした問題は、医療の問題であるばかりでなく、医療を支える財政上の問題でもあり、したがって、命について考えることは、命を大切にすることのできる社会・経済システムについて考えることでもある。本講義では、こうした問題意識から、文系・理系の枠を超えて、多様な問題意識をもって、多角的な視点から、高校で生物や化学を履修していない学生にも充分理解できるように講義する。	(1) 高度な先端医療技術の発展と結びついた生命倫理上の諸問題を、目的意識を持って精力的に学ぶことができる。 (2) 職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。	●			
	LIB-145	生命の科学	講義	2	1	○	バイオテクノロジーを支える生命科学の基礎	デザイナーベビー、遺伝子編集、遺伝子診断、遺伝子組み換え食品など、生命科学を基礎としたテクノロジーについては、私たちの生活をより良いものにするのが期待される反面、様々な健康上・社会上のリスクも懸念されている。本講義では、生命科学やこれを基礎とするテクノロジーについて深く学ぶとともに、こうした科学や技術の発展にふさわしい社会・経済システムについて考える。文系・理系の枠を超えて、多様な問題意識をもって、多角的な視点から、高校で生物や化学を履修していない学生にも充分理解できるように講義する。	(1) 生命科学とテクノロジーを正しく理解できる。 (2) それが社会に与える様々な問題について、これを国内のレベルで捉えるばかりでなく、グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で捉えることができる。 (3) 自己の見解をしっかりと持ち、各自の立場から、その問題解決に真摯に取り組むことができる。	●	◎		
	LIB-145	生命の科学	講義	2	1	○	人体の成り立ちと働き	現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身に付けるとともに、幅広い視点から物事を判断する知識を習得することが必要である。日々の暮らしの中にある多様な生命現象を幅広い視点から理解することで物事を判断する素養を醸成する。本講義ではまず生命現象を支える物質をとりあげ、次に分子生物学の急速な進歩に伴い急速に解明されてきた「老化」、「がん」、「免疫」、「脳の機能」など高次レベルの個体现象についても解説する。	(1) 生命科学とテクノロジーを正しく理解できる。 (2) それが社会に与える様々な問題について、これを国内のレベルで捉えるばかりでなく、グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で捉えることができる。 (3) 自己の見解をしっかりと持ち、各自の立場から、その問題解決に真摯に取り組むことができる。	●	◎		
	LIB-145	生命の科学	講義	2	1	○	生命科学入門	中学校や高等学校で生物を学んできた人でも、ヒトという生物がどのような生物であるか意外と知らない。なぜなら中学や高校で習う生物は、ヒトの視点に立った生物学の内容が乏しいからである。せっかくヒトに生まれたからには、ヒトのことをよく知っていただきたい。本講義では、ヒトについての理解を深め、幅広い視点から物事を判断する知識を修得するため、生命科学の視点からヒトを学ぶ(常磐大学のカリキュラム・ポリシーに対応)。	(1) 生命科学とテクノロジーを正しく理解できる。 (2) それが社会に与える様々な問題について、これを国内のレベルで捉えるばかりでなく、グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で捉えることができる。 (3) 自己の見解をしっかりと持ち、各自の立場から、その問題解決に真摯に取り組むことができる。	●	◎		
	LIB-146	食と健康	講義	2	1	○	食べ物と栄養に関する知識を深め、食生活と健康との関係を知ろう!	「人間とは何か」という根本的な問題にアプローチすると同時に、人間や人間社会の諸問題を解決する力を身に付けるための、健康に関する基礎科目である。毎日が健康でありたいというのは誰もが願うことであるが、健康に関する用語、内容等は専門課程でないし理解しにくいものが多い。この講座では現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身に付けるとともに、幅広い視点から物事を判断する知識を修得するため、日常の食生活と健康における身近な話題を取り上げ、それに科学的な解説を加えながら食事、栄養面での重要性を話していきたい。	(1) われわれヒトが健康に生きていくために、食べ物を摂取し、またそれが体内で利用される過程全般を学修する。 (2) 生体が外界から物質を摂取し、代謝を行い、生体活動に必要なエネルギーを得て生体物質を更新し、あるいは成長する過程と、摂取する物質の個々の栄養素に関する知識を学修する。 (3) 食と健康の関連について、集団レベルでわかっていることを学修する。 (4) (1)から(3)の学修を生かし、自分の食生活の問題点を見つけ、改善出来るような知識を身に付ける。	●			
	LIB-151	情報の科学	講義	2	1	○	コンピュータの仕組みと情報の処理	インターネットの発展や、インターネットを介したサービスの発達、コンピュータの低価格化やスマートフォンやタブレット端末の普及などにより、人々の生活は日々便利になり、またそれらは必要不可欠なものになってきている。本授業では、そのような現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身に付けるとともに、幅広い視点から物事を判断する知識を取得するため、情報社会を支えている情報科学について学ぶ。具体的には、コンピュータの歴史、情報の表現、コンピュータの動作、そしてデータ構造とアルゴリズムを学ぶ。	(1) 今日の情報社会に至る情報科学の歴史を理解できる。 (2) 情報がコンピュータ内でどのように表現されるか理解できる。 (3) コンピュータがどのように動作するのか理解できる (4) データ構造と基本アルゴリズムが理解できる。	◎	●		
	LIB-152	情報化と社会	講義	2	1	○	ICTの発展と社会の変化	履修者世代は、スマートフォン(スマホ)の使用頻度が世代間比較で上位を占めている。SNSやゲーム、読書やeラーニング、旅行計画やカーナビゲーションに至るまで、スマホを手放せない世代であるが、同時にスマホ依存者が3割ともいわれている。授業では情報コミュニケーション技術(ICT)の高度化が、私たちの暮らしをどのように変えてきたのか、また、今後の私たちの暮らし方や働き方が「モノのインターネット化」、「人工知能」、「機械学習」の進展によってどのように変化していくのか、という2点について考えていく。日常生活、学び、働き方、コミュニケーションの場面におけるICTやIoT、AIの導入事例をもとに、変化の実態と課題について探る。さらに、サイバースペースにおける犯罪行為や情報操作、デジタル依存・中毒の問題についても議論する。この授業を通して、現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身に付けることを目指す。	(1) ICTやIoT、AIが浸透した社会を客観的に捉え、社会や企業の変化や課題を分析できる。 (2) 「情報」が氾濫する社会において、一方的に情報を享受するのではなく、流通する情報を批判的にとらえることができる。 (3) 授業テーマに関する内容を聴きながら考え、まとめて、記述することができる (4) 情報社会に関連する統計データを読むことができる (5) 知識基盤社会において、問題解決に取り組むことができる。	●			
	LIB-153	数学	講義	2	1	○	これまで学んだ数学をより深く考える	これまでの小学校、中学校、高等学校を通して学んできた数学の内容には、解き方は知っているけれど、その解き方の根拠まで知らないことが少なくない。これまでに学んできた数学をより深く学び、解き方の根拠を考えると、その内容の意味や意義を理解することができる。この講義では、これまでの学校数学で学んできた算数、数学の内容をより深く学び、考えることを通して、数学の基礎的知識を習得し、論理的に考察する力を養うことを目的とする。また、微分積分、線形代数の行列計算といった内容も扱うこととする。また、本授業は、カリキュラム・ポリシーにおける「現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身に付けるとともに、幅広い視点から物事を判断する知識を修得するため、多様でかつ調和のとれた教養教育を実施する」ことに関連する。	(1) これまでの学校数学の内容をより深く学び、考察することにより、論理的に説明することができる。 (2) 数学の基礎的な知識を身に付けることができる。 (3) 区分求積法など、微分積分に関する基礎的な概念や意味を理解することができる。 (4) 和・差・積などの行列に関する基礎的な計算を行うことができる。	●			
	LIB-154	パズルと論理	講義	2	1	○	記号論理学とペンシルパズル	大学のカリキュラム・ポリシーである「現代社会に生きる人間として不可欠な要素を身に付けるとともに、幅広い視点から物事を判断する知識を習得するため、多様でかつ調和のとれた教養教育を実施する」に基づき、記号論理学を理解するとともに、論理的思考力を養う。この授業におけるパズルとは、「論理的な思考により解かれる問題」とする。前半で記号論理学を学び、公務員試験などで判断推理問題と呼ばれる「論理パズル」や、教壇に代表される「ペンシルパズル」を解くことで、論理的思考力を養う。	(1) 記号論理学を用いて、判断推理問題を解くことができる。 (2) 論理的思考で問題を考えることができる。			●	

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春	夏	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)				
												1.目的意識をもって精力的に学んだ後、職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。(知識・理解、態度)	2.グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で問題を捉え、その問題解決に真摯に取り組むことができる。(知識・理解、思考・判断、技能)	3.集団の中で状況に応じて自分の役割を意識し、役割遂行に向けて最善の努力を惜しまず、積極的に柔軟性をもった思考力を身につけている。(思考・判断、態度)	4.プロジェクト型の取り組みで企画を創造的に立案し、チームワークを高めることに貢献して目標達成に向けて真摯に努力することができる。(知識・理解、態度)	
		ウェブデザイン基礎	講義	2	1			○	HTMLだけでウェブサイトを制作	この科目はコンピュータで情報を分かりやすく整理し表現するスキルが身に付きます。(CP2に該当) ウェブサイトを制作に必要なHTMLを習得し、ウェブサイトの開発・運営を行える知識・技術を身につけます。さらに教員が作成した仕様書に則ったウェブサイトを制作します。	(1)IT技術を利用して、積極的に柔軟性を持った思考力を身に付けます。(DP3に該当) (2)HTMLを理解し仕様書通りのウェブサイトを開発することができます。				●	
	LIB-155	ウェブデザイン基礎演習	演習	2	1			○	HTMLとCSSによるWebサイト制作	現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身に付けるため、Webサイト制作に必要な基礎的な知識と技能を修得することを目的とする(CP①)。まず、インターネットによる情報発信の基本となるWWWの仕組みを理解し、Webページの記述言語であるHTMLとWebページの見栄えを決めるスタイルシート(CSS)による基本的なWebページの作成技法を修得する。さらに、Webサイトの設計(デザイン、ユーザビリティ、アクセシビリティ)の重要性を理解し、利用者の使いやすさを意識したウェブデザインの基礎を学ぶ。最終的に制作したWebサイトを学内に公開し相互評価を行うことにより、Webサイトにおける効果的なデザインについて考える。	(1) 基本的なHTMLとCSSの知識を用いて、標準的なWebサイトを制作できる。 (2) 実践的なWebサイトの制作に向けて、ウェブデザインの重要性を理解する。 (3) ユーザビリティやアクセシビリティを意識したWebサイトを制作できる。	●			○	
	LIB-156	グラフィックデザイン基礎演習	演習	2	1			○	Photoshop、Illustratorでつくる初めてのグラフィックデザイン	パソコンでデザイナーデータを作成し、印刷物をつくることをDTP(Desktop publishing)という。昨今のポスターやチラシなどのデザイナーデータは、ほぼPhotoshop、Illustratorなどの画像編集ソフトを用いて制作されている。情報発信を行う上で、DTPは現代社会に生きる人間として不可欠な素養のひとつである(CP①)。本授業では前半はスマートフォンのカメラアプリとPhotoshopを使った合成写真の作成、後半はPhotoshopとIllustratorを連携させオープンキャンパスを想定したポスターの制作を行う。	(1) 配色やレイアウトのルールに則ったデザインをすることができる。 (2) DTPの基本を学び、PhotoshopとIllustratorを使ってグラフィックデザインを完成させることができる。 (3) 社会や地域への貢献を目的とした情報伝達手段のひとつとして、DTPを選択することができる。	●				○
		プログラミング基礎演習	演習	2				○	プログラミングで動的なウェブページ制作	この科目はコンピュータで情報を分かりやすく整理し表現するスキルが身に付きます。(CP2に該当) コンピュータ上で動作するアプリケーションを開発するためには、プログラミングについての知識・技術が必要となります。 この授業では、プログラミング言語を用いて、変数や入出力、演算式、制御構文などの基本を、実体験を通して習得します。	(1)IT技術を利用して、積極的に柔軟性を持った思考力を身に付ける。 (2)変数と演算子について理解し利用することができる。 (3)制御構文や関数について理解し利用することができる。				●	
	LIB-161	文献講読	演習	2	1			○	漢文を読む	日本人は古来より中国文化を受容してきたが、漢文を読むにあたっては、独自の漢文訓読を發明し、中国語文を日本語に変換して読んできた。漢文訓読の文章は昭和初期まで使用されており、その文体は日本語の文語文の下地にもなっている。本授業では、カリキュラムポリシーにもとづき、大学での学びの基礎である「読む」「書く」「調べる」ことを身につけるため、基本的な漢文資料を読み、分からない熟語を調べ、意味を把握することを通して、より正確に文献を読める訓練をする。	(1) 漢文訓読の文章をスムーズに読むことができる。 (2) 分からない語句を把握し、辞書で調べることができる。 (3) 漢字の熟語を使いこなすことができる。 (4) 漢文資料を読むことを通じて、日本人としての教養を身に付けることができる。	●				
	LIB-161	文献講読	演習	2	1			○	北関東の庶民の古文書を読む	カリキュラム・ポリシーにもとづき、幅広い視点から物事を判断できるようにするために、以下の内容の授業を行う。 江戸時代には、支配階級の武士だけでなく、我々の直接の祖先にあたる庶民(百姓・町人)が膨大な書類を書き残している。北関東でも、政治・経済・文化のあらゆる場面で多数の古文書が作成された。そうした地域に密着した古文書(原史料・一次史料)を教材に用い、江戸時代の文字に触れ、解説することで、自分自身で歴史を追体験・想起する訓練をしていく。	(1) 歴史的事象を丸暗記するのではなく、自分の力で原史料を読み、内容を解釈し、歴史を想像・追体験できる。 (2) 江戸時代の古文書の読み方に慣れ、歴史的事象の意味を解釈し、時代背景を読み解くことができる。 (3) 先人が残した古文書を文化財・資料として認識し、現在・後世の利活用を図ることができる。	●				
	LIB-162	日本語表現演習	演習	2	1			○	漢文表現を学ぶ	中学・高校と「国語」で漢文を学んできたのはなぜだろうか。それは、漢文が日本語の基礎にあるからであり、中国古典は日本文化の基礎でもあるからである。この授業では、本学のカリキュラムポリシーである「現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身に付ける」ために、昔ながらの勉強方法である素読、つまり、漢文の書き下し文を声に出して読み、分からない言葉を調べ、さらに書くことにより、有名な文章および熟語を頭の中に入れ、日本語の基礎としての漢文訓読文を身につけていくことにする。	(1) 日本語文章を正確に読むことができる。 (2) 漢和辞典を使いこなすことができる。 (3) 日本語の熟語の本来の意味が知り、使いこなすことができる。 (4) 『論語』『孟子』など古来より親しまれてきた文章を読むことを通じて広い教養と知識を身に付けることができる。	●			◎	
	LIB-162	日本語表現演習	演習	2	1			○	影印本『おらが春』を読む	近世は文芸の作家、享受者が日本全国の庶民にまで至った時代である。小林一茶が円熟期に著した『おらが春』は、庶民の視点で自己の心境を描いた当時の代表作として名高い。本講座ではカリキュラムポリシーに基づき、『おらが春』の影印本を教材として、くずし字読解の基礎を学ぶことにより、多様かつ調和がとれた教養を身につけることを目標とする(CP①)。この時代の作品には活字になっていない本がまだたくさんあり、広く深い教養を身につける契機となる(CP①)。	(1) くずし字で書かれている文学に親しむことで、広く深い教養を身につけることができる。 (2) 『おらが春』の根底に思想を理解することにより柔軟な思考力を養うことができ、一茶の優れた表現を読み味わうことにより言語感覚を磨くことができる。 (3) 活字化されていない書籍への興味を持ち、幅広い視点から物事を判断する力を養うことができる。	●			◎	
	LIB-162	日本語表現演習	演習	2	1			○	外国人と日本語でコミュニケーションする	日本国内でも多くの外国人が見られるようになりましたが、外国人だからといって必ずしも英語ができるわけではありません。日本在住の外国人は多少なりとも日本語ができる人がほとんどです。つまり、日本在住の外国人とコミュニケーションをとる最も有効な方法は、日本語を使うことだと言えます。ただし、外国人にわかりやすい、伝わる日本語を使うには、日本人側にも訓練が必要です。この授業では、外国人と日本語でコミュニケーションする方法を学び、その実践を行います。 この授業は、本学のカリキュラム・ポリシー①現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身に付けるとともに、幅広い視点から物事を判断する知識を修得するため、多様かつ調和がとれた教養教育を実施することに関連しています。 授業内では学生同士の意見交換を多用します。また、教室外に出て、実際に外国人とのコミュニケーションを実践します。	(1) 「やさしい日本語」を使って外国人とコミュニケーションができる。 (2) 外国人が話しやすい環境をつくり、話を丁寧に聞くことができる。 (3) パンフレットなどを「やさしい日本語」で作成することができる。 (4) 異文化に配慮した言語使用ができる。	●			◎	
	LIB-162	日本語表現演習	演習	2	1			○	レポートの基礎となる日本語文章演習	現代社会に生きる人間として不可欠な言語能力・コミュニケーション能力を身に付けるための授業である(CP①)。日本語の基礎的な文法や表現方法などを確認しながら、徐々に、簡単な作文課題、多様な種類の文章の実践練習を行っていき、また、多様な種類の文章の講読・読み取りも行う。	(1) 日本語でコミュニケーションをする上での基礎的事項を説明できる。 (2) 伝えたい内容を分かりやすい言葉で表現できる。 (3) 伝えたい内容を論理的に構成されて文章で表現できる。	●			◎	
	LIB-163	ディベート	演習	2	1			○	ディベートで学ぶ思考の仕方	一つの論題を賛成と反対の立場に分かれて討議するのがディベートである。最初は簡単なテーマを題材に、論点の整理・構築とその口頭発表の演習、次にテーマを社会的なものにして、調査や質疑応答の演習を行い、最終的には練習試合を行う。これらは、現代社会に不可欠な素養の涵養につながる(CP①)。	(1) 特定の論題に関して資料を捜して調査し、調査したことから論点を整理して一つの主張を構築できる。 (2) 主張を口頭で発表し、相手の発表を良く聞いてその主張を理解した上で、自説を進展させ、相手の主張に反論できる。 (3) 立場の違う意見を聞いてそれらを評価できる。	●				

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	春	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)			
												1.目的意識をもって精力的に学んだ後、職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。(知識・理解、態度)	2.グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で問題解決を、その問題解決に真摯に取り組むことができる。(知識・理解、思考・判断、技能)	3.集団の中で状況に応じて自分の役割を意識し、役割遂行に向けて最善の努力を惜しまず、積極的に柔軟性をもった思考力を身につけることができる。(思考・判断、態度)	4.プロジェクト型の取り組みで企画を創造的に立案し、チームワークを高めることに貢献して目標達成に向けて真摯に努力することができる。(知識・理解、態度)
実践系	LIB-164	伝統文化論	講義	2	1	○			『奥の細道』の文学世界	俳諧を和歌と並ぶ文芸にまで高めた人物は芭蕉である。芭蕉の代表作『奥の細道』は現在でも多くの人々に親しまれている。本講座ではカリキュラムポリシーに基づき、『奥の細道』の行程に沿って、芭蕉が作り上げた文学世界の魅力を味わうことによって、広く深い知識を身につけることを目標とする。また、芭蕉の周辺や門人、芭蕉を慕った後世の人々について踏まえ、幅広い視点から学ぶようにする。	(1)『奥の細道』の文学世界に触れることにより、広く深い教養と知識を身につけることができる。 (2) 古典文学の基礎知識を理解し、言語感覚を磨くことができる。 (3) 世界的に有名な作品の読解を通じて、日本人の思想の特質を理解することができる。	●	◎		
	LIB-165	創作文化演習	演習	2	1	○			俳句、連句の創作	俳句の創作は物事をさまざまな側面からとらえる姿勢を養うことができる。俳句はもとも連句から独立したものであるが、連句や前句付けについても学ぶ機会を設けたい。本講座ではカリキュラムポリシーに基づき、句作活動・句会を通じて、幅広い視点から物事を判断する知識の修得を目標とする。句を評価し合うことでコミュニケーション能力を磨きつつ、最終的には学外のコンクール(おーいお茶俳句大賞など)にも投句する。	(1) 俳句創作を通じて豊かな表現力を養い、広く深い教養を身につけることができる。 (2) 句会を通して柔軟性を持った思考力、コミュニケーション能力を身につけることができる。 (3) 連句の実践を通じて、集団の中で状況に応じた役割を遂行する姿勢を養うことができる。	●			
	LIB-166	芸術鑑賞論	講義	2	1	○			芸術への誘い	ルネサンス以降の近現代西洋における芸術・文化の展開と発展の過程を辿り、各作品に描かれた人間像を考察します。1500年前後に展開されたルネサンスは近代の曙を告げる文化・芸術運動です。神の栄光に代わり、人間が主役に躍り出ます。輝かしい文化を生み出す一方で、小国に分裂し外国軍の侵攻によりルネサンスは衰退します。その後起きた宗教改革により西歐文化の相貌は一変します。近現代の芸術の歩みを考察します。作品のみならずそれを生み出す社会的背景や芸術家に着目します。西歐の芸術作品に触れながら、カリキュラム・ポリシーの求める、現代人としての不可欠な教養を身につけ、幅広い視点から物事を判断できる力を養います。	(1) ルネサンス以降の西洋の芸術・文化に触れ、社会的背景を理解できる。 (2) ダ・ヴィンチを初めとする芸術家の生涯と作品を理解できる。 (3) 西洋近代の始まりから20世紀に至る時代の推移と、芸術が描き出す人間像の推移を理解できる。	●			
	LIB-166	芸術鑑賞論	講義	2	1	○			書画の鑑賞	書画とは書作品、絵画作品の総称である。くずし字で書かれた書や、禅画、俳画、南画など、さまざまな日本の書画作品を鑑賞することにより感性を磨き、日本人の美意識について考える契機にしたい。本講座ではカリキュラムポリシーに基づき、さまざまな日本の書画に触れて、幅広い視点から物事を判断する知識を修得する。	(1) 書画鑑賞の基礎知識を理解し、広く深い教養を身につけることができる。 (2) それぞれの作家の思想、作品の特質を理解し、柔軟な思考力を養うことができる。 (3) 鑑賞レポートの発表により、創造的な立案、真摯な努力を行なう姿勢を養うことができる。	●			
	LIB-167	身体運動の原理	講義	2	1	○			現代スポーツの科学	スポーツの指導者、あるいは教員として身につけるべき「体育・スポーツ知識」を学ぶ。内容は、スポーツ社会学(日本におけるスポーツ界の現状)、スポーツ倫理(スポーツと薬物使用)、スポーツ生理学(エネルギー供給、筋肉の生理学)、トレーニング論(筋力トレーニング)、スポーツ医学(スポーツ障害)など。これらの知識を踏まえ、生涯スポーツを実践できるようにする。本授業は、大学共通のカリキュラム・ポリシー「現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身に付けるとともに、幅広い視点から物事を判断する知識を修得する」に対応している。	(1) 運動・スポーツ分野における基礎知識を身につける。 (2) 身につけた知識をもとに、簡単なトレーニング・健康づくり運動・応急処置・障害予防措置などを実践できる。	●			
	LIB-168	健康スポーツA	実技	1	1	○			冬季野外活動(スキー・スノーボード)	冬季個人種目スポーツを通して生涯スポーツ実践へのきっかけを作ります。一種目を集中して行うことでスポーツ自体が有する楽しさとスポーツの奥深さを知るとともに、自らの健康の維持・向上、コミュニケーションスキルを身につけます。また、宿泊をともなったスキー・スノーボード一種目を集中して実習を行うことで、技術を高めるだけでなく、自然の中での身体活動の意義を知ります。本授業は、大学共通のカリキュラム・ポリシー「現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身に付けるとともに、幅広い視点から物事を判断する知識を修得する」に対応している。	(1) 自ら健康の維持・向上を目指すことができる能力を身に付ける。 (2) コミュニケーションスキル(仲間作り能力)を高める。 (3) 冬季における自然の中でスポーツ活動を実践する楽しさを知り、自ら実践できる力を身につける。 (4) スキーあるいはスノーボードの技術を向上させ、グレンデの滑走をコントロールできる力を身につける。	●		◎	
	LIB-168	健康スポーツA	実技	1	1	○			フィットネス	自分の体の状態を知り、健康的に生きるための体づくりとその方法について学び、生涯スポーツ実践へのきっかけを作ります。教科書を用いた講義と各自で行う自重トレーニングとストレッチングを中心に、用具を使用するトレーニング、コーディネーション、リラクゼーションなど、楽しみながら健康的な体づくりについての学習を行います。本授業は、大学共通のカリキュラム・ポリシー「現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身に付けるとともに、幅広い視点から物事を判断する知識を修得する」に対応している。	(1) 授業内で行う体力測定で自分の状態を把握できるようになる。 (2) 健康に生きるための体づくりに必要な理論を理解できるようになる。 (3) 自分の健康状態や体力を維持・改善するための適切な方法を選択できるようになる。	●		◎	
	LIB-168	健康スポーツA	実技	1	1	○			フィットネス	自分の体の状態を知り、健康的に生きるための体づくりとその方法について学び、生涯スポーツ実践へのきっかけを作ります。参考書などを用いて説明を加えながら、各自で行う自重トレーニングとストレッチングを中心に、用具を使用するトレーニング、コーディネーション法など、楽しみながら健康的な体づくりについての学習を行います。本授業は、大学共通のカリキュラム・ポリシー「現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身に付けるとともに、幅広い視点から物事を判断する知識を修得する」に対応している。	(1) 授業内で行う体力測定で自分の状態を把握できるようになる。 (2) 健康に生きるための体づくりに必要な理論を理解できるようになる。 (3) 自分の健康状態や体力を維持・改善するための適切な方法を選択できるようになる。	●		◎	
	LIB-169	健康スポーツB	実技	1	1	○			卓球	卓球を通して、生涯スポーツ実践へのきっかけを作ります。また、授業の中ではウォーミングアップやクーリングダウンによって、自分の健康状態の把握するための方法を学ぶ。一種目を集中して行うことでスポーツの奥深さを知り、勝つための工夫をする楽しさを知る。本授業は、大学共通のカリキュラム・ポリシー「現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身に付けるとともに、幅広い視点から物事を判断する知識を修得する」に対応している。	(1) 自分の健康状態や体力を維持・改善するための適切な方法を選択できるようになる。 (2) 卓球をとおしてコミュニケーションスキル(仲間作り能力)を高める。 (3) ラリーができる様々な打ち方を習得し、卓球のルールを理解し、試合を実践できる力を身につける。 (4) ウォーミングアップ及びクーリングダウンの目的と方法を知り、実行できる力を身につける。	●		◎	
	LIB-169	健康スポーツB	実技	1	1	○			バドミントン	バドミントンを通して、生涯スポーツ実践へのきっかけを作ります。また、授業の中ではウォーミングアップやクーリングダウンによって、自分の健康状態の把握するための方法を学ぶ。一種目を集中して行うことでスポーツの奥深さを知り、勝つための工夫をする楽しさを知る。本授業は、大学共通のカリキュラム・ポリシー「現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身に付けるとともに、幅広い視点から物事を判断する知識を修得する」に対応している。	(1) 自分の健康状態や体力を維持・改善するための適切な方法を選択できるようになる。 (2) バドミントンをおしてコミュニケーションスキル(仲間作り能力)を高める。 (3) バドミントンをおして観察や分析を行い、勝つための工夫をする楽しさを知る。 (4) ウォーミングアップ及びクーリングダウンの目的と方法を知り、実行できる力を身につける。	●		◎	

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる項目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連			
											1.目的意識をもって精力的に学んだ後、職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。(知識・理解、態度)	2.グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で問題を捉え、その問題解決に真摯に取り組むことができる。(知識・理解、思考・判断、技能)	3.集団の中で状況に応じて自分の役割を意識し、役割遂行に向けて最善の努力を惜しまず、積極的に柔軟性をもった思考力を身につけている。(思考・判断、態度)	4.プロジェクト型の取り組みで企画を創造的に立案し、チームワークを高めることに貢献して目標達成に向けて真摯に努力することができる。(知識・理解、態度)
学部共通科目	LIB-169	健康スポーツB	実技	1	1		○	テニス	硬式テニスを通して、生涯スポーツ実践へのきっかけを作ります。テニスの理論や自分の特性にあったトレーニングに関する理論を学ぶ。本授業は、大学共通のカリキュラム・ポリシー「現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身に付けるとともに、幅広い視点から物事を判断する知識を修得する」に対応している。	(1)自分の健康状態や体力を維持・改善するための適切な方法を選択できるようになる。 (2)テニスの基本的なルールや技術を学習し、試合を行うことができるようになる。 (3)種目の特性と自分に合った体力トレーニングについて学び、実践できるようになる。	●		◎	
	ENG-101	英語 I	演習	2	1		○		本授業では、高校までに学習した基礎的な英文法を振り返り、実際のコミュニケーションの場面で活用できる「文法力」を身につけることを目標とします。併せて、各課のテーマに関連した語彙や慣用表現を学修し、表現力の幅を広げます。なお、本授業で学修する「文法」「語彙」「慣用表現」は、英語Ⅲ～Ⅵで学ぶ英語の実践運用のための運動した基礎力となります。なお、本講義の内容は常盤大学カリキュラムポリシー②に関連しています。	(1)与えられた状況において適切な文法項目を選択し、正確に用いることができる。 (2)与えられた状況において適切な語彙・慣用表現を選択し、正確に用いることができる。		●		
	ENG-102	英語 II	演習	2	1		○		本授業では、英語 I に引き続き高校までに学習した基礎的な英文法を振り返り、実際のコミュニケーションの場面で活用できる「文法力」を身につけることを目標とします。併せて、各課のテーマに関連した語彙や慣用表現を学修し、表現力の幅を広げます。なお、本授業で学修する「文法」「語彙」「慣用表現」は、英語Ⅲ～Ⅵで学ぶ英語の実践運用のための運動した基礎力となります。また、このクラスでは語学検定試験(CASEC)を受験します。なお、本講義の内容は常盤大学カリキュラムポリシー②に関連しています。	(1)与えられた状況において適切な文法項目を選択し、正確に用いることができる。 (2)与えられた状況において適切な語彙・慣用表現を選択し、正確に用いることができる。 (3)各レベルで設定された外部試験の到達目標を達成することができる。		●		
	ENG-103	英語 III	演習	2			○		本授業は高校までの学習内容を確認するとともに、基本的な聞く・読む・話す(やり取り・発表)・書く力の向上を目指し、英語を使って何ができるかを実感しながら進められます。また教材の文化的背景を理解するとともに、他者との協働や課題の達成を通して、情報の理解と基本的な言葉での表現などの学力要素や主体的に学習を行う態度を涵養することで自分自身のニーズに合った英語力を育成していきます。なお、本講義の内容は常盤大学カリキュラムポリシー②に関連しています。	(1)自分に関連した話題について、基本的な語を使用した表現や初歩的な手順や指示等の音声を、視覚補助教材等を使って理解できる。(聞く) (2)自分に関連がある話題について、挿絵付等の基本的な文の要点を理解し必要な情報を取り出すことができる。(読む) (3)基本的な英語を使用し、なじみのある話題について意見の交換・勧誘・順序立てた説明などができる。(話す:やり取り) (4)事前準備することを前提に、視覚補助教材等を使って、自己紹介・自分の住む地域など身近な話題について、簡単なスピーチや日常生活、自分の意見について基本的な説明等ができる。(話すこと:表現) (5)自分の経験や趣味などについて基本的な英語を使用して書ける。また、個人的なメールなどを作成したり、写真等の説明文を作ったりすることができる。(書く)		●		
	ENG-104	英語 IV	演習	2			○		本授業は英語Ⅲに引き続き高校までに学習した英語に関する内容を確認すると共に、さらに聞くこと・読むこと・口頭でのやり取り・口頭での表現・書くこと各領域の向上を目指し、英語を使って何ができるかを実感しながら進められます。また様々な話題の文化的背景を理解するとともに、他者との協働や課題の達成を通して、情報をどうやって捉え自分の考えとして表現するかなどの学力要素や主体的に学習を行う態度を涵養する中で、自分自身のニーズに合った英語力を育成していきます。なお、本講義の内容は常盤大学カリキュラムポリシー②に関連しています。	(1)自分に関連があること(例:家族・学校・地域)に関連した語を使用した表現や、手順や指示等の音声を視覚補助教材等を使って理解できる。(聞くこと) (2)自分に関連がある話題(例:テレビ・物語・趣味など)について挿絵付等の平易な文の要点を理解し必要な情報を取り出すことができる。(読むこと) (3)平易な英語を使用しなじみのある話題について意見の交換や、駅や店などでのやり取り・勧誘・順序立てた説明などができる。(話すこと:やり取り) (4)事前準備することを前提に視覚補助教材等を使って、自己紹介・自分の住む地域など身近な話題について簡単なスピーチ、意見や行動の計画についての説明等ができる。(話すこと:表現) (5)自分の経験や趣味などについて文章が書ける。また、個人的な手紙やメールを作成したり、接続詞等を使った写真等の説明文を作ったりすることができる。(書くこと)		●		
	ENG-201	英語 V	演習	2			○		本授業は英語Ⅳまでに学んだ聞く・読む・話す(やり取り・発表)・書く力の運用力を応用するために、実際に英語の使用が想定される状況や身近な話題に関する題材についての主要理解や意見の表現などの目標達成に主眼が置かれます。また、社会で使用が予想される言語内容に基づいた教材の使用や課題達成のための協働を通して、意見の異なる他者理解や自立の精神の育成を図ります。なお、本講義の内容は常盤大学カリキュラムポリシー②に関連しています。	(1)簡潔な動作の手順などを理解し指示通りに行動できる。また、具体的な事実の主要を理解できる。(聞く) (2)平易な英語で表現される説明文などを理解し必要な情報を取り出すことができる。(読む) (3)賛成や反対など自分の意見を伝えると同時に意見の交換ができる。また、物や人を比べたり、手順について説明ができる。(話す:やり取り) (4)効果的に視覚教材等を使って自分の生活に関連することについて発表ができる。また、意見や行動の計画を理由などとともに説明することができる。(話す:表現) (5)自分の経験等の説明文等を書くことができる。平易な語彙や表現を使用しながら自分に関連のあることについて意見を述べたり物事の手順について書いたりできる。(書く)		●		
	ENG-202	英語 VI	演習	2			○		本授業は英語Ⅴまでに学んだ聞く・読む・話す(やり取り・発表)・書く力の運用力をさらに深化・発展させるために、英語の使用が想定できる状況など、実践に近い形で英語を使うことに主眼が置かれた授業を展開します。また、具体的な学習目標を設定することで、自分の進捗を確認しながら、外からの情報を相手に伝えるとともに、自分の考えを混ぜたり例を挙げたりして説明するといった学力の養成も合わせて行います。また、このクラスでは語学検定試験(CASEC)を受験します。なお、本講義の内容は常盤大学カリキュラムポリシー②に関連しています。	(1)様々な話題に関する事実の主要を理解できる。(聞く) (2)様々な話題の説明文などを理解し必要な情報を取り出すことができる。(読む) (3)様々な話題について自分の意見を伝えながら意見交換ができる。また、物や人を比べるなど状態の説明や提案ができる。(話す:やり取り) (4)効果的に視覚教材等を使って、自分の生活に関連することなどについて分かりやすい語彙や表現を使用しながら、意見・事例等を適宜入れながら発表ができる。(話す:表現) (5)事実について分かりやすい語彙や表現を使った説明文を書くことができる。自分に関連のあることなどについて分かりやすい語彙や表現を使用して説明や感想、意見を書くことができる。(書く) (6)各レベルで設定された外部試験の到達目標を達成することができる。		●		
	ENG-301	上級英語 I	演習	2	1		○	Global Citizenship	「地球市民として生きる」をテーマに、2015年に国連総会で採択されたSDGsを取り上げた英文テキストの講義を進めていきます。世界は、環境問題、戦争や紛争、貧困など様々な問題に直面していますが、これらの問題が私たちの日常生活と密接につながりあっていることはあまり知られていません。本講義では、この世界と日常とのつながりに焦点を合わせて、「地球規模の問題」について理解を深めていくと同時に、私たちの日々の暮らしや生き方についても問い直していきます。英文の正しい理解にとどまらず、地球時代に地球市民としてどのように生きるべきか、深く考える機会を提供したいと思います。 (※本講義は、常盤大学のカリキュラム・ポリシー①②と関連する)	(1)地球規模の問題相互のつながりを説明できる。 (2)地球規模の問題と私たちの暮らしとのつながりを指摘できる。 (3)自分たちのものの見方は、多様なものの見方の一つにすぎないことを認識できる。 (4)自らの体験にもとづいて、自分の考えを自分の言葉で表現できる。 (5)自分たちの日常から、問題解決に向けて行動することができる。		●		

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	秋学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連			
										1.目的意識をもって精力的に学んだ後、職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。(知識・理解、態度)	2.グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で問題を捉え、その問題解決に真摯に取り組むことができる。(知識・理解、思考・判断、技能)	3.集団の中で状況に応じて自分の役割を意識し、役割遂行に向けて最善の努力を惜しまず、積極的に柔軟性をもった思考力を身につけている。(思考・判断、態度)	4.プロジェクト型の取り組みで企画を創造的に立案し、チームワークを高めることに貢献して目標達成に向けて真摯に努力することができる。(知識・理解、態度)
	ENG-301	上級英語 I	演習	2	1	○	基礎からのTOEIC演習	この授業では、TOEICの全パートを対象とした解説と演習を行います。各パートの問題の解き方や学習のポイントなどを説明し、それをもとにテキストの問題を解きます。解説から演習という流れから、TOEICへの理解を深めてもらいます。また、演習からTOEICのパートごとの出題傾向や問題形式を把握できるようにします。これらに加えて、TOEIC対策の授業を活用し、英語の基礎力を養成する学習も行います。語彙や文法など英語を使えるようになるために必要な知識を学び、運用する力を養います。	(1) TOEICの問題形式を理解することができるようになる。 (2) TOEICの基礎的な語彙を身につけることができるようになる。 (3) TOEICで出題される基礎的な文法を理解することができるようになる。 (4) リスニングパートの演習を通して、基本的な英語の音声の書き取りと聞き取りができるようになる。 (5) リーディングパートの演習を通して、英文の概要を把握することができるようになる。	●			
	ENG-302	上級英語 II	演習	2	1	○	英語で学ぶ「健康生活と食育と栄養(入門編)」	本講義は本学カリキュラムポリシー②に基づき、国際共通語としての英語を学生が段階的に学べるように編成されています。取り組みやすい長さの英文を使用しながら、食と健康に関する話題を学んでいきます。日本の文化に根差した「お弁当」や、「給食制度」、「こども食堂」、食と宗教的配慮についての概略をはじめ、砂糖税や、遺伝子組み換え食品の話など、専門用語がわからなくても楽しみながら学べるトピックから、海外の人とのスモールトーク(立ち話)に役立つ話題を取り扱います。	【英語運用能力】 (1) テーマに関連した語彙を増やすことができる。 (2) 英単語を、学習範囲に限って、一通り発音できる。 【異文化理解・多文化共生】 (3) 他文化に対して「繊細になる」あるいは「感受性を高める」という概念を概説できる。 (4) 文化的背景の異なる人々と対話するときに気を付けるとよいことを具体的にあげることができる。	●			
	ENG-302	上級英語 II	演習	2	1	○	TOEIC全パート演習	この授業では、TOEIC全パートの演習を行います。解説よりも各パートの問題演習に重点を置いた授業となります。問題を解きながらそれぞれのパートの特徴を理解し、パートごとへの対応力を養成します。また、演習を通してTOEICの問題形式や出題傾向に慣れ、スコアを上げられることを目指します。また、TOEIC対策の学習を通して、聞く力を強化し、語彙や文法などの英語の基礎となる知識を身につけられるようになります。そして、それらを運用できるようにもします。	(1) TOEICの問題形式を理解することができる。 (2) TOEICの頻出語彙や表現を身につけ、運用することができる。 (3) TOEICで出題される文法を理解し、運用することができる。 (4) リスニングパートの演習を通して、会話のやり取りや説明文の内容を理解することができる。 (5) リーディングパートの演習を通して、メールや広告文、オンラインチャットの内容を理解することができる。	●			
	ENG-303	上級英語 III	演習	2	1	○	Caring for People—病院内の「専門用語の入り交じった日常会話」修得を目指して	本講義は本学カリキュラムポリシー②に基づき、国際共通語としての英語を学生が段階的に学べるように編成されています。看護学生を対象に実践的な英語によるコミュニケーション能力、あるいは、「専門用語の入り交じった日常会話」(教科書「はじめに」)の学修の機会を提供します。学生には、医療の現場で他者とのおこなわれるコミュニケーション活動や、多様な背景をもつ人々へのケア・サービスに必要とされる文化に対する感受性について考えてもらいます。本講義は①発話・対話(会話練習)を重視します。②専門用語の習得を第一目的とはしません。 看護学部生を対象としますが、学ぶ意思のある他学部生の履修も歓迎します。	【英語運用能力】 (1) シーンごとに適切な会話表現を使うことができる。 (2) 英単語を、学習範囲に限って、一通り発音できる。 【異文化理解・多文化共生】 (3) 他文化に対して「繊細になる」あるいは「感受性を高める」という概念を概説できる。 (4) 文化的背景の異なる人々と対話するときに気を付けるとよいことを具体的にあげることができる。	●	●	●	
	ENG-304	上級英語 IV	演習	2	1	○	TOEICトレーニング イディオムと語彙を中心に	本講義は本学カリキュラムポリシー②に基づき、国際共通語としての英語を学生が段階的に学べるように編成されています。本講義はやや上級者向けのTOEICトレーニングのコースです。パート5(イディオムや語彙)に焦点を当てた教材を使用し、語彙を増やす小テストをはじめ実践とその解説、そして受講生による予習復習を基本として進めます。	【語学(英語)運用能力】 (1) TOEICの出題方法と点数の意味するところが理解できる。 (2) 英語を教わるのではなく、自ら「調べる」習慣を身につけて実践できる。 (3) 仕事の場で使用される英単語・表現の関連する語彙を見聞きしたときに理解できる。 (4) 他者と会話をするときに、より幅広い英語表現を使用できる。 【異文化・国際理解】 (5) 英語の単語・表現の持つ意味を理解することで、物事を多角的に捉えることができる。	●			
	ENG-304	上級英語 IV	演習	2	1	○	くまのプーさんを丁寧に読もう!	本講義は、国際共通語としての英語に焦点を当て、一人ひとりが段階的に学べるようにカリキュラム・ポリシーに基づき、童話Winnie-The-Poohのお話の一部を丁寧に読み進め「プーさん」の可愛らしさ・愛くるしさを考察します。毎講義、複数名の担当者を決めて、担当範囲内に見える言動や単語一つ一つを根拠に、可愛らしさの理由に迫ってもらいます。また、担当者以外の方は、毎度講義前に用意される読み解くための課題をやってもらい、内容の正確な理解をはかります。	(1) 物語の内容を正確に理解できる。 (2) 理解した内容や本文の特徴を簡単にまとめ、自分の言葉で表現できる。 (3) 他の童話も積極的に読み進められる。	●			
	CHI-101	中国語 I	演習	2	1	○	初心者向けの中国語	中国語を学んだことがない人を対象とした授業です。中国語の発音の仕方、挨拶言葉、最も基本的な単文の作り方、身近な事柄を表す単語を学習します。特に日本人にとって難しい中国語の発音に慣れるように、繰り返し発音を練習します。新しい言語の世界に入っていく経験を通して、異文化世界に入っていくことの喜びと難しさを体験します。本授業は、大学のカリキュラムポリシー①に基づき、幅広い視点、多様でかつ調和が取れた教養を身につけるために開講されています。	(1) 中国語の発音を表すローマ字表記であるピンインを正しく発音できる。 (2) 簡単な自己紹介が中国語でできる。 (3) 簡単な質問が中国語でいえる。簡単な質問に中国語で答えられる。 (4) 1~100の数字を中国語で言える。1~100の中国語の数字を聞き取ることができる。 (5) 英語以外の外国語学習を経験することによって、豊かな国際感覚を養うことができる。	●			
	CHI-201	中国語 II	演習	2	1	○	初級中国語	中国語 I で習得した事柄の上に、より多様な中国語表現を身につけていきます。日常的な場面を想定した中国語を学び、基本的な文法を理解しつつ、実際に使えるように音読や場面練習を繰り返します。本授業は、大学のカリキュラムポリシー①に基づき、幅広い視点、多様でかつ調和が取れた教養を身につけるために開講されています。	(1) 短い文を中国語で作って、簡単な事柄を表現できる。 (2) 簡単な中国語の単文を聞き取ることができる。 (3) 自分の意向を伝えたり、相手の意向を尋ねたりできる。 (4) 英語以外の外国語を学ぶことによって、豊かな国際感覚を養うことができる。	●			
	CHI-301	中国語 III	演習	2	1	○	ステップアップの中国語	この授業では、中国語 I・II で修得した中国語の基礎力を前提に、より高度な中国語の表現や文法を身につけていきます。多様な話題の中国語を学びながら、それらを実際に使えるように音読や場面練習を繰り返します。本授業は、大学のカリキュラムポリシー①に基づき、幅広い視点、多様でかつ調和が取れた教養を身につけるために開講されています。	(1) 中国語の基本的な文法事項を理解し、運用することができる。 (2) 中国語の多様な内容の文の意味を理解し、聞き取ることができる。 (3) 基本的な日本語の単文を中国語に訳すことができる。 (4) 英語以外の外国語を学修することによって、豊かな国際感覚を養うことができる。	●			
	CHI-302	中国語 IV	演習	2	1	○	中級中国語	この授業では、中国語 I・II・III で修得した中国語能力を前提に、さらに高度で多様な表現を身につけていきます。中国語の主要な文法事項を一通り学び終えます。実際に使えるように音読や場面練習を繰り返します。本授業は、大学のカリキュラム・ポリシー①に基づき、幅広い視点、多様でかつ調和が取れた教養を身につけるために開講されています。	(1) 中国語の主要文法を理解できる。 (2) ある程度まとまった分量の中国語の文章をポイントを押さえて聞き取ることができる。 (3) 多様な場面で、中国語で簡単なやり取りができる。 (4) 英語以外の外国語を学修することによって、豊かな国際感覚を養うことができる。	●			

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	春	秋	サバタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連			
												1.目的意識をもって精力的に学んだ後、職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。(知識・理解、態度)	2.グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で問題解決に真摯に取り組むことができる。(知識・理解、思考・判断、技能)	3.集団の中で状況に応じて自分の役割を意識し、役割遂行に向けて最善の努力を惜しまず、積極的に柔軟性をもった思考力を身につけている。(思考・判断、態度)	4.プロジェクト型の取り組みで企画を創造的に立案し、チームワークを高めることに貢献して目標達成に向けて真摯に努力することができる。(知識・理解、態度)
	KOR-101	韓国・朝鮮語 I	演習	2	1			○	この科目は韓国・朝鮮語への「入門」である。春 semester では、独特な形の韓国・朝鮮語の文字ハングルについて知り慣れること、身近な事柄についての会話を韓国語でできるように練習していく。授業はテキストに従って進めるが、補助教材としてプリントを配布する。毎回一つのトピックを設定して、それを中心とした会話をいくつか学んだ後、パターン・プラクティスの反復練習をしていく。最後に応用練習問題を解きながら定着をはかる。朝鮮半島の文化や最新の社会事情についても、写真や映像を見せながら紹介していく。本科目は、カリキュラム・ポリシー①に該当する。	(1) 韓国語の文字ハングルの構成を理解し、読み書くことができる。 (2) 韓国語であいさつができ、簡単な会話ができる。具体的には、自己紹介、身の回りのものについて韓国語で紹介することができる。趣味や普段の生活について韓国語で述べるができる。 (3) 韓国語の簡単な文章を日本語に訳すことができる。日本語との比較を行い、日韓の文化の違いについて理解することができる。 (4) 授業では韓国の歴史、政治、経済、文化などについて話題をとりあげ、朝鮮半島への理解を深めることができる。	●	●			
	KOR-201	韓国・朝鮮語 II	演習	2	1			○	韓国語会話【応用編】 ハングルが読める、または「韓国・朝鮮語 I」の履修済みの者を対象とする。韓国語 I に引き続き、テキストに沿ってより豊かな韓国語会話を学んでいく。具体的にはまず、教材にある構文について理解し、正確な発音で読む練習をした後に、単語を入れ替えたり、文を展開したりなどの練習を経て、様々な発話の「枠組み」として使用できるようにする。歴史文化や習慣、最近の韓国事情についての紹介を通じ、それらに対する理解を深める。パソコンでの韓国語文書の作成、インターネットの検索、韓国語のメール作成なども取り入れ、朝鮮半島の多様な情報を解説、収集できるように練習する。この授業は、カリキュラム・ポリシーに示された現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身につけ、視野を広げることを目指す科目のひとつである。	(1) 今期の学修を通して、韓国語でくだけた表現、過去のことについて述べるができるほか、願望や禁止、仮定など豊かな表現を身につけることができる。 (2) 韓国語の基本文法を理解し、作文に活用できるようにする。 (3) 韓国語で書かれた文書が読めて、日本語に訳すことができる。 (4) 日韓の文化の違いについての理解を深めることができる。		●			
	KOR-301	韓国・朝鮮語 III	演習	2	1			○	この授業は、カリキュラム・ポリシーに示された現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身につけ、視野を広げることを目指す科目のひとつである。文字と発音の基礎的な知識を習得した学生を対象とする。韓国語の文法事項や表現を学びながら、文化と社会についての理解を深める。受講生の関心に合わせて補助教材を作成し、プリントにして配布する。韓国語と日本語との類似点(語順・助詞・漢字語など)を活用し、できるだけ受講生の自発的な気づきを導き出すように工夫する。語句や文法表現の意味の理解を促すため、反復練習や教室活動を取り入れて、学習内容の定着をはかる。	(1) 韓国の文化・言語に対して、より深い理解を持ち、読む・書く・聴く・話すための総合的な能力が、よりいっそう向上する。 (2) 「韓国・朝鮮語 IV」と合わせて、一年間で会話・講義の基礎となる文法事項を一通りマスターすることができる。 (3) 文法を理解し、活用すると同時に、日常生活に関連する様々な表現を学び、自然な会話ができるようになる。 (4) 韓国語検定試験の初中級程度に合格する程度の力を身につけることができる。		●			
	KOR-302	韓国・朝鮮語 IV	演習	2	1			○	この授業は、カリキュラム・ポリシーに示された現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身につけ、視野を広げることを目指す科目のひとつである。韓国語中級の表現・文法を段階的に学ぶ。文法・構文を理解すると同時に、自然な会話ができるように練習する。様々な表現を使って、身近な話題だけではなく、自分の意見や情報について話すことを練習する。教師主導の講義型授業方式ではなく、コミュニケーション活動を取り入れた授業づくりをしていく。	(1) 韓国の文化・言語に対して、より深い理解を持ち、読む・書く・聴く・話すための総合的な能力が、よりいっそう向上することを目標とする。 (2) 韓国語の文法事項を一通りマスターすることができる。 (3) より高度な会話や文章の理解・読解が可能である。 (4) 中級レベルの韓国語検定試験に合格する力を身につけることができる。		●			
	GER-101	ドイツ語 I	演習	2	1			○	ドイツ語を楽しく学ぼう ドイツ語の基礎を学びながら、ドイツやオーストリアなどの文化にも触れます。ドイツ語を楽しく学びましょう。前期は発音から始まり、動詞の現在形を学び、疑問文、冠詞、人称代名詞まで一通り学びます。さらに挨拶や重要表現、数字なども学びます。学んだ内容が記憶に定着するよう、繰り返し学習します。毎回ドイツやスイス、オーストリアなどに関するビデオを見ながら進めます。ドイツはヨーロッパの中心にあり、日本との関わりが深い、EUを代表する国の一つです。ドイツやスイス、オーストリアを知ることは、カリキュラム・ポリシーの求める、現代社会に生きる日本人にとって不可欠な教養であり、幅広い視点から物事を判断する知識を習得することができます。	(1) 英語以外の新しい語学を学ぶことで、コミュニケーションの幅と能力を拡大し、世界を広げることができる。 (2) ドイツ、スイス、オーストリアを旅した際、現地の人と交流できる。 (3) ドイツ語の発音に慣れ、文の構造を知り、どれが主語や動詞でどれが目的語か識別し、意味を理解できるようになる。 (4) 挨拶をはじめとする基本的な表現を学び、使えるようになる。 (5) 外国語の修得を通じて、ディプロマ・ポリシーの求める、深い教養と豊かな国際感覚を身につけ、グローバル社会における問題解決能力を高めることができる。		●			
	GER-201	ドイツ語 II	演習	2	1			○	ドイツ語を楽しく学ぼう ヨーロッパの中心に位置するドイツ。ドイツ語を学びながら、ドイツやオーストリアなどの文化に触れます。後期は最初に前期の復習を行い、次に命令文、さまざまな疑問文まで学びます。さらに挨拶や重要表現なども学びます。毎回オーストリアや『サウンド・オブ・ミュージック』のドイツ版などのビデオを見ながら進めます。ドイツはヨーロッパの中心にあり、日本との関わりが深い、EUを代表する国の一つです。ドイツやスイス、オーストリアを知ることは、カリキュラム・ポリシーの求める、現代社会に生きる日本人にとって不可欠な教養を身につけ、幅広い視点から物事を判断する知識を習得することができます。	(1) 英語以外の新しい語学を学ぶことで、コミュニケーションの幅と能力を拡大し、世界を広げることができる。 (2) ドイツ語の発音に慣れ、文の構造を知り、どれが主語や動詞でどれが目的語か識別し、意味を理解できるようになる。 (3) 挨拶をはじめとする基本的な表現を学び、使えるようになる。 (4) 後期は助動詞構文などの文章も理解できるようになる。辞書さえあれば文章を訳すことができるようになる。 (5) 外国語の修得を通じて、ディプロマ・ポリシーの求める、深い教養と豊かな国際感覚を身につけ、グローバル社会における問題解決能力を高めることができる。		●			
	GER-301	ドイツ語 III	演習	2	1			○	ウィーンへの誘い ドイツ語 I、II を受講した者でさらにドイツ語やドイツ文化について学びたい人向け。テキストはウィーンを舞台とします。最初に1年次の復習を行い、文法や語彙の記憶を蘇らせます。そしてテキストを読み、辞書を引いて正確に意味内容を読み取る力を養います。ドイツ語を身につけるだけでなく、ビデオを見ながらドイツ、スイス、オーストリアなど中部ヨーロッパの歴史と文化に触れます。20世紀のドイツ・ヨーロッパにも触れます。ドイツはヨーロッパの中心にあり、日本との関わりが深い、EUを代表する国の一つです。ドイツやスイス、オーストリアを知ることは、カリキュラム・ポリシーの求める、現代社会に生きる日本人にとって不可欠な教養を身につけるとともに、幅広い視点から物事を判断する知識を習得することができます。	(1) 最初に1年次に学んだ文法事項を復習し、基本事項を確認し、知識を定着することができる。 (2) 基本的な文法を確認しながら、簡単な文章からはじめて徐々に少し長めの文章を読むことができる。基本的な日常会話も学ぶ。芸術の都ウィーンを舞台に日本人留学生の体験記を読むので、実際にウィーンに留学しているような感覚で学べる。 (3) 随時映像を見ながら、ウィーンはじめオーストリアやドイツ、スイスなど中欧の文化に触れることができる。じっくり学ぶことでドイツ語や中欧が身近なものとなる。 (4) 辞書さえあれば、ドイツ語の文章を訳し、理解できるようになる。 (5) 外国語の修得を通じて、ディプロマ・ポリシーの求める、深い教養と豊かな国際感覚で問題を捉え、グローバル社会における問題解決能力を高めることができる。		●			

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	春	夏	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)			
													1.目的意識をもって精力的に学んだ後、職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。(知識・理解、態度)	2.グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で問題を捉え、その問題解決に真摯に取り組むことができる。(知識・理解、思考・判断、技能)	3.集団の中で状況に応じて自分の役割を意識し、役割遂行に向けて最善の努力を惜しまず、積極的に柔軟性をもった思考力をもっている。(思考・判断、態度)	4.プロジェクト型の取り組みで企画を創造的に立案し、チームワークを高めることに貢献して目標達成に向けて真摯に努力することができる。(知識・理解、態度)
	GER-302	ドイツ語Ⅳ	演習		2	1			○	中欧への誘い ドイツ語を受講した者さらにドイツ語やドイツ文化について学びたい人向け。 テキストはウィーンを舞台とします。 テキストを読み、辞書を引いて正確に意味内容を読み取る力を養います。 ことばや映像を通してドイツ文化そして西欧文化に触れる機会になります。 ビデオを見ながらドイツ、スイス、オーストリアなど中部ヨーロッパの歴史や文化に触れます。 20世紀のドイツ・ヨーロッパにも触れます。ドイツはヨーロッパの中心にあり、日本との関わりが深い、EUを代表する国の一つです。ドイツやスイス、オーストリアを知ることが、現代社会に生きる日本人にとって大変有益であり、幅広い視点から物事を判断することに役立ちます。 西欧に暮らす人々の生活や考えをを歴史から学びましょう。	(1)今までに学んだ文法事項や慣用表現を復習・確認し、基礎力を固めることができる。 (2)文の構造を理解し、助動詞構文等を学び、理解できる。 (3)辞書さえ引けばテキストの意味内容を正確に読み取ることができる力を養うことができる。語感を養い、ドイツ語の文章に慣れる。 (4)映像を見ながら、20世紀のドイツ、スイス、オーストリアなど中欧の社会と文化に触れることができる。じっくり学ぶことでドイツ語圏や中欧が身近なものとなる。辞書さえあれば、ドイツ語の文章を訳し、理解できるようになる。 (5)外国語の修得を通じて、深い教養と豊かな国際感覚を身につけ、グローバル社会における問題を解決出来る。	●				
	FRE-101	フランス語Ⅰ	演習		2	1			○	講義形式で、フランス語の基礎を学んでいきます。はじめは、アルファベットの読み方から始め、基本的な文法事項、フランス語の知識を学びます。また、初歩的なコミュニケーション技術についても、随時授業内で触れていきます。加えて、授業中にフランスの文化や社会・歴史などの話も紹介します。フランス語Ⅱ(会話Ⅰ)と併せて受講することでフランス語での発信力がより効果的に身に付きます。単独での受講も可能です。	(1)フランス語の基礎的な文法事項が習得できる。 (2)フランス語の基本的な語彙が習得できる。 (3)簡単なコミュニケーションを行う能力を習得できる。	●				
	FRE-201	フランス語Ⅱ	演習		2	1			○	フランス語会話を学びます。教科書を用いた会話の練習だけでなく、例えば、フランス映画を見ながら、実践的なフランス語表現およびフランスの文化や歴史、社会の知識を学んでいきます。フランス語Ⅰ(総合Ⅰ)と併せて受講することでより効果的に知識の定着を図れます。単独でも履修可能です。	(1)会話の練習を通してフランス語の基礎的な文法事項、およびフランス語より幅広い状況での簡単なコミュニケーションを行う知識を習得できる。 (2)フランスの文化や歴史、社会の知識を一通り、概観する形で学べる。	●				
	FRE-301	フランス語Ⅲ	演習		2	1			○	このクラスは、基本的にはフランス語ⅠあるいはⅡを履修した学生が対象となります。フランス語あるいはⅡを履修せず受講を希望する場合は科目担当教員に事前に相談して下さい。 具体的には、フランスに行ったことを想定して、そこでのコミュニケーションに困らないようなフランス語の表現などを学んでいきます。あまり細かい文法事項にこだわらず、積極的に読み書き会話することに重点を置いた楽しい授業を目指します。 フランス語Ⅳ(会話Ⅱ)と併せて履修することでより効果的にフランス語による発信力を養成できますが、単独での履修も可能です。	(1)日常生活に必要なフランス語の知識を総合的に学び、簡単な文書の読み書きができ、かつある程度日常の事柄について会話ができるようになる。 (2)フランスの文化や社会や歴史について、興味を深めることができる。	●				
	FRE-302	フランス語Ⅳ	演習		2	1			○	フランス語会話を学びます。フランス語Ⅱ(会話Ⅰ)より少し進んだ会話ができるように練習問題を行い、映画等の様々な媒体を活用して実践的な会話力を身に付けていきます。同時に、フランスおよびフランス語圏の地域の文化や歴史、社会についても理解を深めていきます。 履修に当たってはフランス語あるいはⅡが原則前提となりますが、未修の場合は科目担当教員に事前に相談してください。 フランス語Ⅲ(総合Ⅱ)と併せて履修すると効果的にフランス語によるコミュニケーション力を養成できますが、単独での履修も可能です。	(1)フランス語Ⅱ(会話Ⅰ)より進んだ表現を学び、日常的な目的での会話がある程度出来るようになる。 (2)フランスおよびフランス語圏の文化や歴史、社会について、興味を深めることができる。	●				
	SPA-101	スペイン語Ⅰ	演習		2	1			○	初めてスペイン語を学ぶ方を対象に、スペイン語の発音から、最重要動詞を使った初級レベルの会話文までを講義する。加えて、言語の背景となるスペイン語圏(スペインとラテンアメリカ地域)の文化についても随時ふれる。 以上により、カリキュラムポリシー①に記載されている世界的な幅広い視点をスペイン語や文化背景を学ぶことによって身につけることができる。	(1)簡単なあいさつ・自己紹介と、最重要動詞serとestar(英語のbe動詞に相当)を用いた初歩会話ができるようになる。 (2)スペイン語圏諸国の基本事項(主に地理と民族)についての知識も習得できるようになる。 (3)ディプロマポリシーに記載されている国際社会の各分野で活躍できる実力を身につけることができる。	●				
	SPA-201	スペイン語Ⅱ	演習		2	1			○	スペイン語Ⅰで学習した初歩事項を基礎に、さまざまな重要動詞の直説法現在活用形を用いて基礎会話表現の幅を広げていく。加えて、言語の背景であるスペイン語圏(スペインおよびラテンアメリカ地域)の歴史や日常事情などについてもふれる。 以上により、カリキュラムポリシー①に記載されている世界的な幅広い視点をスペイン語や文化背景を学ぶことによって身につけることができる。	(1)使用頻度の高い動詞群を用いて、日常表現や特に自分の意志・希望などを動詞原形を併用して表現できるようになる。 (2)スペイン語圏諸国の諸事情に関してより他分野にわたる事項(歴史、文化、一般生活など)が理解できるようになる。 (3)ディプロマポリシーに記載されている国際社会の各分野で活躍できる実力を身につけることができる。	●				
	SPA-301	スペイン語Ⅲ	演習		2	1			○	スペイン語ⅠおよびⅡを履修済みの方を対象に、中級文法への重要なステップである過去表現を中心に講義する。加えて、言語の背景であるスペイン語圏(スペインおよびラテンアメリカ地域)の社会事情や諸文化についても随時ふれる。 以上により、カリキュラムポリシー①に記載されている世界的な幅広い視点をスペイン語や文化背景を学ぶことによって身につけることができる。	(1)過去表現の基礎の習得と、さまざまな過去表現(点過去・線過去・現在完了)の使い分けができるようになる。 (2)スペイン語圏の歴史、文化、政治経済など幅広い分野に関する深い知識を得ることができるようになる。 (3)ディプロマポリシーに記載されている国際社会の各分野で活躍できる実力を身につけることができる。	●				
	SPA-302	スペイン語Ⅳ	演習		2	1			○	スペイン語Ⅰ～Ⅲを履修済みの方を対象に、過去分詞や再帰動詞などの事項をマスターすることにより中級レベルのスペイン語をさらに究めていただく。加えて、言語の背景であるスペイン語圏(スペインおよびラテンアメリカ地域)の歴史・社会・文化など諸事情についても随時ふれる。 以上により、カリキュラムポリシー①に記載されている世界的な幅広い視点をスペイン語や文化背景を学ぶことによって身につけることができる。	(1)スペイン語Ⅲまでに学んだ直説法現在形と過去形をステップに、スペイン語文法の難関である再帰動詞が理解できるようになる。 (2)現在完了形や命令表現なども習得することにより、より幅広いスペイン語表現を駆使できるようになる。 (3)スペイン語圏の人文社会科学に関する基礎知識を得ることができるようになる。 (4)ディプロマポリシーに記載されている国際社会の各分野で活躍できる実力を身につけることができる。	●				
	JPN-101	日本語Ⅰ	演習		2	1			○	この授業は、本学のカリキュラム・ポリシー③と関連します。大学での学修に不可欠な、論理的な思考による表現能力の修得を目指し、自分で選んだテーマに沿ってレポートの作成を行います。レポート作成とは、自分の意見を相手に伝えるために、客観的なデータに基づき論理的な文章を書くということです。授業では専門的な文章を書くために必要な基礎知識、文章作成に必要な表現や文法などの基本事項を学びます。	(1)大学の授業で求められる論理的な文章の書き方の基本を身につけることができる。 (2)物事を筋道立てて考える姿勢、相手にわかりやすく伝えるスキルが習得できる。	●				
	JPN-102	日本語Ⅱ	演習		2	1			○	この授業は、本学のカリキュラム・ポリシー③と関連します。大学で学修する上で必要とされる読解力を身につけることを目的とします。毎回、トピックについて簡単に話合った後に読解作業を行います。内容の理解を確認した上で、そこで述べられていることについて各自の意見を述べます。論文を読む際に重要な文型や表現に着目し、精読します。それらと並行して文章の構造についても学びます。日本社会に関する時事問題を扱った新聞記事なども適宜扱います。	(1)文章に書いてある情報を拾い、内容を理解することができる。 (2)文章の中の論理も理解し、自分の立場から意見を言うことができる。 (3)文章に書かれていることについて、自分の視点で批判的に読むことができる。	●				

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連			
											1.目的意識をもって精力的に学んだ後、職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。(知識・理解、態度)	2.グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で問題解決に真摯に取り組むことができる。(知識・理解、思考・判断、技能)	3.集団の中で状況に応じて自分の役割を意識し、役割遂行に向けて最善の努力を惜しまず、積極的に柔軟性をもった思考力を身につけている。(思考・判断、態度)	4.プロジェクト型の取り組みで企画を創造的に立案し、チームワークを高めることに貢献して目標達成に向けて真摯に努力することができる。(知識・理解、態度)
語学科目	JPN-103	日本語Ⅲ	演習	2	1	○	○	N1相当の聴読解	この授業は本学のカリキュラム・ポリシー③に関連します。幅広い話題について書かれた論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、文章の構成や内容、詳細な表現意図を理解する力をつけます。また、自然なスピードのまとまりのある会話やニュース、講義を聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係や内容の論理構成などを詳細に理解したり、要旨を把握したりすることができる力をつけます。	(1)N1程度の漢字、語彙、文型を理解し、使えるようになる。 (2)抽象度の高い文章の構成や内容、詳細な表現意図を理解できるようになる。 (3)自然なスピードの談話を聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係や内容の論理構成などを詳細に理解したり、要旨を把握したりすることができるようになる。	●			
	JPN-104	日本語Ⅳ	演習	2	1	○	○	N2相当の聴読解	この授業は、本学のカリキュラム・ポリシー③に関連します。幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解する力、および、一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解する力をつけます。さらに、幅広い場面で自然に近いスピードのまとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりする力をつけます。	(1)N2程度の漢字、語彙、文型を理解し、使えるようになる。 (2)論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解できるようになる。 (3)自然に近いスピードの談話を聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係や内容の論理構成などを詳細に理解したり、要旨を把握したりできるようになる。	●			
	JPN-201	日本語Ⅴ	演習	2	1	○	○	読解と作文	この授業は本学のカリキュラム・ポリシー③に関連します。留学生が日本での日常生活で目にするであろうホームページ、パンフレット、雑誌の記事などの文字情報から、どのように必要な情報を得るかをタスクベースに読み進めていきます。そして、日本の社会や文化をよりよく知るための読み物を読んだ上でディスカッションを行い、感想や意見を交換します。また、目的に応じた文章を書く練習をします。毎回、NHKの「NEWS WEB EASYやさしい日本語で書いたニュース」を使って、実際の出来事にむすびつけた読解の練習をします。	(1)留学生が日常生活で目にするのが想定される文字情報や日本の社会と文化をよりよく知るための読み物を読むことを通じ、日本での留学生生活がより快適、豊かなものになるための読解力を身につけることができる。 (2)書く練習を通じ、自分が表現したいことを文章にして相手に伝えることができる。	●			
	JPN-202	日本語Ⅵ	演習	2	1	○	○	スピーチとプレゼンテーション	この授業は、本学のカリキュラム・ポリシー③に関連します。これまでに学習した文法を使って、語彙や表現を増やすよい機会にもなります。交換留学生は大学の授業や様々な場面で、スピーチやプレゼンテーションを依頼されるので、その練習のためにも、この授業で、正確な日本語を使って、よりよいスピーチやプレゼンテーションができるようになることを目指します。	(1)自分のレベルに合わせて、わかりやすい日本語を使い、聞き取りやすい発音で、スピーチやプレゼンテーションができるようになる。 (2)国や出身地、大学など、自分に関わることをわかりやすく紹介できる。 (3)他の人の話す内容について、興味を持って聞くことができる。 (4)自分と他の人との共通点や相違点を見つけ、相対的な価値観が持てる。	●			
	JPN-301	日本語Ⅶ	演習	2	1	○	○	漢字と語彙	この授業は、本学のカリキュラム・ポリシー③に関連します。自国で学んだ日本語の漢字・語彙の知識を生かしながら、日本で生活する上で必要な漢字・語彙を新たに習得していきます。日本での留学生生活に密着した漢字・語彙を学びますので、日本語初級の学生にとっても中級の学生にとっても、新たに学ぶ内容になります。	(1)日本で生活する上で必要な漢字・語彙の意味・用法を知り、使えるようになる。 (2)日本で新たに目にする漢字・語彙に意識的になり、自ら興味を持って学べるようになる。	●			
	JPN-302	日本語Ⅷ	演習	2	1	○	○	会話	この授業は、本学のカリキュラム・ポリシー③に関連します。留学生と日本人学生がペアやグループで、学生同士の対等な立場で、お互いに話したいことを日本語で話します。その経験を重ねることで、留学生が自分の話したいことを大学生らしい日本語で、自然に話せるようになることを目的とします。	(1)日本人学生と日本語で、話したい内容が話せるようになる。 (2)日本での生活に必要なさまざまな情報を日本人学生から得ることができる。 (3)日本人学生と対等な立場で、大学生らしい日本語の言葉遣いで話せるようになる。	●			
	BAS-111	学びの技法Ⅰ	演習	2	1	○	○	学びの技法Ⅰ	大学での学生生活・学習生活に限らず、社会に出た後にも必要とされる技法を習得してもらうための授業です。社会のどのような場でも求められる、大切な技法です。カリキュラム・ポリシーにもとづき、大学生活での心構えに始まり、ノート取りを含む傾聴、読解、情報センター(図書館)を利用した調査、小レポートの作成までを扱います。この授業を終えた後も、日々の授業の中で学修内容を振り返ることで、この技法をさらに確実に身につけられます。	(1)講義等を傾聴し、基本的な文章を読み、その要点を把握できる。 (2)ITC機器を適切に利用して情報資源を検索し、基本的な調査ができる。 (3)論理的に構成された小レポートを作成できる。	●			
	BAS-112	学びの技法Ⅱ	演習	2	1	○	○	学びの技法Ⅱ	大学での学生生活・学習生活に限らず、社会に出た後にも必要とされる技法を習得してもらうための授業です。カリキュラム・ポリシーにもとづき、専門の入門レベルにあたる、やや難解な文章の講読、専門的な資料調査とプレゼンテーション、そしてレポート作成を中心に行います。この授業を終えた後も、日々の授業の中で学修内容を振り返ることで、この技法をさらに確実に身につけられます。	(1)ITC機器を適切に利用して、各種の資料を適切に検索し、より詳しい調査ができる。 (2)ITC機器を適切に利用して、効果的なプレゼンテーションができる。 (3)論理的に構成されたレポートを作成できる。	●			
	BAS-121	統計の基礎	講義	2	1				社会における急速な情報化の中で、統計的な見方・考え方を育成することが重要視されている。特に、統計的な見方・考え方は実証的研究を行う上で基礎であり、人文科学や社会科学において、実験、調査、観察研究等で得られるデータを分析し推論する力が必要である。この講義では、データを分析しデータの特徴を把握するための「記述統計学」及び「推測統計学」の基礎的な知識の習得を目的とする。	(1)統計学の基本的な考え方を理解し、専門性や創造性を高めるために用いることができる。(DPIに該当) (2)データを収集し、分析したうえで、分析結果をグラフや図などを用いて視覚的にすることができる。 (3)分析結果やグラフからデータの傾向について考察することができる。	●			
	BAS-131	情報の処理Ⅰ	演習	2	1	○	○		大学のカリキュラム・ポリシー③「大学での学びの基礎として、「読む・聴く」「書く・語る・伝える」「調べる」といった基本技法、統計によりデータを的確に集めてまとめる手法、そして、コンピュータで情報を分かりやすく整理し表現するスキルが身に付くための初年次教育を実施する。」に基づき、コンピュータで情報を分かりやすく整理し表現するための技能や、今日の情報社会において情報を適切に活用するための情報モラルに関する知識の習得を目指す。	(1)コンピュータに関する基礎知識、 (2)レポート作成のための基礎知識・技能、 (3)発表資料作成のための基礎知識・技能、 (4)インターネットと情報モラルに関する基礎知識の理解が可能となる。	◎	●		
BAS-132	情報の処理Ⅱ	演習	2	1	○	○		大学のカリキュラム・ポリシー③「大学での学びの基礎として、「読む・聴く」「書く・語る・伝える」「調べる」といった基本技法、統計によりデータを的確に集めてまとめる手法、そして、コンピュータで情報を分かりやすく整理し表現するスキルが身に付くための初年次教育を実施する。」に基づき、表計算ソフトの使い方を習得し、見栄えの良い表やグラフを作成する。また、「データの正しい取り扱い」について学ぶとともに、日常生活で目にする数値の意味を理解できる能力の習得を目指す。	(1)表計算ソフトを用いた様々な表作成およびアンケート集計技能 (2)データセットの作成技能、 (3)測定尺度・データの性質の理解、 (4)実社会で目にする数値の処理方法技能、 (5)データの背後にある意味の理解が可能となる。	◎	●			

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	春	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)			
												1.目的意識をもって精力的に学んだ後、職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。(知識・理解、態度)	2.グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で問題を捉え、その問題解決に真摯に取り組むことができる。(知識・理解、思考・判断、技能)	3.集団の中で状況に応じて自分の役割を意識し、役割遂行に向けて最善の努力を惜しまず、積極的に柔軟性をもった思考力を身につけている。(思考・判断、態度)	4.プロジェクト型の取り組みで企画を創造的に立案し、チームワークを高めることに貢献して目標達成に向けて真摯に努力することができる。(知識・理解、態度)
	BAS-132	情報の処理	演習	2	1					大学のカリキュラム・ポリシー③「大学での学びの基礎として、「読む・聴く」「書く・語る・伝える」「調べる」といった基本技法、統計によりデータを的確に集めてまとめる手法、そして、コンピュータで情報を分かりやすく整理し表現するスキルが身に付くための初年次教育を実施する。」に基づき、コンピュータで情報を分かりやすく整理し表現するための技能や、今日の情報社会において情報を適切に活用するための情報モラルに関する知識、そして表計算ソフトの使い方を理解し、見栄えの良い表やグラフを作成する能力の習得を目指す。	(1)コンピュータに関する基礎知識、 (2)レポート作成のための基礎知識・技能、 (3)発表資料作成のための基礎知識・技能、 (4)インターネットと情報モラルに関する基礎的知識、 (5)表計算ソフトを用いた様々な表やグラフの作成のための基礎知識・技能 以上を習得できる。	◎	●		
	CAR-111	キャリア形成と大学	講義	2	1			○	自分のことを理解して自分のキャリアを考えよう！	この科目では、大学生活をどのように過ごし、卒業後どのような人生(キャリア)を歩んでいきたいかを考える。自分のことを再確認しながら、どんな勉強や経験を積んでいくのか、将来の進路について方向性を見つけていく。自分のことを表現したり、客観的に見たりすることによって、自分自身をより良く理解し、自分の将来を考えると共に、働く場所、働き方、働く時のルール、業種、職種などについて学び、働く場としての社会について知識を深める。	(1)今までの自分を振り返り、これからの自分を考え、目標を持つことができるようになる。 (2)社会の中で働く目的や働き方を理解し、時間の使い方、ワーク・ライフ・バランスのとり方を身につける。 (3)自分を理解するために、自分からみた自分、他者からみた自分の長所や短所を知り、より深く自己を理解する。 (4)働く場としての社会について知識を得て、働きかたについてイメージできるようになる。	●	○	◎	◎
	CAR-211	キャリア形成と産業社会	講義	2	2			○	産業と職業を知ろう！	この科目は「キャリア形成と大学」の次のステップとして、自分の周りの世界から視野を広げながら社会を見て、産業や職業をより良く理解することによって、卒業後の働く自分を考える。幅広い視点から社会や経済の基礎的な知識を積み重ね、グループワークをおこないながら産業構造や仕事の流れについて理解する。1人1業種を担当することにより、グループ発表では業種のつながりについて学び、伝わるプレゼンテーションをおこなう。	(1)社会の産業構造について学び、業種と職種について幅広い視点から考察できるようになる。 (2)テーマに沿って調べて発表する方法を身につける。 (3)グループワークを通して、コミュニケーション力を付ける。 (4)自分の進路として興味のある業種および職種について理解する。	●	○	◎	●
	CAR-121	キャリア演習Ⅰ	演習	2	2			○	時事問題を理解し、基礎力をつける！	社会への窓としての新聞を読むことは、知識を増やすだけでなく、社会の変化の方向を知ることもなり、自分の将来について考える材料を得ることになる。この科目では、幅広い視点から判断できる知識を学修し、時事問題について自分なりの意見を持つことを目指す。自分が選んだ新聞記事を授業で紹介することで自分の考えを伝える、グループ・ディスカッションを通して、意見の交換ができるようになる。時事問題に関心を持つことによって、社会経済を深く理解する。	(1)新聞を通して社会を知り、幅広い視点から自分のキャリアについて考えられるようになる。 (2)時事問題に関心を持ち理解を深めることで、グローバルな視点から国内外の社会情勢を理解できるようになる。 (3)現代社会に不可欠な伝わるプレゼンテーションができるようになると共に、自分の意見を主張できるようになる。 (4)グループ・ディスカッションの中で自分の意見を表明し、議論を構築できるようになる。	●	◎	◎	○
	CAR-221	キャリア演習Ⅱ	演習	2	2				就職に向けて準備しよう！	就職活動に必要な基礎的な知識を習得すると共に、職種について調べる方法を学ぶ。経済社会の多様な変化の中で、様々な職種の特徴や職場の選び方などを理解し、自分に合った仕事を探していく。興味のある職種を調べる中で、企業を比較する方法も学び、公務員を希望している人も同様な視点から職場をみることで、公共サービスを提供する立場を理解することができる。その上で、就職する時に志望理由などを書くエントリーシートの準備をする。	(1)幅広い視点から興味のある職種について、資料を調べ、発表することができる。 (2)多様な意見交換をおこない、グループ・ディスカッションで積極的に発言できるようになる。 (3)幅広い視点から相手に理解してもらうための自己PRを書くことができるようになる。 (4)就職するための志望理由などを考え、エントリーシートを作成することができるようになる。	●	○	◎	○
	CAR-331	インターンシップ	演習	2	2			○	事前学習をした上で就業体験をしよう！	インターンシップは、学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うことであり、産学官の連携によって行われるキャリア教育の1つの形態である。具体的には夏季休暇期間を利用して、その時期にさまざまな事業所や自治体によって提供される就業プログラムを体験する(期間は1週間が標準)。事前準備として業種や業務について調べ、実習先を選んだ上で、職場研究をおこなってから実習に参加し、報告の方法まで学ぶ。	(1)さまざまな業界、企業や自治体などの業務に関する理解を確かなものにするともに、社会や仕事に対する理解を深める。 (2)現代社会に不可欠な素養を身につけ、就職に向けて必要なビジネスマナー、心構え、取り組み姿勢、業種、業務内容、重点を置くべき学修、自分の強みづくりなどを理解し、在学中に準備することにつなげる。 (3)就業体験を通して、自分の適性や進路を見直す機会とする。 (4)伝わるプレゼンテーションができるようになる。	●	○	◎	●
	SPL-211	プロジェクトA	演習	4	1			○	地方自治力向上プロジェクトA	「自治体」「公務員」「行政」などに関心のある学生が集まり、自ら企画して実践していく授業科目「地方自治力向上プロジェクト」です。 2015年度には「頑張る自治体職員、目指せ学生シンポジウム」、2016年度には「住民投票シンポジウム」や「地方議員セミナー」を開催、2017年度には「人口減少問題」、2018年度には「女性活躍」、2019年度は「自治体魅力度」をテーマに全国的な調査等をして、シンポジウムの開催しました。 2020年度は新型コロナウイルスの影響によりオンラインにより行いました。テーマはズバリ！「オンラインでコロナ禍を考える」でした。 2021年度は、地域のまちづくりの主導的や役割を果たしている自治体の課題や取り組み、その職員の活動について、学生が彼らと交流することで、「公務員のあり方」「自治体のあり方」を理解・習熟することを目指します。 具体的には、学生の地方自治への関心や公務員希望の意欲向上を図るため、学生の発案をもとに、地方自治や地方行政に関するセミナーなどを開催します。 受講生はこれらの会合開催の企画運営を授業で学ぶこととなります。 合わせて、各自治体を訪問して、首長、議会、職員との交流を図り、自治体のあり方全体を学び、報告書の形にしてまとめていきます。 また、本年度は、法律行政学科の「自治体経営論」、総合政策学科の「立法技術論」の合同開講で県内自治体の職員を招いた実地に基づく講義を予定しており、当該科目を合わせて履修することで効果的な学びとしたいと考えています。	(1)プロジェクト型の取り組みを通して、地域の方々や自治体と意見交換をしながら、企画を創造的に立案することができる。 (2)コミュニケーション能力を高め、参加者と協力しながらプロジェクトを進め、目標達成に向けて努力することができる。 (3)グループの中で自分の役割を意識し、問題点を把握して解決するための思考力と実行力を身につけることができる。 (4)問題の解決に向けては多様なアプローチがあり、多様なもの見方があることを認識できる。			◎	●
	SPL-211	プロジェクトA	演習	4	1			○	ローカル・コミュニティ活性化プロジェクト(日光・日蔭/東京・檜原プロジェクト)	いわゆる限界集落をはじめとして、過疎・高齢化とそれに伴う諸現象は、現代日本の地域社会における最大の問題となっている。このプロジェクト科目は、常磐大学のカリキュラムポリシーである、「問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する」ものとして開講するものであり、具体的には過疎・高齢化が進行し、伝統行事の持続が困難に直面している栃木県日光市日蔭集落および東京都下の山間地において、地域再生活動を積極的に展開している東京都西多摩郡檜原村湯久保集落において、伝統芸能「日蔭獅子舞」(日光市指定無形民俗文化財)の運営・催行(日光・日蔭)および古民家再生事業(東京・檜原)への協力を中心的な取り組みとしながら、地域社会および地域文化が置かれている現況を実地に学ぶとともに、地域文化遺産の保護およびその活用を中心とした地域振興施策を提案したい。 ※新型コロナウイルスの動向によって、活動内容を組み替える場合がある。	(1)プロジェクト型の取り組みを通して、地域の方々や自治体と意見交換をしながら、企画を創造的に立案することができる。 (2)コミュニケーション能力を高め、参加者と協力しながらプロジェクトを進め、目標達成に向けて努力することができる。 (3)グループの中で自分の役割を意識し、問題点を把握して解決するための思考力と実行力を身につけることができる。 (4)問題の解決に向けては多様なアプローチがあり、多様なもの見方があることを認識できる。			◎	●

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	春学期	秋学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連			
												1.目的意識をもって精力的に学んだ後、職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。(知識・理解、態度)	2.グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で問題を捉え、その問題解決に真摯に取り組むことができる。(知識・理解、思考・判断、技能)	3.集団の中で状況に応じて自分の役割を意識し、役割遂行に向けて最善の努力を惜しまず、積極的に柔軟性をもった思考力を身につけている。(思考・判断、態度)	4.プロジェクト型の取り組みで企画を創造的に立案し、チームワークを高めることに貢献して目標達成に向けて真摯に努力することができる。(知識・理解、態度)
授業科目の区分	SPL-211	プロジェクトA	演習		4	1	○	○	キャンパスから始めるSDGs(春&秋):地球市民として生きるために	本科目は、春semesterには「地球市民教育(GlobalCitizenship Education)」の理論と実践をもとに、国連「持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)」について理解を深め、最終的に身近なキャンパスライフの変容を目指すことを目的としている。まず、SDGsの17の目標と行動について学び、それを踏まえて、小グループに分かれキャンパス内を調査し、身近な日常に潜む「地球規模の問題」を発見する。最終的には、グループごとに問題を1つ選択し、その解決に向けてミニプロジェクトを企画し実践してもらう。これらの具体的なアクションを通して、身近な日常生活において、地球市民としてどう生きるべきかを、参加者みんなで考えていく。 さらに、秋semesterには、最終的に、身近なキャンパスライフの変容を目指すことを目的としている。まず、春semesterに実践したミニプロジェクトをふりかえり、参加者全員で取り組める統合的なプロジェクトの実施計画を練る。ここでも小グループでの活動を基盤とするが、1つのテーマを各グループが相互に協力しあい問題解決を目指す、統合的なプロジェクトを立ち上げ実践することになる。また、本科目で実施したプロジェクトの成果と課題は、入念な検討を加えた上で、学生主体のSDG提言として、学内外に広く発信していく。	(1)プロジェクト型の取り組みを通して、地域の方々や自治体と意見交換をしながら、企画を創造的に立案することができる。 (2)コミュニケーション能力を高め、参加者と協力しながらプロジェクトを進め、目標達成に向けて努力することができる。 (3)グループの中での自分の役割を意識し、問題点を把握して解決するための思考力と実行力を身につけることができる。 (4)問題の解決に向けては多様なアプローチがあり、多様なものの見方があることを認識できる。			◎	●
	SPL-311	プロジェクトB	演習		4	2	○	○	地方自治力向上プロジェクトB	「自治体」「公務員」「行政」などに関心のある学生が集まり、自ら企画して実践していく授業科目「地方自治力向上プロジェクト」です。 プロジェクトBとして開講しますので、プロジェクトAの既履修者が対象となります。 プロジェクトBの履修者には、プロジェクト運営の企画立案とともに、Aでの経験を踏まえて、Aの履修者へのプロジェクト運営の助言等が特に求められます。 これまで、2015年度には「頑張る自治体職員、目指せ学生シンポジウム」、2016年度には「住民投票シンポジウム」や「地方議員セミナー」を開催、2017年度には「人口減少問題」、2018年度には「女性活躍」、2019年度は「自治体魅力度」をテーマに全国的な調査等をして、シンポジウムの開催しました。 2020年度は新型コロナウイルスの影響によりオンラインにより行いました。テーマはズバリ!「オンラインでコロナ禍を考える」でした。 2021年度は、地域のまちづくりの主導的役割を果たしている自治体の課題や取り組み、その職員の活動について、学生が彼らと交流することで、「公務員のあり方」「自治体のあり方」を理解・習熟することを目指します。 具体的には、学生の地方自治への関心や公務員希望の意欲向上を図るため、学生の発案をもとに、地方自治や地方行政に関するセミナーなどを開催します。 受講生はこれらの会合開催の企画運営を授業で学ぶこととなります。 合わせて、各自治体を訪問して、首長、議会、職員との交流を図り、自治体のあり方全体を学び、報告書の形にしてまとめていきます。 また、本年度は、法律行政学科の「自治体経営論」、総合政策学科の「立法技術論」の合同開講で県内自治体の職員を招いた実地に基づく講義を予定しており、当該科目を合わせて履修することで効果的な学びとしたいと考えています。	(1)プロジェクト型の取り組みを通して、地域の方々や自治体と意見交換をしながら、企画を創造的に立案することができる。 (2)コミュニケーション能力を高め、参加者と協力しながらプロジェクトを進め、目標達成に向けて努力することができる。 (3)グループの中での自分の役割を意識し、問題点を把握して解決するための思考力と実行力を身につけることができる。 (4)問題の解決に向けては多様なアプローチがあり、多様なものの見方があることを認識できる。			◎	●
	SPL-311	プロジェクトB	演習		4	2	○	○	ローカル・コミュニティ活性化プロジェクト/リーダー編(日光・日蔭/東京・檜原プロジェクト)	いわゆる限界集落をはじめとして、過疎・高齢化とそれに伴う諸現象は、現代日本の地域社会における最大の課題となっている。このプロジェクト科目は、常盤大学のカリキュラムポリシーである、「問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する」ものとして開講するものであり、具体的には過疎・高齢化が進行し、伝統行事の持続が困難に直面している栃木県日光市日蔭集落および東京都下の山間地において、地域再生活動を積極的に展開している東京都西多摩郡檜原村湯久保集落において、伝統芸能「日蔭獅子舞」(日光市指定無形民俗文化財)の運営・継承(日光・日蔭)および古民家再生事業(東京・檜原)への協力を中心的な取り組みとしながら、地域社会および地域文化が置かれている現況を実地に学ぶとともに、地域文化遺産の保護およびその活用を中心とした地域振興施策を提案したい。 なお、この授業は、プロジェクトAの履修者を対象として、引き続き上記課題に取り組みと共に、本プロジェクトおよび地域社会におけるリーダーとしての素養の獲得も目的とする。 ※新型コロナウイルスの動向によって、活動内容を組み替える場合がある。	(1)プロジェクト型の取り組みを通して、地域の方々や自治体と意見交換をしながら、企画を創造的に立案することができる。 (2)コミュニケーション能力を高め、参加者と協力しながらプロジェクトを進め、目標達成に向けて努力することができる。 (3)グループの中での自分の役割を意識し、問題点を把握して解決するための思考力と実行力を身につけることができる。 (4)問題の解決に向けては多様なアプローチがあり、多様なものの見方があることを認識できる。			◎	●
	SPL-212	プロジェクトC	演習		2	1	○	○	キャンパスから始めるSDGs(春):地球市民として生きるために<課題発見・解決型/ミニプロジェクト>	本科目は、「地球市民教育(Global Citizenship Education)」の理論と実践をもとに、国連「持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)」について理解を深め、最終的に身近なキャンパスライフの変容を目指すことを目的としている。まず、SDGsの17の目標と行動について学び、それを踏まえて、小グループに分かれてキャンパス内を調査し、身近な日常に潜む「地球規模の問題」を発見する。最終的には、グループごとに問題を1つ選択し、その解決に向けてミニプロジェクトを企画し実践してもらう。これらの具体的なアクションを通して、身近な日常生活において、地球市民としてどう生きるべきかを、参加者みんなで考えていく。	(1)プロジェクト型の取り組みを通して、地域の方々や自治体と意見交換をしながら、企画を創造的に立案することができる。 (2)コミュニケーション能力を高め、参加者と協力しながらプロジェクトを進め、目標達成に向けて努力することができる。 (3)グループの中での自分の役割を意識し、問題点を把握して解決するための思考力と実行力を身につけることができる。 (4)問題の解決に向けては多様なアプローチがあり、多様なものの見方があることを認識できる。			◎	●
	SPL-212	プロジェクトC	演習		2	1	○	○	キャンパスから始めるSDGs(秋):地球市民として生きるために<発信・提言型/統合的プロジェクト>	本科目は、春のプロジェクトCに引き続き、「地球市民教育(Global Citizenship Education)」の理論と実践をもとに、国連「持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)」について理解を深め、最終的に身近なキャンパスライフの変容を目指すことを目的としている。まず、春のプロジェクトCで実践したミニプロジェクトをふりかえり、参加者全員が取り組める統合的なプロジェクトの実施計画を練る。本科目でも小グループの活動を基盤とするが、1つのテーマを各グループが相互に協力し合い問題解決を目指す、統合的なプロジェクトを立ち上げ実践することになる。また、本科目で実施したプロジェクトの成果と課題は入念な検討を加えた上で、学生主体のSDG提言として、学内外に広く発信していく。	(1)プロジェクト型の取り組みを通して、地域の方々や自治体と意見交換をしながら、企画を創造的に立案することができる。 (2)コミュニケーション能力を高め、参加者と協力しながらプロジェクトを進め、目標達成に向けて努力することができる。 (3)グループの中での自分の役割を意識し、問題点を把握して解決するための思考力と実行力を身につけることができる。 (4)問題の解決に向けては多様なアプローチがあり、多様なものの見方があることを認識できる。			◎	●

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連			
										1.目的意識をもって精力的に学んだ後、職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。(知識・理解、態度)	2.グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で問題解決に真摯に取り組むことができる。(知識・理解、思考・判断、技能)	3.集団の中で状況に応じて自分の役割を意識し、役割遂行に向けて最善の努力を惜しまず、積極的に柔軟性をもった思考力を身につけている。(思考・判断、態度)	4.プロジェクト型の取り組みで企画を創造的に立案し、チームワークを高めることに貢献して目標達成に向けて真摯に努力することができる。(知識・理解、態度)
授業科目の区分	SPL-321	海外研修A	演習	2	1	○	アメリカ研修	本研修は本学のカリキュラム・ポリシー②に関連します。カリフォルニア大学アーバイン校で1ヶ月間実施される研修です。事前研修、米国現地研修、帰国後事後研修を経て報告レポートを提出します。本研修は異文化交流による視野の拡大とグローバル人材に成長するための礎として重要です。なお、本研修においては異文化交流、英語コミュニケーションのあり方につき講師の20年以上にわたる多国籍企業での実務経験や米国駐在経験も活かします。	(1)国際的な将来のキャリア像をイメージできるようになり、帰国後、具体的な行動計画に落とし込めるようになる。 (2)英語でコミュニケーションが求められる場面でも、臆することなく自然に会話に参加することができる。 (3)現地での異文化体験を通して、異なる視点から、自文化や自分のライフスタイルを再評価することができる。 (4)同世代の若者達との出会いを大切にし、現地研修終了後も、継続的な国際交流をすることができる。	●			◎
	SPL-321	海外研修A	演習	2	1	○	台北、中華文化研修	本研修は、本学のカリキュラム・ポリシー①に関連します。台北の国立台北教育大学においておおよそ1週間、大学の長期休暇を利用して実施される海外研修です。事前研修として、ガイダンスや簡単な中国語講座、台湾事情についての学び、テーマ調査準備などが行われます。現地では、大学の文化体験講座、市内見学、観光などが行われます。事後研修として、研修レポートを作成します。	(1)中華文化を基礎とする社会のあり方をイメージできる。 (2)生活に密着した中国語に触れる。異文化社会に身を置くことによって、自身の価値観を相対化することができる。 (3)海外で生活する経験によって自信を身につけることができる。	●			◎
	SPL-321	海外研修A	演習	2	1	○	タイの言葉と生活を体験しよう!	本研修は本学のカリキュラム・ポリシー①に関連します。タイのチェンマイ・ラチャバット大学で実施される2週間の海外研修です。大学間協定に基づき、本学学生のために、特別にプログラムが設計されます。研修期間中、日本語学科の学生がバディとなり、活動をサポートしてくれます。言葉の不安なく、海外の文化を体験できる内容になっています。事前研修として簡単なタイ語、タイ事情について学び、現地での日本紹介、各自で設定した課題の準備作業を行います。現地ではタイ語学習、文化体験、観光などのほか、各自の課題を遂行します。事後研修として、報告書を作成し、発表します。	(1)タイの文化や生活を体験することで、東南アジアの社会のあり方がイメージできる。 (2)異文化社会に身を置くことで、自身の文化や価値観を相対化することができる。 (3)自ら設定した課題を現地での実践をとおして追究できる。 (4)同世代の若者達との出会いを大切にし、研修終了後も継続的な交流をすることができる。	●			◎
	SPL-321	海外研修A	演習	2	1	○	茨城県とネグロス島をつなぐ国際交流・国際貢献	本研修は本学のカリキュラム・ポリシー①と⑥に関連します。常磐大学と連携協定を結んでいるBago City大学と、ネグロス島で国際貢献を続けるOISCA(国際NGO)の協力のもとで、2週間の現地研修を行います。まずBago City大学では、現地大学生と一緒に、話すことに特化した英語プログラムを受講します。また持続可能な社会の実現を目指して、ネグロス島に暮らす人々のニーズに応える国際貢献活動を行います。最終的に、現地に暮らす多様な人達(大学生、農業青年etc)と、国境を超えた絆づくりを目指します。	(1)異文化の人々(ネグロス島の人々)と国境越えたつながりをつくることできる。 (2)現地の人々のニーズに応える国際貢献活動を、自ら企画し、実行することができる。さらに、未来の課題を発見し、活動を発展させることができる。 (3)臆することなく勇気を持って、自らの体験を英語で表現することができる。	●			◎
	SPL-321	海外研修A	演習	2	1	○	韓国研修	本研修は本学のカリキュラム・ポリシー①に関連します。常磐大学と姉妹校協定を結んでいる大邱カトリック大学の協力のもとで現地研修を行います。大邱カトリック大学では、ネイティブの先生による韓国語の授業を受講し、語学力の向上を図ります。また、現地の大学生と一緒に文化体験プログラムを受けます。国際交流を行うことで、より広い視野を持つようになり、日韓友好に貢献します。短期間ではありますが、現地に赴き、さまざまな文化体験をすると同時に、国境を超えた絆づくりを目指します。	(1)語学力の向上を図ることができる。 (2)異文化を理解・体験し、より広い視野を持つ人になる。 (3)国境越えたつながりをつくることできる。	●			◎
	SPL-322	海外研修B	演習	2	1	○	アメリカ研修	本研修は本学のカリキュラム・ポリシー②に関連します。カリフォルニア大学アーバイン校で1ヶ月間実施される研修です。事前研修、米国現地研修、帰国後事後研修を経て報告レポートを提出します。本研修は異文化交流による視野の拡大とグローバル人材に成長するための礎として重要です。なお、本研修においては異文化交流、英語コミュニケーションのあり方につき講師の20年以上にわたる多国籍企業での実務経験や米国駐在経験も活かします。	(1)国際的な将来のキャリア像をイメージできるようになり、帰国後、具体的な行動計画に落とし込めるようになる。 (2)英語でコミュニケーションが求められる場面でも、臆することなく自然に会話に参加することができる。 (3)現地での異文化体験を通して、異なる視点から、自文化や自分のライフスタイルを再評価することができる。 (4)同世代の若者達との出会いを大切にし、現地研修終了後も、継続的な国際交流をすることができる。	●			◎
	SPL-322	海外研修B	演習	2	1	○	台北、中華文化研修	本研修は、本学のカリキュラム・ポリシー①に関連します。台北の国立台北教育大学においておおよそ1週間、大学の長期休暇を利用して実施される海外研修です。事前研修として、ガイダンスや簡単な中国語講座、台湾事情についての学び、テーマ調査準備などが行われます。現地では、大学の文化体験講座、市内見学、観光などが行われます。事後研修として、研修レポートを作成します。	(1)中華文化を基礎とする社会のあり方をイメージできる。 (2)生活に密着した中国語に触れる。異文化社会に身を置くことによって、自身の価値観を相対化することができる。 (3)海外で生活する経験によって自信を身につけることができる。	●			◎
	SPL-322	海外研修B	演習	2	1	○	タイの言葉と生活を体験しよう!	本研修は本学のカリキュラム・ポリシー①に関連します。タイのチェンマイ・ラチャバット大学で実施される2週間の海外研修です。大学間協定に基づき、本学学生のために、特別にプログラムが設計されます。研修期間中、日本語学科の学生がバディとなり、活動をサポートしてくれます。言葉の不安なく、海外の文化を体験できる内容になっています。事前研修として簡単なタイ語、タイ事情について学び、現地での日本紹介、各自で設定した課題の準備作業を行います。現地ではタイ語学習、文化体験、観光などのほか、各自の課題を遂行します。事後研修として、報告書を作成し、発表します。	(1)タイの文化や生活を体験することで、東南アジアの社会のあり方がイメージできる。 (2)異文化社会に身を置くことで、自身の文化や価値観を相対化することができる。 (3)自ら設定した課題を現地での実践をとおして追究できる。 (4)同世代の若者達との出会いを大切にし、研修終了後も継続的な交流をすることができる。	●			◎
	SPL-322	海外研修B	演習	2	1	○	茨城県とネグロス島をつなぐ国際交流・国際貢献	本研修は本学のカリキュラム・ポリシー①と⑥に関連します。常磐大学と連携協定を結んでいるBago City大学と、ネグロス島で国際貢献を続けるOISCA(国際NGO)の協力のもとで、2週間の現地研修を行います。まずBago City大学では、現地大学生と一緒に、話すことに特化した英語プログラムを受講します。また持続可能な社会の実現を目指して、ネグロス島に暮らす人々のニーズに応える国際貢献活動を行います。最終的に、現地に暮らす多様な人達(大学生、農業青年etc)と、国境を超えた絆づくりを目指します。	(1)異文化の人々(ネグロス島の人々)と国境越えたつながりをつくることできる。 (2)現地の人々のニーズに応える国際貢献活動を、自ら企画し、実行することができる。さらに、未来の課題を発見し、活動を発展させることができる。 (3)臆することなく勇気を持って、自らの体験を英語で表現することができる。	●			◎
	SPL-322	海外研修B	演習	2	1	○	韓国研修	本研修は本学のカリキュラム・ポリシー①に関連します。常磐大学と姉妹校協定を結んでいる大邱カトリック大学の協力のもとで現地研修を行います。大邱カトリック大学では、ネイティブの先生による韓国語の授業を受講し、語学力の向上を図ります。また、現地の大学生と一緒に文化体験プログラムを受けます。国際交流を行うことで、より広い視野を持つようになり、日韓友好に貢献します。短期間ではありますが、現地に赴き、さまざまな文化体験をすると同時に、国境を超えた絆づくりを目指します。	(1)語学力の向上を図ることができる。 (2)異文化を理解・体験し、より広い視野を持つ人になる。 (3)国境越えたつながりをつくることできる。	●			◎
	SPL-323	海外研修C	演習	2	1	○	アメリカ研修	本研修は本学のカリキュラム・ポリシー②に関連します。カリフォルニア大学アーバイン校で1ヶ月間実施される研修です。事前研修、米国現地研修、帰国後事後研修を経て報告レポートを提出します。本研修は異文化交流による視野の拡大とグローバル人材に成長するための礎として重要です。なお、本研修においては異文化交流、英語コミュニケーションのあり方につき講師の20年以上にわたる多国籍企業での実務経験や米国駐在経験も活かします。	(1)国際的な将来のキャリア像をイメージできるようになり、帰国後、具体的な行動計画に落とし込めるようになる。 (2)英語でコミュニケーションが求められる場面でも、臆することなく自然に会話に参加することができる。 (3)現地での異文化体験を通して、異なる視点から、自文化や自分のライフスタイルを再評価することができる。 (4)同世代の若者達との出会いを大切にし、現地研修終了後も、継続的な国際交流をすることができる。	●			◎

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	春	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連			
												1.目的意識をもって精力的に学んだ後、職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。(知識・理解、態度)	2.グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で問題を捉え、その問題解決に真摯に取り組むことができる。(知識・理解、思考・判断、技能)	3.集団の中で状況に応じて自分の役割を意識し、役割遂行に向けて最善の努力を惜しまず、積極的に柔軟性をもった思考力を身につけている。(思考・判断、態度)	4.プロジェクト型の取り組みで企画を創造的に立案し、チームワークを高めることに貢献して目標達成に向けて真摯に努力することができる。(知識・理解、態度)
授業科目の区分	SPL-323	海外研修C	演習	2	1			○	台北、中華文化研修	本研修は、本学のカリキュラム・ポリシー①に関連します。台北の国立台北教育大学においておよそ1週間、大学の長期休暇を利用して実施される海外研修です。事前研修として、ガイダンスや簡単な中国語講座、台湾事情についての学び、テーマ調査準備などが行われます。現地では、大学の文化体験講座、市内見学、観光などが行われます。事後研修として、研修レポートを作成します。	(1) 中華文化を基礎とする社会のあり方をイメージできる。 (2) 生活に密着した中国語に触れる。異文化社会に身を置くことによって、自身の価値観を相対化することができる。 (3) 海外で生活する経験によって自信を身につけることができる。	●			◎
	SPL-323	海外研修C	演習	2	1			○	タイの言葉と生活を体験しよう!	本研修は本学のカリキュラム・ポリシー①に関連します。タイのチェンマイ・ラチャパット大学で実施される2週間の海外研修です。大学間協定に基づき、本学学生のために、特別にプログラムが設計されます。研修期間中、日本語学科の学生がバディとなり、活動をサポートしてくれます。言葉の不安なく、海外の文化を体験できる内容になっています。事前研修として簡単なタイ語、タイ事情について学び、現地での日本紹介、各自で設定した課題の準備作業を行います。現地ではタイ語学習、文化体験、観光などのほか、各自の課題を遂行します。事後研修として、報告書を作成し、発表します。	(1) タイの文化や生活を体験することで、東南アジアの社会のあり方がイメージできる。 (2) 異文化社会に身を置くことで、自身の文化や価値観を相対化することができる。 (3) 自ら設定した課題を現地での実践をとおして追究できる。 (4) 同世代の若者達との出会いを大切に、研修終了後も継続的な交流をすることができる。	●			◎
	SPL-323	海外研修C	演習	2	1			○	茨城県とネグロス島をつなぐ国際交流・国際貢献	本研修は本学のカリキュラム・ポリシー①と⑤に関連します。常磐大学と連携協定を結んでいるBago City大学と、ネグロス島で国際貢献を続けるOISCA(国際NGO)の協力のもとで、2週間の現地研修を行います。まずBago City大学では、現地大学生と一緒に、話すことに特化した英語プログラムを受講します。また持続可能な社会の実現を目指して、ネグロス島に暮らす人々のニーズに応える国際貢献活動を行います。最終的に、現地に暮らす多様な人達(大学生、農業青年etc)と、国境を超えた絆づくりを目指します。	(1) 異文化の人々(ネグロス島の人々)と国境越えたつながりをつくることできる。 (2) 現地の人々のニーズに応える国際貢献活動を、自ら企画し、実行することができる。さらに、未来の課題を発見し、活動を発展させることができる。 (3) 臆することなく勇気を持って、自らの体験を英語で表現することができる。	●			◎
	SPL-323	海外研修C	演習	2	1			○	韓国研修	本研修は本学のカリキュラム・ポリシー①に関連します。常磐大学と姉妹校協定を結んでいる大邱カトリック大学の協力のもとで現地研修を行います。大邱カトリック大学では、ネイティブの先生による韓国語の授業を受講し、語学力の向上を図ります。また、現地の大学生と一緒に文化体験プログラムを受けます。国際交流を行うことで、より広い視野を持つようになり、日韓友好に貢献します。短期間ではありますが、現地に赴き、さまざまな文化体験をすると同時に、国境を超えた絆づくりを目指します。	(1) 語学力の向上を図ることができる。 (2) 異文化を理解・体験し、より広い視野を持つ人になる。 (3) 国境越えたつながりをつくることできる。	●			◎

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	春	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連				
												1.目的意識をもって精力的に学んだ後、職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。(知識・理解、態度)	2.グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で問題を捉え、その問題解決に真摯に取り組むことができる。(知識・理解、思考・判断、技能)	3.集団の中で状況に応じて自分の役割を意識し、役割遂行に向けて最善の努力を惜しまず、積極的に柔軟性をもった思考力を身につけている。(思考・判断、態度)	4.プロジェクト型の取り組みで企画を創造的に立案し、チームワークを高めることに貢献して目標達成に向けて真摯に努力することができる。(知識・理解、態度)	
留学生対象科目	ABR-111	日本事情 I	講義		2	1		○	Experiencing Japan	This course is related to Tokiwa University's Curriculum Policy (1) and (5). This course focuses on teaching students about different aspects of Japanese culture, customs, and traditional craftsmanship through lectures and occasional visits to off-campus sites. During the site visits, students will be able to see, and in some cases, get hands-on experience with local history, artistry, and food. The course prompts students to reflect on the differences between Japanese culture and their own.	(1) Clear understanding of selected aspects of Japanese culture, customs, and traditional craftsmanship through lectures and visits to local cultural sites.		●			◎
	ABR-112	日本事情 II	講義		2	1		○	日本人・文化・社会をとらえる	この授業は本学のカリキュラム・ポリシー①に関連します。日本の人・文化・社会に関するテーマをもとに、資料を読んで話し合ったり、教室の外で調査し、結果を発表して、意見交換したりします。それらを通して、固定化されたイメージや思い込みにとらわれず、多様な視点から日本人・日本文化・日本社会をとらえる経験をして、外国人学生と日本人学生が共生社会でよりよく生活するためのきっかけをつくります。	(1) 日本人・文化・社会を自分の目で見て、自分の考えを持つことができる。 (2) 自分の考えを聞き手にわかりやすいことばで表現することができる。 (3) クラスメートの多様な視点を知り、自分の考えを見直すことができる。		●			
	ABR-211	日本事情 III	講義		2	1		○	日本(にほん)の芸能(げいのう)から日本の文化(ぶんか)を学(ま)なぶ	この授業は本学のカリキュラム・ポリシー①に関連します。日本の近現代(きんげんだい)の庶民(しよみん)の芸能(げいのう)である落語(らくご)、歌舞伎(かぶき)、文楽(ぶんらく)と、これらの芸能の原点(げんてん)と言える中世(ちゆうせい)の武士(ぶし)の芸能である狂言(きやうげん)について、実際(じっさい)の演目(えんもく)のビデオを見ながらそれらの特徴(とくちゆう)について説明し、そこから日本の文化(ぶんか)について学んでいく。琉球王国(りゅうきゅうおうこく)の芸能と先住民(せんじゅうみん)であるアイヌの芸術(げいじゆつ)についても紹介(しょうかい)する。	(1) 日本の芸能のうち、落語、歌舞伎、文楽、狂言について、基礎的(きそてき)な理解(りかい)をしている。 (2) 上記の理解にもとづいて、日本の文化について一定(いってい)の理解(りかい)をしている。		●			
	ABR-121	日本研究 I	講義		2	1		○	日本の社会経済システム Japan's Socio-Economic System	この授業は本学のカリキュラム・ポリシー①に関連します。日本における雇用の現場では、終身雇用とも呼ばれる長期雇用をベースに、年功序列型の昇進昇給、新規卒一括採用など、特徴のある制度が、組み合わせられています。また、企業同士のつながりにおいては、系列や企業グループなど強固な制度が日本の高度経済成長を支えたと言われていいます。広く深い教養と知識を学修する中で、このような日本の慣行を知ることで、現在の日本経済の成り立ちを理解し、日本が直面している課題を理解していきましょう。	(1) 現代社会に不可欠な素養として、自分が興味のある制度について、資料を調べて、わかりやすい発表をすることができる。 (2) 幅広い視点から日本の慣行について知識を得て、日本の社会や経済がかわる現在の課題について理解する。 (3) 海外から見た日本制度の特徴について理解し、日本の強みを考察する。 (4) グループ・ディスカッションの中で自分の意見を表明し、議論を構築できるようになる。		●			
	ABR-122	日本研究 II	講義		2	1		○	インタビューから日本をとらえる	この授業は本学のカリキュラム・ポリシー①に関連します。留学生は自国にいたるときからインターネットなどからさまざまな日本の情報が得られます。留学生と同様に日本人学生も、これまでに得た経験や知識によって、日本人や日本文化についての自分なりのイメージを持っています。この授業では、留学生も日本人学生もこれまでに得た経験や知識などにとらわれず、日本文化を自分なりに捉える経験をし、それを通して、ステレオタイプを排除し、自分自身で文化を捉え、文化に対する自分なりの視点を形成することを目指します。	(1) 日本や外国に対してこれまで持っていたイメージを意識化することができる。 (2) インタビューを通して文化の多様性を知ることができる。 (3) 日本文化や外国文化に対する自分なりの視点を形成することができる。 (4) 自分の考えを、相手に伝える日本語で的確に伝えることができる。		●			
	ABR-221	日本研究 III	講義		2	1		○	日本の政治・行政・社会 (Japanese Politics, Public Administration and Society)	この授業は本学のカリキュラム・ポリシー①に関連します。本授業では日本の政治、行政、社会について扱う。授業では講義のほか、グループディスカッションや受講者によるプレゼンテーションを実施する。	(1) 今日の日本における諸課題を理解し、それらについての自身の課題を表すことができるようになる。		●			
	ABR-222	日本研究 IV	講義		2	1		○	日本文学	この授業は本学のカリキュラム・ポリシー①に関連します。日本の代表的な文学作品を読み味わう。文学作品を読むことにより、学生が日本文化について理解を深められるようになります。また文学作品を読むだけでなく、学生が俳句(世界一短い文学作品)作り、お互いに鑑賞しあう「句会」をおこないます。	(1) 日本文学に親しみ、読み味わうことができる。 (2) 文学作品から日本文化の特質を理解することができる。 (3) 学生自身が俳句を作り、俳句会を体験することができる。		●			
	ABR-321	日本研究 V	講義		2	1		○	日本からみたグローバル社会のコミュニケーション学	この授業は本学のカリキュラム・ポリシー①に関連します。日本人の日常のコミュニケーション行動とその意味について学ぶ授業です。私たちは他の人と話をするときにたくさんの「期待」をします。「ふつう○○だろう」「□□とはそういうもの」といった風に、自分にとっての当たり前が他の人にとっても当たり前であろうと期待してしまうのです。この授業では、日本人にとっての当たり前(ふつう・常識)について教科書や資料、先生、クラスメイトと話しをすることで学びましょう。さらに、この体験を通してあなたにとっての当たり前とその意味について考えていきましょう。(一部教科書抜粋)	(1) 日本の文化と自分の文化の類似点や相違点について具体例をいくつか概説できる。 (2) 自分のコミュニケーション行動の内省と分析ができ、文脈に合わせた調整をすることが以前よりもできる。 (3) 多文化共生社会における自らの社会的役割に対する「気づき」ができる。		●			

授業科目の区分	カリキュラム分類	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	春	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)			
												1.目的意識をもって精力的に学んだ後、職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。(知識・理解、態度)	2.グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で問題を捉え、その問題解決に真摯に取り組むことができる。(知識・理解、思考・判断、技能)	3.集団の中で状況に応じて自分の役割を意識し、役割遂行に向けて最善の努力を惜まず、積極的に柔軟性をもった思考力を身につけている。(思考・判断、態度)	4.プロジェクト型の取り組みで企画を創造的に立案し、チームワークを高めることに貢献して目標達成に向けて真摯に努力することができる。(知識・理解、態度)
司書教諭関連科目		学校経営と学校図書館	講義	2	2			○		この科目は司書教諭の資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、学際的な学習に位置づけられている。また、司書教諭の資格のための科目なかでも、この科目は総論的科目に位置づけられている。そのため、学校教育における図書館の理念、教育的意義と役割、その経営について基本的な理解をはかるとともに、日本における学校図書館運営の問題点を認識し、司書教諭としてのあるべき姿を考察できるようになるための基礎的な知識を扱う。	(1)学校図書館の法的位置づけを説明できる。 (2)教育行政の中で、学校図書館がどのように位置づけられてきたのかを説明できる。 (3)学校図書館の職員の位置づけと役割を説明できる。	●			
		学校図書館メディアの構成	講義	2	2					この科目は司書教諭の資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、学際的な学習に位置づけられている。学校図書館メディアの構成、つまり学校図書館で扱う情報媒体の種類を取りあげながら特徴を把握し、学校図書館として収集すべきものの選定、受入、登録の手法を検討する。次に現物の主題内容の情報分析として、分類・目録・件名の実践方法について理解するとともに演習を行う。さらに、学校図書館の環境についての考察を行う。	(1)学校図書館が扱うメディアの種類と特性について説明できる。 (2)学校図書館メディアの選択・収集方法を理解できる。 (3)学校図書館での組織化(分類、目録等)について理解し、実際にNDCやNCRを用いた組織化を行うことができる。	●			
		学習指導と学校図書館	講義	2	2					この科目は司書教諭の資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、学際的な学習に位置づけられている。学習指導と学校図書館は、教育課程における学校図書館の役割と学校図書館を日々の学習活動に取り入れ、活かしていく方法を理解することを目的としている。そのため、学校教育課程における学校図書館の位置づけを踏まえたうえで、学校図書館を活用した授業方法について、取り上げる。また、学校図書館を活かした学習活動を推進するための司書教諭の役割についても取り上げていく。	(1)教育課程における学校図書館の位置づけや役割を説明できる。 (2)学校図書館を活用した授業を計画することができる。	●			
		読書と豊かな人間性	講義	2	2					この科目は司書教諭の資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、学際的な学習に位置づけられている。児童・生徒を対象に、発達段階を踏まえた読書の役割を解説する。また、学校図書館における子ども向けサービスの状況を紹介します。それら踏まえ、子ども向けの情報資源の選択方法や子どもの読書を促すために必要な知識を学ぶ。	(1)児童・生徒にとっての読書の意義と、学校図書館での読書活動を理解できる。 (2)児童・生徒の発達過程を理解し、段階に応じた絵本・資料を選ぶことができる。 (3)児童・生徒と本とを結ぶ取り組み(読み聞かせやブックトークなど)の基本技能を身に付けることができる。	●			
		情報メディアの活用	講義	2	2					この科目は司書教諭の資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、学際的な学習に位置づけられている。情報メディアの活用は、学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図ることを目的としている。そのため、高度情報社会と人間との関わりを踏まえたうえで、学校図書館で扱われる情報メディアの特性と選択、活用とコンピュータ(ソフトウェア・データベース・インターネット)の活用について取り上げる。こうしたメディアについて、学校図書館を通じて活用する際に留意すべき著作権についても取り上げる。	(1)教育課程における多様な情報メディアの活用をするための基礎的知識をもち、それらを説明できる。 (2)情報メディアの活用計画を立案できる。 (3)情報メディアの活用計画を説明できる。	●			

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)			
										1.目的意識をもって精力的に学んだ後、職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。(知識・理解、態度)	2.グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で問題を捉え、その問題解決に真摯に取り組むことができる。(知識・理解、思考・判断、技能)	3.集団の中で状況に応じて自分の役割を意識し、役割遂行に向けて最善の努力を惜しまず、積極的に柔軟性をもった思考力を身につけている。(思考・判断、態度)	4.プロジェクト型の取り組みで企画を創造的に立案し、チームワークを高めることに貢献して目標達成に向けて真摯に努力することができる。(知識・理解、態度)
司書関連科目		生涯学習学概論	講義	2	1	○		全学のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会の様々な場面で多様な学習者への学習支援に携わる上での基本的資質・素養を身に付けるため、生涯学習の理念、社会教育の意義と展開、生涯学習社会の実現における学校・家庭・地域の役割分担と連携・協働のあり方について講義します。	(1)生涯学習の理念の歴史的・国際的動向について説明することができる。 (2)社会教育の意義と展開について説明することができる。 (3)生涯学習社会の実現のための学校・家庭・地域の役割分担と連携・協働のあり方について考察することができる。	●	◎		
		図書館概論	講義	2	1	○	公共図書館の基礎知識	この科目は司書資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、学際的な学習に位置づけられている。司書資格の取得を目指す者が図書館のしごとがどのようなもので、どのような仕組みで運営されているのかを理解することを目的としている。そのために、社会における図書館の意義、図書館の歴史と現状、図書館の種類、図書館利用者のニーズ、図書館職員の役割と資格、関係機関との関係、図書館の課題と展望を日本及び世界的な見地から解説する。	(1)図書館の社会的意義や役割を理解し、説明できる。 (2)図書館にかかわる専門用語を説明できる。 (3)図書館の種類や特徴を説明できる。 (4)図書館員(司書)の役割について考え、説明できる。	●			
		図書館概論	講義	2	1	○	公共図書館の基礎知識	この科目は司書資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、学際的な学習に位置づけられている。社会における図書館の意義を含む、図書館全般について理解するための学習プログラムで、そのねらいは以下の2点。 (1) 図書館の機能や種類についての知識を習得する。 (2) 図書館職員の役割について理解する。	(1) 公共図書館を中心に図書館の基礎について理解し、説明できる。 (2) 図書館司書の主な仕事について理解し、説明できる。	●			
		図書館制度・経営論	講義	2	2		図書館に関わる法律と経営の知識	この科目は司書資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、学際的な学習に位置づけられている。図書館について法制度及び経営という観点から学んでいく。図書館を支える法令、図書館政策、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について解説する。	(1) 図書館を支える法制度を説明できる。 (2) 図書館を経営的な視点から説明できる。 (3) 図書館に関する種々の計画を立案できる。	●	○		
		図書館情報技術論	講義	2	2		図書館システムの基礎	この科目は司書資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、学際的な学習に位置づけられている。図書館業務で情報技術を活用するためのコンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について解説する。また、ネットワークを活用して流通する情報(デジタルアーカイブ)や情報へのアクセスや社会問題(著作権、不正アクセス)などの内容も取り上げる。	(1) コンピュータを中心とする情報技術の仕組みを説明できる。 (2) 図書館がどのような情報技術をどのような目的で導入しているのかを説明できる。 (3) 情報技術に関する社会問題を理解し、解決のための考えを述べることができる。	●	○		
		図書館サービス概論	講義	2	1		図書館サービスの全体像	この科目は司書資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、学際的な学習に位置づけられている。図書館で行われているサービスについて理解するための学習プログラムで、そのねらいは以下の2点。 (1) 多様な図書館サービスについて、どのようなサービスがあるのかを理解する。 (2) 図書館サービスを行う上での指針を理解する。	(1) 図書館サービスの考え方と構造について理解し、説明できる。 (2) 現在行われている多様な図書館サービスについて理解し、説明できる。 (3) 公共図書館でこれから重視されるサービスが何か理解し、説明できる。	●			
		情報サービス論	講義	2	2		図書館サービスの中の情報サービス	この科目は司書資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、学際的な学習に位置づけられている。図書館で行われている情報サービスについて理解するための学習プログラムで、そのねらいは以下の2点。 (1) 図書館における情報サービスの全体像を理解する。 (2) 情報サービスに必要な情報源について理解する。	(1) レファレンスサービスを中心に情報サービスの基本的な用語や理論について理解し、説明できる。 (2) 参考図書やデータベース等の情報源について、どのようなツールが存在するのか説明できる。 (3) 発信型情報サービス等の新しいサービスについて理解し、説明できる。	●			
		児童サービス論	講義	2	2		児童サービスの全体像	この科目は司書資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、学際的な学習に位置づけられている。図書館が提供する子ども向けサービスを提供するための前提知識となる乳幼児からヤングアダルトまでの発達段階を踏まえた読書の役割を解説する。また、図書館における子ども向けサービスの状況を紹介する。それら踏まえ、子ども向けの情報資源の選択方法や子どもの読書を促すために必要な知識を取り上げる。	(1) 子どもにとっての読書の意義と、公共図書館での読書活動を説明できる。 (2) 子どもの発達過程を理解し、段階に応じた絵本・資料を選ぶことができる。 (3) 子どもと本とを結ぶサービスの基本技能を身につけることができる。	●		◎	
		情報サービス演習A	演習	1	2		紙媒体を使ったレファレンス演習	この科目は司書資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、学際的な学習に位置づけられている。図書館にあるレファレンスツールを利用できるようになるための学習プログラムで、そのねらいは以下の2点。 (1) レファレンスツールを活用できる。 (2) レファレンスプロセスを理解する。	(1) 様々なレファレンスツールについての知識を深め、それらを使った情報探索及び回答ができる。 (2) 様々な課題について自分で図書館を活用して解決できる。	●		◎	
		情報サービス演習B	演習	1	2		ネットワーク情報資源を使ったレファレンス演習	この科目は司書資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、学際的な学習に位置づけられている。図書館で行う情報サービスについて、データベースを利用できるようになるための学習プログラムで、そのねらいは以下の点。 (1) 主要な検索ツールであるデータベースについて、操作手順も含めて目的によって適切に使い分け、活用できる。	(1) 希望する資料へ辿り着けず困っている利用者を手助けできる力を身につけ、資料もしくは情報検索のツールの存在や手順などを把握できる。 (2) 知りたい事柄について、データベース等を用いて自力で見つけることができる。	●		◎	
	図書館情報資源概論	講義	2	1		図書館にあるメディアとその扱い方	この科目は司書資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、学際的な学習に位置づけられている。図書館情報資源を取り扱う基本を理解するための学習プログラムで、そのねらいは以下の2点。 (1) 図書館情報資源の種類を知り、それぞれの特徴を理解する。 (2) 情報資源の収集方法や保存方法について理解する。	(1) 多様な図書館情報資源について、種類や特質、歴史、生産流通などについて理解し、実際に扱うことができる。 (2) 図書館における、情報資源の評価方法や収集方法について理解し、説明できる。	●				
	情報資源組織論	講義	2	1		図書館を組織化する方法	この科目は司書資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、学際的な学習に位置づけられている。現在の図書館は、多種多様な情報資源を扱っている。それらの図書館で扱われる情報資源の整理業務に関わる理論と方法論に関する目録法、分類法、索引(件名)法について取り上げる。また、図書館情報資源を管理する際に用いられるメタデータについても言及する。	(1) 図書館で行われている情報資源組織の役割と内容を説明できる。 (2) 目録作業の方法について説明できる。 (3) 目録法、分類法、索引(件名)法の種類及び理論を説明できる。	●				

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連			
										1. 目的意識をもって精力的に学んだ後、職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。(知識・理解、態度)	2. グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で問題を捉え、その問題解決に真摯に取り組むことができる。(知識・理解、思考・判断、技能)	3. 集団の中で状況に応じて自分の役割を意識し、役割遂行に向けて最善の努力を惜しまず、積極的に柔軟性をもった思考力を身につけている。(思考・判断、態度)	4. プロジェクト型の取り組みで企画を創造的に立案し、チームワークを高めることに貢献して目標達成に向けて真摯に努力することができる。(知識・理解、態度)
		情報資源組織演習A	演習	1	2		図書館での分類の仕方	この科目は司書資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、学際的な学習に位置づけられている。情報資源組織論で学んだ知識に基づき、図書館における情報資源組織業務の方法論について演習を通して理解し、習得する。具体的には、分類記号(図書館情報資源の配列等に必要、資料の分類に関する方法論)の付与、件名標目(図書館情報資源へのアクセスの手がかりに関する方法論)の付与を演習形式で行っていく。	(1) 図書館情報資源に対して、適切な分類記号を付与することができる。 (2) 図書館情報資源に対して、適切な件名標目(統制語)を付与することができる。	●			
		情報資源組織演習B	演習	1	2		図書館目録の書き方	この科目は司書資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、学際的な学習に位置づけられている。情報資源組織論で学んだ知識に基づき、図書館における情報資源組織業務の方法論について演習を通して理解し、習得する。具体的には、目録(図書館資料の検索のためのリスト(目録)に関する方法論)の作成を演習形式で行っていく。	(1) 適切な目録を作成するために、図書館情報資源から情報を見出すことができる。 (2) 図書館情報資源の目録を作成するための規則を理解し、適切な目録を作成することができる。	●			
		図書館情報資源特論	講義	1	2	○	特殊なメディアとその扱い方	この科目は司書資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、学際的な学習に位置づけられている。図書館で扱う専門的な資料について、取り扱いを理解するための学習プログラムで、そのねらいは以下の3点。 (1) 専門資料の種類について理解する。 (2) それぞれの専門資料について、特性や選択・収集方法、組織化のプロセスについて理解する。 (3) 専門資料の流通経路について理解する。	(1) 専門資料の種類と特徴について理解し、説明できる。 (2) 各専門資料について、評価・収集プロセスを知り、説明できる。	●			
		図書・図書館史	講義	1	2	○	図書館の歴史を学ぶ	この科目は司書資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、学際的な学習に位置づけられている。図書館の歴史について理解するための学習プログラムで、そのねらいは以下の3点。 (1) 図書館の歴史的発展について理解する。 (2) 図書の歴史や読書スタイルの変遷について理解する。 (3) 図書館の周辺に広がる出版や流通についてその歴史を理解する。	(1) 図書館の歴史について学んだことをもとに、今後の図書館がどのように変化していくか考察できる。 (2) 図書や読書など図書館と関わり深い事柄について学び、将来の発展に結びつけていくための知識や考え方を得ることができる。	●			
		図書・図書館史	講義	1	2	○	図書館の歴史を学ぶ	この科目は司書資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、学際的な学習に位置づけられている。生涯学習施設としての図書館の社会的・文化的役割を理解する上で必要とされる、図書及び図書館の歴史を概説する。	(1) 図書館資料の発展の歴史を理解し、説明することができる。 (2) 図書館の将来を視野に入れつつ、図書館の機能や役割を歴史的な視点から、整理し、まとめることができる。	●			
		図書館施設論	講義	1	2	○	空間としての図書館を考える	この科目は司書資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、学際的な学習に位置づけられている。図書館の施設は図書館の活動・サービスを展開するための場として整備される。活動・サービスというソフトと施設というハードがどのような関係であることが望ましいかについてとりあげる。また図書館建設がどのように行政の地域計画の中に位置づけられ実現されるかについても言及する。さらに設備・備品・装備等の構成要素及びレイアウト等について利用者サービスの視点からの配慮事項をとりあげる。そのうえで、望ましい図書館施設を構想する。	(1) 図書館のサービスを円滑に行うためには、どのような施設が必要であるのかを説明できる。 (2) 望ましい図書館施設を構想し、図書館設置計画書を作成できる。	●			
		図書館実習	実習	1	3	○		この科目は司書資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、学際的な学習に位置づけられている。司書課程で、学んだ知識やスキルを公共図書館における実習を通して、実践する。実習期間は授業期間外の2週間を原則とし、実習受け入れ図書館が計画したスケジュールに従う。ただし実習の事前及び事後の指導は本学において行う。実習日誌に毎日の作業状況および振り返りを記録し、実習後提出する。	(1) 図書館に勤務する社会人として求められる姿勢を理解し、実践することができる。 (2) 司書課程で学んだ知識やスキルを活かして、図書館活動を実践することができる。 (3) 図書館での実習で自らの行動や活動を振り返り、求められる図書館職員(司書)の姿を目指すことができる。	○		◎	●

授業科目の区分	カリキュラム分類	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春学期	秋学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.目的意識をもって精力的に学んだ後、職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。(知識・理解、態度)	2.グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で問題を捉え、その問題解決に真摯に取り組むことができる。(知識・理解、思考・判断、技能)	3.集団の中で状況に応じて自分の役割を意識し、役割遂行に向けて最善の努力を惜しまず、積極的に柔軟性をもった思考力を身につけている。(思考・判断、態度)	4.プロジェクト型の取り組みで企画を創造的に立案し、チームワークを高めることに貢献して目標達成に向けて真摯に努力することができる。(知識・理解、態度)
社会教育主事関連科目		生涯学習学概論	講義	2	1		○		全学のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会の様々な場面で多様な学習者への学習支援に携わる上での基本的資質・素養を身に付けるため、生涯学習の理念、社会教育の意義と展開、生涯学習社会の実現における学校・家庭・地域の役割分担と連携・協働のあり方について講義します。	(1)生涯学習の理念の歴史的・国際的動向について説明することができる。 (2)社会教育の意義と展開について説明することができる。 (3)生涯学習社会の実現のための学校・家庭・地域の役割分担と連携・協働のあり方について考察することができる。	●	◎		
		生涯学習行政論	講義	2	2		○		全学のカリキュラム・ポリシーに基づき、生涯学習及び社会教育の本質について理解を図るため、生涯学習にかんする施策、社会教育に関する法令、社会教育主事・社会教育指導者の役割について講義します。	(1)生涯学習にかんする施策、社会教育に関する法令の全体像について説明することができる。 (2)社会教育主事・社会教育指導者の役割について具体的に説明することができる。	●			◎
		生涯学習支援論Ⅰ	講義	2	2		○		全学のカリキュラム・ポリシーに基づき、学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識および技能の習得を図るため、学習支援に関する教育理論および学習プログラムの編成について検討します。	(1)学習支援に関する教育理論にかんし、それぞれの理論の特徴を理解した上で説明することができる。 (2)学習プログラムの編成にかんし、編成過程の各段階におけるポイントを理解した上で具体的なプログラム編成のあり方について考察することができる。	●		◎	
		生涯学習支援論Ⅱ	講義	2	3				全学のカリキュラム・ポリシーに基づき、学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能の習得を図るため、効果的な学習支援方法および参加型学習の実際とファシリテーション技法の活用について検討します。	(1)効果的な学習支援方法にかんし、それぞれの方法の特徴について考察することができる。 (2)参加型学習の実際とファシリテーション技法にかんし、具体的な運営方法を理解した上で実践することができる。	●		◎	
		社会教育経営論Ⅰ	講義	2	2				全学のカリキュラム・ポリシーに基づき、多様な主体と連携・協働を図りながら学習成果を地域課題解決や地域学校協働活動等につなげていくための知識および技能の習得を図るため、社会教育行政と地域活性化、社会教育行政の経営戦略、社会教育における地域人材の育成、社会教育施設の経営戦略について検討します。	(1)地域活性化における社会教育行政の基本的役割を説明することができる。 (2)社会教育行政の経営戦略にかんし、社会教育計画のPDCAサイクルのあり方に即して考察することができる。 (3)社会教育における地域人材の育成にかんし、具体的な養成・研修のプログラムのあり方に即して考察することができる。 (4)社会教育施設の経営戦略にかんし、社会教育施設の種類の別々に考察することができる。	●			◎
		社会教育経営論Ⅱ	講義	2	3				全学のカリキュラム・ポリシーに基づき、多様な主体と連携・協働を図りながら学習成果を地域課題解決や地域学校協働活動等につなげていくための知識および技能の習得を図るため、社会教育行政と地域活性化、学習課題の把握と広報戦略、学習成果の評価と活用の実際、社会教育を推進する地域ネットワークの形成について検討します。	(1)地域活性化における社会教育行政の具体的な役割を説明することができる。 (2)学習課題の把握と広報戦略にかんし、地域の特性に即して考察することができる。 (3)学習成果の評価と活用の実際にかんし、具体的な評価・活用方法に即して考察することができる。 (4)社会教育を推進する地域ネットワークの形成にかんし、ネットワークを形成する組織の特性に即して考察することができる。	●			◎
		社会教育実習	実習	2	2		○		全学のカリキュラム・ポリシーに基づき、各種社会教育機関の設置・管理および社会教育事業の企画・運営・評価にかんし、社会教育主事の職務を遂行するために必要な基礎的な知識・技能を習得するため、社会教育施設等における実習およびその事前・事後指導を行います。	(1)各種社会教育機関の設置・管理のための基本的事項について説明することができる。 (2)社会教育事業の企画・運営・評価についての基本的な知識・技能を活用することができる。	○		◎	●
	社会教育演習	演習	2	3				全学のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会教育主事の職務を遂行するために必要な資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図るため、具体的な地域課題等を題材とした社会教育事業の企画・運営・評価等にかんする演習を通してコーディネイト能力、ファシリテーション能力、プレゼンテーション能力の習得を目指します。	(1)社会教育事業を企画するための具体的なコーディネート能力を習得することができる。 (2)社会教育事業を運営するための具体的なファシリテーション能力を習得することができる。 (3)社会教育主事の職務を遂行するための具体的なプレゼンテーション能力を習得することができる。	○		◎	●	

2021年度以前入学生カリキュラム 常磐大学 社会教育主事課程 履修系統図(表形式)

		生涯学習計画	講義	2	3		○		全学のカリキュラム・ポリシーに基づき、生涯学習の理念を実現するための行政計画(生涯学習計画)策定の基本的な考え方を解説するとともに、計画の策定およびその評価・改善の具体的な手法について、社会教育計画を例として実践的に指導します。	(1)生涯学習の理念を実現するための行政計画の意義・目的について説明することができる。 (2)生涯学習の理念を実現するための行政計画の策定およびその評価・改善のプロセスを遂行することができる。	◎			●
		学習プログラム論	講義	2	2		○		全学のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会教育における学習課題や地域社会の抱えている様々な課題を発達の側面および生活的側面から整理するとともに、学習プログラム立案の視点と手順について検討します。	(1)学習プログラム立案の基本的視点について説明することができる。 (2)現代的課題や地域課題に目を向けた学習プログラムを企画することができる。	◎			●
		生涯学習実習Ⅰ(社会教育施設実習)	実習	2	2		○		全学のカリキュラム・ポリシーに基づき、各種社会教育機関の設置・管理および社会教育事業の企画・運営・評価にかんし、社会教育主事の職務を遂行するために必要な基礎的な知識・技能を習得するため、社会教育施設等における実習およびその事前・事後指導を行います。	(1)各種社会教育機関の設置・管理のための基本的事項について説明することができる。 (2)社会教育事業の企画・運営・評価についての基本的な知識・技能を活用することができる。	○		◎	●
		生涯学習実習Ⅱ(スポーツレクリエーション実習)	実習	2	3		○		全学のカリキュラム・ポリシーに基づき、スポーツレクリエーション活動の意義について理解した上で、基本的にはだれでも楽しめる簡単なものから用具を使用した全身運動などさまざまなスポーツレクリエーション活動の企画・運営方法について検討します。	(1)スポーツレクリエーション活動の意義について理解する。 (2)さまざまなスポーツレクリエーション活動の企画・運営方法を身に付ける。	○		◎	●
		学習者論Ⅱ(高齢者と生涯学習)	講義	2	3		○		全学のカリキュラム・ポリシーに基づき、生涯学習の理念にもとづく高齢者の学習支援における基礎理論について解説するとともに、具体的な学習支援のしくみ及びその課題について検討します。	(1)高齢者の学習支援における基礎理論について説明することができる。 (2)高齢者の学習支援の具体的なしくみ及びその課題について多角的に考察することができる。	●			
		生涯学習とボランティア活動	講義	2	2		○		全学のカリキュラム・ポリシーに基づき、生涯学習やボランティア活動の成立過程や背景の知識などを講義した上で、関連する基本的な概念・理論も整理しながら、地域社会に生じる生涯学習・ボランティア活動の意義と課題を把握し、それらの活動に有機的に参画できるようになることを目指します。	(1)生涯学習ならびにボランティア活動が求められる社会的背景や、それらの基礎となる概念・理論を理解することができる。 (2)現代における生涯学習やボランティア活動の多様な展開を説明することができる。 (3)現代における生涯学習やボランティア活動が内包しうる課題を捉えることができる。 (4)今日展開する生涯学習やボランティア活動の施策・活動に参画し、また貢献する自身の姿を考察することができる。	●		◎	
		生涯学習施設論	講義	2	2		○		全学のカリキュラム・ポリシーに基づき、生涯学習の理念を実現するための施設(生涯学習施設)の基本的役割について解説するとともに、特に社会教育施設に注目して施設種別ごとの具体的役割およびその課題について検討します。	(1)生涯学習支援施設の基本的役割について説明することができる。 (2)社会教育施設に注目し、施設種別ごとの具体的役割およびその課題について多角的に考察することができる。	●			
		学習支援論Ⅱ(生涯学習指導者論)	講義	2	3		○		全学のカリキュラム・ポリシーに基づき、地域社会の生涯学習指導者の種類とそれぞれが果たしている役割、求められる資質・能力等について講義し、生涯学習指導者の活動の実際の様子や抱えている問題・課題、行政とのかかわり方などについて検討します。また、これから求められる生涯学習指導者像を洗い出し、そのような指導者を育てるための研修プログラムや活動プログラム等を開発します。	(1)生涯学習指導者の種類とその役割等について理解し、指導者の意識や活動の実際を分析することができる。 (2)地域における生涯学習指導者の研修・活動プログラムを企画することができる。	●			◎
		マルチメディア活用論	講義	2	2		○		全学のカリキュラム・ポリシーに基づき、マルチメディアの利用状況およびマルチメディア利用に関する政策等社会的動向について解説するとともに、マルチメディアを活用した学習活動およびその支援方法、マルチメディア活用能力の育成方策について検討します。	(1)マルチメディアの利用状況およびマルチメディア利用に関する政策等社会的動向について説明することができる。 (2)マルチメディアを活用した学習活動の支援方法について提案することができる。 (3)マルチメディア活用能力の育成方策について提案することができる。	●			
		民間生涯学習	講義	2	3		○		全学のカリキュラム・ポリシーに基づき、生涯学習の理念にもとづく民間の学習活動(支援)の基本的役割について解説するとともに、営利・非営利それぞれの学習活動の具体的役割およびその課題について検討します。	(1)生涯学習の理念にもとづく民間の学習活動(支援)の基本的役割について説明することができる。 (2)民間の営利・非営利それぞれの学習活動の具体的役割およびその課題について多角的に考察することができる。	●			

2022年度 常盤大学 学芸員課程 履修系統図 (表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	春	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連			
												1.目的意識をもって精力的に学んだ後、職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。(知識・理解、態度)	2.グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で問題を捉え、その問題解決に真摯に取り組むことができる。(知識・理解、思考・判断、技能)	3.集団の中で状況に応じて自分の役割を意識し、役割遂行に向けて最善の努力を惜しまず、積極的に柔軟性をもった思考力を身につける。(思考・判断、態度)	4.プロジェクト型の取り組みで企画を創造的に立案し、チームワークを高めることに貢献して目標達成に向けて真摯に努力することができる。(知識・理解、態度)
学芸員関連科目		生涯学習概論	講義	2		1				全学のカリキュラム・ポリシーに基づき、社会の様々な場面で多様な学習者への学習支援に携わる上での基本的資質・素養を身に付けるため、生涯学習の理念、社会教育の意義と展開、生涯学習社会の実現における学校・家庭・地域の役割分担と連携・協働のあり方について講義します。	(1)生涯学習の理念の歴史的・国際的動向について説明することができる。 (2)社会教育の意義と展開について説明することができる。 (3)生涯学習社会の実現のための学校・家庭・地域の役割分担と連携・協働のあり方について考察することができる。	●	◎		
		博物館概論	講義	2		1				この科目は学芸員の資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、「問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する」に位置づけられ、問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する。博物館の一般的概念を示すとともに、資料の収集、保存、展示、普及、調査・研究のあり方を紹介、また博物館の歴史や制度上の位置づけを学習する。	(1)博物館を、利用者の立場からではなく、サービスを提供する側からの視点をもって見るようにする。 (2)様々な種類がある博物館において、自分が学芸員となるためには、今後どのような学習が必要かを理解することを目標とする。	◎			●
		博物館経営論	講義	2		2				この科目は学芸員の資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、「問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する」に位置づけられ、問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する。価値ある資料を収集・保管し、調査研究した上で、展示・普及することが博物館の機能であり、歴史的な役割を果たしてきたが、今日、多くの市民が博物館を利用することによって、展示し普及する教育機関としての博物館の役割が強く意識されるようになった。そうした現状を踏まえ、博物館のマネジメントのあり方を示してゆく。	(1)現代社会における博物館の位置づけと使命を理解し、求められるニーズに博物館がこれまでどのように応えてきたか、そのために博物館という組織がどのように運営されてきたかを理解する。 (2)組織によって成り立つ現代社会にあって、組織が社会に貢献することの重要性や、そのための目標設定の必要性、さらにはそのことによる自己実現の可能性を見通すまでに至ることができる。	◎			●
		博物館資料論	講義	2		2				この科目は学芸員の資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、「問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する」に位置づけられ、問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する。 1. 博物館法において専門職として定められている学芸員の役割を学ぶ。 2. 博物館3大機能(資料の調査・研究、収集・保存、展示・教育)のうち、主に資料の「収集・保存」機能に関する基礎的な知識を学習し、その業務を円滑に遂行するために必要な学芸員の心構えと技能を習得する。 3. 博物館(特に美術館)における資料の「活用(展示、情報公開等)」、「調査・研究」について学ぶ。以上を通じて博物館資料に関する学芸員の実務を理解する。地域社会における博物館の課題発見とその解決方法を学ぶ。	(1)博物館法における博物館3大機能とその実務遂行者である学芸員(キュレーター、語源クオートル)の心構えと技能について説明することができる。 (2)博物館業務において資料の「収集・保存」から「活用」まで一貫した流れを把握し、その業務における課題発見と課題解決の方法を提案することができる。 (3)博物館による社会貢献、国際貢献という目標を学び、博物館の現場において必要とされる職業人意識を持つことができる。	◎			●
		博物館資料保存論	講義	2		2				資料の保存科学における学芸員の役割 この科目は学芸員の資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、「問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する」に位置づけられ、問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する。 1. 博物館法において専門職として定められている学芸員の役割を学ぶ。 2. 博物館3大機能(資料の調査・研究、収集・保存、展示・教育)のうち、主に資料の「保存」機能に関する基礎的な知識を学習し、その業務を円滑に遂行するために必要な学芸員の心構えと技能を習得する。 3. 博物館(特に美術館)における資料の「保存」、「調査・研究」について学ぶ。以上を通じて博物館資料に関する学芸員の実務を理解する。地域社会における博物館の課題発見とその解決方法を学ぶ。	(1)博物館法における博物館3大機能とその実務遂行者である学芸員(キュレーター、語源クオートル)の心構えと技能について説明することができる。 (2)博物館業務における「保存」の役割について学び、その業務における課題発見と課題解決の方法を提案することができる。 (3)博物館による社会貢献、国際貢献という目標を学び、博物館の現場において必要とされる職業人意識を持つことができる。	◎			●
		博物館展示論	講義	2		2				資料の展示における学芸員の役割 この科目は学芸員の資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、「問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する」に位置づけられ、問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する。 1. 博物館法において専門職として定められている学芸員の役割を学ぶ。 2. 博物館3大機能(資料の調査・研究、収集・保存、展示・教育)のうち、主に資料の「展示」機能に関する基礎的な知識を学習し、その業務を円滑に遂行するために必要な学芸員の心構えと技能を習得する。 3. 博物館(特に美術館)における資料の「展示」、「調査・研究」について学ぶ。以上を通じて博物館での展示に関する学芸員の実務を理解する。地域社会における博物館の課題発見とその解決方法を学ぶ。	(1)博物館法における博物館3大機能とその実務遂行者である学芸員(キュレーター、語源クオートル)の心構えと技能について説明することができる。 (2)博物館業務における「展示」の種類と特色を把握し、その業務における課題発見と課題解決の方法を提案することができる。 (3)博物館による社会貢献、国際貢献という目標を学び、博物館の現場において必要とされる職業人意識を持つことができる。	◎			●
		博物館教育論	講義	2		2				市民の生涯学習・鑑賞・交流等の支援における学芸員の役割 この科目は学芸員の資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、「問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する」に位置づけられ、問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する。 1. 博物館法において専門職として定められている学芸員の役割を学ぶ。 2. 博物館3大機能(資料の調査・研究、収集・保存、展示・教育)のうち、主に資料の「教育」機能に関する基礎的な知識を学習し、その業務を円滑に遂行するために必要な学芸員の心構えと技能を習得する。 3. 博物館(特に美術館)における資料の「教育」、「調査・研究」について学ぶ。以上を通じて博物館教育に関する学芸員の実務を理解する。地域社会における博物館の課題発見とその解決方法を学ぶ。	(1)博物館法における博物館3大機能とその実務遂行者である学芸員(キュレーター、語源クオートル)の心構えと技能について説明することができる。 (2)博物館業務における「教育」の種類と特色を把握し、その業務における課題発見と課題解決の方法を提案することができる。 (3)博物館による社会貢献、国際貢献という目標を学び、博物館の現場において必要とされる職業人意識を持つことができる。	◎			●
		博物館情報・メディア論	講義	2		2				情報の収集・保存と活用における学芸員の役割 この科目は学芸員の資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、「問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する」に位置づけられ、問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する。 1. 博物館法において専門職として定められている学芸員の役割を学ぶ。 2. 博物館をメディアとしてとらえ、博物館の3大機能(資料の調査・研究、収集・保存、展示・教育)に関わる情報の「収集・保存」と「活用」に関する基礎的な知識を学習する。 3. 博物館(特に美術館)における情報の「収集・保存(デジタル・アーカイブ)」、「活用(鑑賞支援メディア、ホームページ等)」について学ぶ。以上を通じて博物館情報に関する学芸員の実務を理解する。地域社会における博物館の課題発見とその解決方法を学ぶ。	(1)博物館法における博物館3大機能とその実務遂行者である学芸員(キュレーター、語源クオートル)の心構えと技能について説明することができる。 (2)博物館業務における情報の「収集・保存」と「活用」の方法を習得し、その業務における課題発見と課題解決の方法を提案することができる。 (3)博物館による社会貢献、国際貢献という目標を学び、博物館の現場において必要とされる職業人意識を持つことができる。	◎			●

2022年度 常磐大学 学芸員課程 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	春	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連			
												1.目的意識をもって精力的に学んだ後、職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。(知識・理解、態度)	2.グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で問題を捉え、その問題解決に真摯に取り組むことができる。(知識・理解、思考・判断、技能)	3.集団の中で状況に応じて自分の役割を意識し、役割遂行に向けて最善の努力を惜まず、積極的に柔軟性をもった思考力を身につけている。(思考・判断、態度)	4.プロジェクト型の取り組みで企画を創造的に立案し、チームワークを高めることに貢献して目標達成に向けて真摯に努力することができる。(知識・理解、態度)
		博物館実習	実習	3	3	○	○		この科目は学芸員の資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、「問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する」に位置づけられ、問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する。	(1)博物館(特に美術館)における資料の取り扱いを円滑に行う技能を身に付ける。 (2)「常設展示」や「企画展示」「教育普及活動」の手順と実務について説明することができる。 (3)「常設展示」や「企画展示」の運営に必要な紙媒体(図録・ポスター等)と電子媒体(ホームページ等)のコンテンツを作成する能力を習得する。 (4)「常設展示」や「企画展示」の実施における課題発見と課題解決について提案することができる。 (5)博物館による社会貢献、国際貢献という目標を学び、博物館の現場において必要とされる職業人意識を持つことができる。 (6)博物館による社会貢献について市民と協働する意識を持つことができる。	○		◎	●	

2021年度以前入学生カリキュラム 常磐大学 学芸員課程 履修系統図(表形式)

		ミュージアム概論	講義	2	1				この科目は学芸員の資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、「問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する」に位置づけられ、問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する。博物館の一般的概念を示すとともに、資料の収集、保存、展示、普及、調査・研究のあり方を紹介、また博物館の歴史や制度上の位置づけを学習する。	(1)博物館を、利用者の立場からではなく、サービス提供すからの視点をもって見るようにする。 (2)様々な種類がある博物館において、自分が学芸員となるためには、今後どのような学習が必要かを理解することを目標とする。	◎			●
		ミュージアムマネジメント論	講義	2	3				この科目は学芸員の資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、「問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する」に位置づけられ、問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する。価値ある資料を収集・保管し、調査研究した上で、展示・普及することが博物館の機能であり、歴史的な役割を果たしてきたが、今日、多くの市民が博物館を利用することによって、展示し普及する教育機関としての博物館の役割が強く意識されるようになった。そうした現状を踏まえ、博物館のマネジメントのあり方の今を示してゆく。	(1)現代社会における博物館の位置づけと使命を理解し、求められるニーズに博物館がこれまでどのように応えてきたか、そのために博物館という組織がどのように運営されてきたかを理解する。 (2)組織によって成り立つ現代社会にあって、組織が社会に貢献することの重要性や、そのための目標設定の必要性、さらにはそのことによる自己実現の可能性を見通すまでに至ることができる。	◎			●
		ミュージアム資料論	講義	2	2				資料の収集・保存と活用における学芸員の役割 この科目は学芸員の資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、「問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する」に位置づけられ、問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する。 1. 博物館法において専門職として定められている学芸員の役割を学ぶ。 2. 博物館3大機能(資料の調査・研究、収集・保存、展示・教育)のうち、主に資料の「収集・保存」機能に関する基礎的な知識を学習し、その業務を円滑に遂行するために必要な学芸員の心構えと技能を習得する。 3. 博物館(特に美術館)における資料の「活用(展示、情報公開等)」、「調査・研究」について学ぶ。以上を通じて博物館資料に関する学芸員の実務を理解する。地域社会における博物館の課題発見とその解決方法を学ぶ。	(1)博物館法における博物館3大機能とその実務遂行者である学芸員(キュレーター、語源クオートル)の心構えと技能について説明することができる。 (2)博物館業務において資料の「収集・保存」から「活用」までいたる一貫した流れを把握し、その業務における課題発見と課題解決の方法を提案することができる。 (3)博物館による社会貢献、国際貢献という目標を学び、博物館の現場において必要とされる職業人意識を持つことができる。	◎			●
		ミュージアム保存科学	講義	2	3				資料の保存科学における学芸員の役割 この科目は学芸員の資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、「問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する」に位置づけられ、問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する。 1. 博物館法において専門職として定められている学芸員の役割を学ぶ。 2. 博物館3大機能(資料の調査・研究、収集・保存、展示・教育)のうち、主に資料の「保存」機能に関する基礎的な知識を学習し、その業務を円滑に遂行するために必要な学芸員の心構えと技能を習得する。 3. 博物館(特に美術館)における資料の「保存」、「調査・研究」について学ぶ。以上を通じて博物館資料に関する学芸員の実務を理解する。地域社会における博物館の課題発見とその解決方法を学ぶ。	(1)博物館法における博物館3大機能とその実務遂行者である学芸員(キュレーター、語源クオートル)の心構えと技能について説明することができる。 (2)博物館業務における「保存」の役割について学び、その業務における課題発見と課題解決の方法を提案することができる。 (3)博物館による社会貢献、国際貢献という目標を学び、博物館の現場において必要とされる職業人意識を持つことができる。	◎			●
		ミュージアム展示論	講義	2	2				資料の展示における学芸員の役割 この科目は学芸員の資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、「問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する」に位置づけられ、問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する。 1. 博物館法において専門職として定められている学芸員の役割を学ぶ。 2. 博物館3大機能(資料の調査・研究、収集・保存、展示・教育)のうち、主に資料の「教育」機能に関する基礎的な知識を学習し、その業務を円滑に遂行するために必要な学芸員の心構えと技能を習得する。 3. 博物館(特に美術館)における資料の「教育」、「調査・研究」について学ぶ。以上を通じて博物館教育に関する学芸員の実務を理解する。地域社会における博物館の課題発見とその解決方法を学ぶ。	(1)博物館法における博物館3大機能とその実務遂行者である学芸員(キュレーター、語源クオートル)の心構えと技能について説明することができる。 (2)博物館業務における「展示」の種類と特色を把握し、その業務における課題発見と課題解決の方法を提案することができる。 (3)博物館による社会貢献、国際貢献という目標を学び、博物館の現場において必要とされる職業人意識を持つことができる。	◎			●
		ミュージアム教育普及活動	講義	2	1				市民の生涯学習・鑑賞・交流等の支援における学芸員の役割 この科目は学芸員の資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、「問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する」に位置づけられ、問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する。 1. 博物館法において専門職として定められている学芸員の役割を学ぶ。 2. 博物館3大機能(資料の調査・研究、収集・保存、展示・教育)のうち、主に資料の「教育」機能に関する基礎的な知識を学習し、その業務を円滑に遂行するために必要な学芸員の心構えと技能を習得する。 3. 博物館(特に美術館)における資料の「教育」、「調査・研究」について学ぶ。以上を通じて博物館教育に関する学芸員の実務を理解する。地域社会における博物館の課題発見とその解決方法を学ぶ。	(1)博物館法における博物館3大機能とその実務遂行者である学芸員(キュレーター、語源クオートル)の心構えと技能について説明することができる。 (2)博物館業務における「教育」の種類と特色を把握し、その業務における課題発見と課題解決の方法を提案することができる。 (3)博物館による社会貢献、国際貢献という目標を学び、博物館の現場において必要とされる職業人意識を持つことができる。	◎			●

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春セメ	秋セメ	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.目的意識をもって精力的に学んだ後、職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。(知識・理解、態度)	2.グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で問題を捉え、その問題解決に真摯に取り組むことができる。(知識・理解、思考・判断、技能)	3.集団の中で状況に応じて自分の役割を意識し、役割遂行に向けて最善の努力を惜しまず、積極的に柔軟性をもった思考力を身につけている。(思考・判断、態度)	4.プロジェクト型の取り組みで企画を創造的に立案し、チームワークを高めることに貢献して目標達成に向けて真摯に努力することができる。(知識・理解、態度)
		ミュージアム情報論	講義	2	2			情報の収集・保存と活用における学芸員の役割	この科目は学芸員の資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、「問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する」に位置づけられ、問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する。 1. 博物館法において専門職として定められている学芸員の役割を学ぶ。 2. 博物館をメディアとしてとらえ、博物館の3大機能(資料の調査・研究、収集・保存、展示・教育)に関わる情報の「収集・保存」と「活用」に関する基礎的な知識を学習する。 3. 博物館(特に美術館)における情報の「収集・保存(デジタル・アーカイブ)」、「活用(鑑賞支援メディア、ホームページ等)」について学ぶ。以上を通じて博物館情報に関する学芸員の実務を理解する。 地域社会における博物館の課題発見とその解決方法を学ぶ。	(1) 博物館法における博物館3大機能とその実務遂行者である学芸員(キュレーター、語源クワートル)の心構えと技能について説明することができる。 (2) 博物館業務における情報の「収集・保存」と「活用」の方法を習得し、その業務における課題発見と課題解決の方法を提案することができる。 (3) 博物館による社会貢献、国際貢献という目標を学び、博物館の現場において必要とされる職業人意識を持つことができる。	◎		●	
		ミュージアム実習Ⅰ	実習	2	2			企画展示や常設展示に必要な資料の取り扱いや展示環境管理など学芸員業務の基礎的な経験や訓練を積む。	この科目は学芸員の資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、「問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する」に位置づけられる。博物館(特に美術館)における「常設展示」や「企画展示」に必要な資料の取り扱いや展示環境管理の基礎的な実務について学ぶ。「展示」をメディアとしてとらえる視点に立ち、その情報内容を紙媒体と電子媒体で発信する方法について学ぶ。学芸員に必要なコミュニケーション能力、企画力、創造力、文章力、編集力、広報力の習得を目指す。地域社会における博物館の課題を自ら発見し、その解決方法についてグループ討議の中で提案する。	(1) 学芸員資格取得に必要な知識や技能と課題解決能力を身に付ける。 (2) 博物館(特に美術館)における資料の取り扱いを円滑に行う技能を身に付ける。「常設展示」や「企画展示」の手順と実務について説明することができる。 (3) 「常設展示」や「企画展示」の運営に必要な紙媒体(図録・ポスター等)と電子媒体(ホームページ等)のコンテンツを作成する能力を習得する。 (4) 「常設展示」や「企画展示」の実施における課題発見と課題解決について提案することができる。 (5) 博物館による社会貢献、国際貢献という目標を学び、博物館の現場において必要とされる職業人意識を持つことができる。 (6) 博物館による社会貢献について市民と協働する意識を持つことができる。	○	◎	●	
		ミュージアム実習Ⅱ	実習	3	3			企画展の実施運営や教育普及活動など学芸員業務の実践的な経験や訓練を積む。	この科目は学芸員の資格のための科目として、カリキュラム・ポリシーで謳う、「問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する」に位置づけられる。博物館(特に美術館)における「企画展示」並びにギャラリートークなど「教育普及活動」の実務について学ぶ。「展示」をメディアとしてとらえる視点に立ち、その情報内容を紙媒体と電子媒体で実際に発信する。学芸員に必要なコミュニケーション能力、企画力、創造力、文章力、編集力、広報力の発揮に挑戦する。地域社会における博物館の課題を自ら発見し、その解決案をグループで発表する。	(1) 学芸員資格取得に必要な知識技能と課題解決能力を身に付ける。 (2) 博物館(特に美術館)における「企画展示」と「教育普及活動」の手順と実務について説明することができる。 (3) 博物館運営に必要な紙媒体(図録・ポスター等)と電子媒体(ホームページ等)のコンテンツを作成する能力を身に付ける。 (4) 「企画展示」や「教育普及活動」の実施における課題発見と課題解決について提案することができる。 (5) 博物館による社会貢献、国際貢献という目標を学び、博物館の現場において必要とされる職業人意識を持つことができる。 (6) 博物館による社会貢献について市民と協働する意識を持つことができる。	○	◎	●	